ＦＤ活動報告書

関西大学大学院会計研究科

（会計専門職大学院）

第５号

平成 21 年度（春・秋学期）

関西大学大学院会計研究科

教務・ＦＤ委員会

平成 22 年３月

目　　次

はじめに　1

Ⅰ　授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法
(1) 対象科目 …… 2
(2) 実施方法 …… 2
(3) 分析方法 …… 2
(4) フィードバック方法 …… 2
(5) 対象科目リスト …… 3

Ⅱ　21 年度春学期授業評価アンケート結果概要 …… 7

Ⅲ　21 年度秋学期授業評価アンケート結果概要 …… 39

Ⅳ　21 年度授業評価アンケートフォーム …… 99

Ⅴ　講演会 …… 105

はじめに

FD 活動は日常的に教育改善を行うのに必須の活動である。本研究科では、教育内容の改善に向けて、不断の努力を行っている。とはいえ、教育効果は教授者と学習者の双方のインターラクションの在り方に依存するという関係にある。そこで、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価を行ってきた。この授業評価は FD 活動の柱となってきている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及び FD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

繰り返しになるが、以上のような授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD 活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002 年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受けることを意識して普段から教育水準の維持・向上に努めている。

ＦＤ報告書第１号は、本研究科には１年次生のみであったことと FD 報告書の取りまとめのタイミングの関係で、平成 18 年度春学期に開催されたすべての１年次配当科目に対する授業評価を収録した。ＦＤ報告書第２号は、１年次配当科目・２年次配当科目すべての講義を開講しており、授業評価アンケートをすべての講義で実施し、平成 18 年度秋学期科目と平成 19 年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、昨年度の FD 報告書第３号では、平成 19 年度の秋学期科目のみ収録することとした。そして FD 報告書第４号から当該年度の１年分の科目を収録することとした。これら４冊の報告書は自己点検評価報告書第 2 号（平成 21 年 3 月）とともに分野別認証評価に際して提供された。本研究科はこの認証評価ですべての基準を満たし、認定会計大学院の称号を得た。本報告者は分野別認証評価後の最初の報告書である。

以上の授業評価に加えて、①一昨年度から１年次・２年次で共通問題による試験を年度末に行い、試験結果をＦＤ活動に反映させることとした、②スタッフによる教科書作成を企画し、可能なものから発行していること、③学生の学習力の差に配慮したカリキュラム内外での対応を実施していること、④本研究科の教育顧問や客員教授による有益なセミナーを実施していること、⑤非常勤講師等とのコミュニケーションの充実をはかり教授者のインセンティブを高めていること、⑥これらに関して日常的に話し合いの場を設けていること、など具体的に FD 活動を充実させてきた。

すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、この FD 報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。

平成 22 年 3 月

会計研究科長　柴　健次

授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

（1）対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 21 年度の春学期と秋学期に開講されたすべての授業科目を対象としている（次頁参照)。

（2）実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施ししている。

個別演習科目であるアカデミック・ソリューション、プロフェッショナル・ソリューション、論文指導・修士論文を除き、すべての科目が 15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（個別演習科目では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に返却され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

（3）分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

（4）フィードバック方法

専任教員が担当する科目では、各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付している。

(5)対象科目リスト(索引)

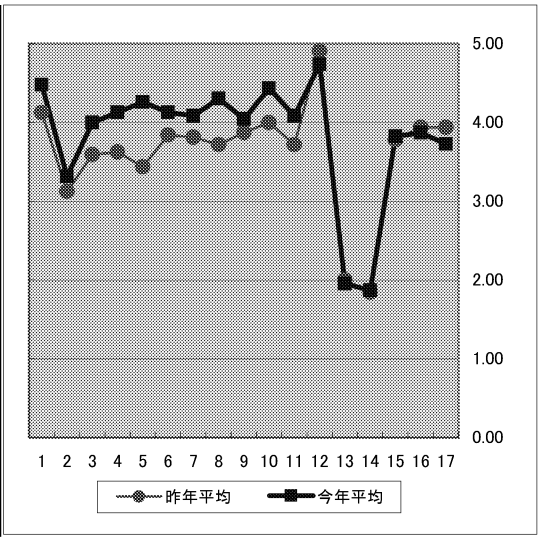
類別			授業科目	単位	配当年次	開講学期/頁	
						春学期	秋学期
基本科目群	横断科目	必修科目	会計専門職業倫理	2	2	7	39
	理論科目		上級簿記	2	1	8	40
			上級財務会計論＜財務会計論＞	2	1	9	41
			上級原価計算論	2	1	10	42
			上級管理会計論	2	1	11	43
			監査制度論	2	1	12	44
			監査基準	2	1	13	45
			企業法＜企業法入門＞	2	1	14	46
発展科目群	横断科目	選択必修科目	会計専門職業数学	2	1	15	－
	理論科目		会計基準論	2	1	－	47
			会計制度論	2	1	16	－
			財表作成簿記＜特殊簿記＞	2	1	－	－
			戦略管理会計論	2	1	－	48
			上級税務会計論	2	1	－	－
			租税法会計論	2	1	－	－
			公会計理論	2	1	－	－
			監査実施論	2	1	－	49
			監査報告論	2	1	－	50
			商法	2	1	17	－
			中級会社法＜会社法＞	2	1	－	51
			民法(総則・物権)＜民法＞	2	1	－	－
			経営学理論	2	1	－	－
			実践経営管理論	2	1	－	－
			インベストメント論	2	1	－	－
			コーポレート・ファイナンス論	2	1	－	52
			ミクロ経済学	2	1	－	53
			統計学	2	2	－	－
			国際会計基準論	2	2	－	54
			国際会計制度論	2	2	18	－
			企業分析論	2	2	19	－
			コストマネジメント論	2	2	－	55
			上級税務戦略論	2	2	－	－
			公監査論	2	2	－	－
			政府・自治体会計論	2	2	－	56
			国際監査制度論	2	2	－	－
			金融商品取引法＜証券取引法＞	2	2	－	－
			上級会社法	2	2	20	－
			租税法理論＜租税法＞	2	2	－	－
			民法(債権)	2	2	21	－
			経営戦略論	2	2	－	－
			経営組織論	2	2	－	－
			インベスター・リレーションズ論	2	2	－	－
			資本市場論	2	2	22	－
			マクロ経済学	2	2	23	－
	実践科目		会計事例研究	2	1	24	－
			管理会計事例研究	2	1	－	－
			監査事例研究	2	1	－	57
			BATIC演習	2	1	－	58
			IFRS実務	2	1	－	59
			基本会計プログラム演習	2	1	－	－
			基本監査プログラム演習	2	1	－	60
			ディスクロージャー実務	2	2	－	61
			税務会計事例研究	2	2	－	－
			企業法判例演習〈判例演習〉	2	2	－	－
			起業・株式公開事例研究	2	2	－	－
			実践会計プログラム演習	2	2	－	62
			実践監査プログラム演習	2	2	－	－
	個別演習科目	選択必修科目	アカデミック・ソリューションA〈アカデミック・ソリューション〉	1	1	25-32	－
			アカデミック・ソリューションB〈アカデミック・ソリューション〉	1	1	－	63-70
			プロフェッショナル・ソリューション			75-82	
			論文指導・修士論文	4	2	83-84	

類別			授業科目	単位	配当年次	開講学期/頁	
						春学期	秋学期
応用科目群	横断科目	選択科目	特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向)	2	1・2	－	－
			特殊講義(りそな銀行寄付講座クーンアラウンド論)	2	1・2	－	－
	理論科目		英文会計論	2	2	－	－
			会計戦略論	2	2	－	－
			無形資産会計論	2	2	33	－
			金融商品会計論	2	2	34	－
			企業結合会計	2	2	－	71
			企業価値マネジメント論＜企業価値計算論＞	2	2	－	－
			会計情報システム	2	2	－	－
			国際税務戦略論	2	2	－	－
			非営利会計論	2	2	35	－
			国際公会計制度論	2	2	－	72
			保証業務論	2	2	36	－
			内部監査論	2	2	－	－
			不正摘発監査論	2	2	－	－
			法人税法	2	2	－	－
			行政法	2	2	－	－
			プロダクト・マネジメント論	2	2	－	－
			国際経営論	2	2	－	－
			リスク分析論	2	2	－	－
			中小企業金融論	2	1・2	－	－
			国際財務戦略論	2	2	－	73
			公共経済学	2	2	－	74
			XBRL論	2	2	－	－
	実践科目		国際会計事例研究	2	2	－	－
			国際管理会計事例研究	2	2	－	－
			国際税務会計事例研究	2	2	－	－
			公会計・公監査事例研究	2	2	－	－
			国際監査事例研究	2	2	－	－
			企業再生事例研究	2	2	－	－
			リサーチ・メソドロジー	2	2	－	－
			国際コミュニケーション論	2	2	－	－
会計系科目	平均		財務会計系			85	
			管理会計系			86	
			税務会計系			－	
			公会計系			87	
			監査系			88	
非会計系科目	平均		法律系			89	
			経営系			－	
			ファイナンス系			90	
			経済・統計系			91	
			IT・ビジネススキル系			92	
			個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)			93	
			個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)			94	
			個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューション)			95	
系別平均						96	

Ⅱ. 21 年度春学期 授業評価アンケート結果概要

科　　目：会計専門職業倫理
配当年次：2　　開講時限：火1
受講者数：25　　回答者数：23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.13	4.48	5	5	1
2	3.13	3.32	3	5	3
3	3.59	4.00	4	5	3
4	3.63	4.13	5	5	3
5	3.44	4.26	4	5	1
6	3.84	4.13	4	5	2
7	3.81	4.09	4・5	5	2
8	3.72	4.30	4	5	1
9	3.88	4.04	4	5	2
10	4.00	4.43	5	5	1
11	3.72	4.09	5	5	1
12	4.91	4.74	5	5	1
13	2.00	1.96	1	5	1
14	1.84	1.87	1	5	1
15	3.78	3.83	4	5	1
16	3.94	3.87	4	5	2
17	3.94	3.73	4	5	1
回答者数	32	23			



受講生の傾向
会計士以外の職業を目指す者も少なくないが、常識としての職業倫理に興味を示す受講生が多かった。

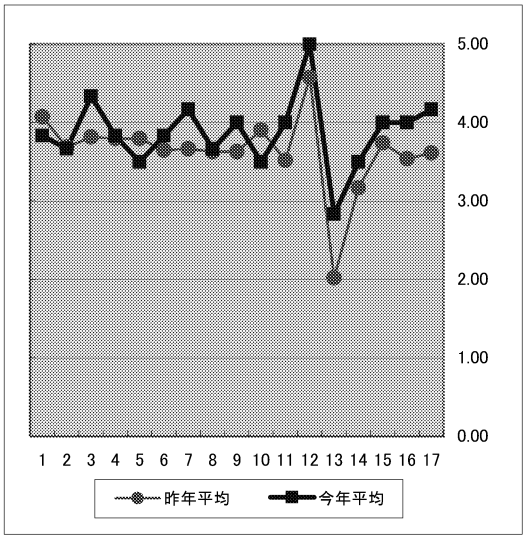
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
予習・復習の有無、答練については点数が低いが、授業の特質上当然のことだと認識している。レジュメを見直し内容的に充実させる試みを行った。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
班単位の発表等を採り入れたのは良かったと思う。同じ方法を引き続き採用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
班単位のディスカッションや発表の方式は成功だった。続けることとする。

科　　目：上級簿記
配当年次：1　　開講時限：木2・3
受講者数：46　　回答者数：6

質問№.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	3.83	4	5	1
2	3.69	3.67	3	5	3
3	3.81	4.33	4	5	4
4	3.80	3.83	4	4	3
5	3.80	3.50	4	4	2
6	3.65	3.83	4	4	3
7	3.67	4.17	4	5	4
8	3.63	3.67	3	5	3
9	3.63	4.00	4	5	3
10	3.91	3.50	3・4	5	2
11	3.52	4.00	4	5	3
12	4.57	5.00	5	5	5
13	2.02	2.83	2	5	1
14	3.17	3.50	3	5	3
15	3.74	4.00	4	5	3
16	3.54	4.00	2・3・4	5	3
17	3.61	4.17	4	5	3
回答者数	54	6			



受講生の傾向
講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。
教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多かった。
問題演習の時間には、ほぼ全員が真剣に取り組んでいた。
取引の仕訳等の基本的な問題の正答率は、全体的に高かった。
財務諸表の作成等を念頭においた総合的な問題の正答率は、それほど高くなかった。

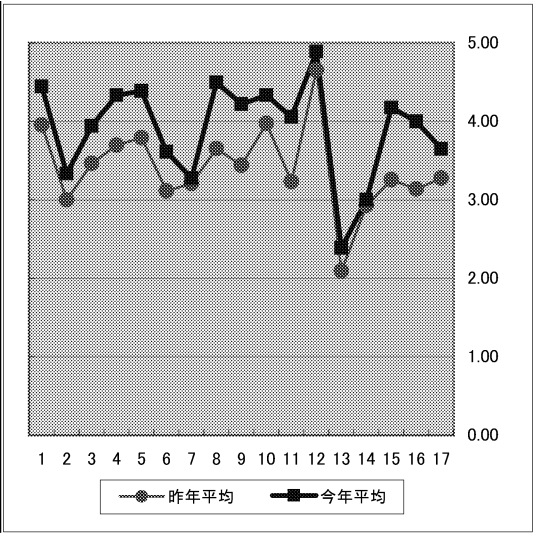
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
パワーポイントとオリジナル問題を講義資料として配布し、これを中心とした講義を展開した。
講義資料は、会計処理の考え方と計算過程を詳しく示し、計算には丁寧な解説を付すなど、受講生の理解を促すことを念頭において作成した。暗記よりも理解させることに力点をおき、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。
会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、重要な部分は講義中に該当箇所を指示して確認させるなど、受講生に原文を見て勉強することの大切さを実感してもらえるようにした。
ボリュームのある講義内容は分割して論点を限定し、問題演習の時間をより多く確保した。
問題演習の時間に受講生の質問を受け付け、個々人の理解度に応じてその場で疑問を解消できるようにした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
会計基準等の原文や講義資料の解説をよく読んで内容をしっかりと理解し、基礎力を確かなものとするように指導していく。
テクニカルに問題を解くのではなく、会計処理の考え方や計算の意味を十分に理解した上で問題を解くように指導していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
取引を仕訳するだけでなく、その仕訳が財務諸表にどのような影響を与えるのかを意識するように指導していく。
総合的な問題の学習方法は、簿記一巡の流れに従って反復練習を繰り返すことが大切であることを指導していく。

科　　目：上級財務会計論
配当年次：1　　開講時限：金2、火3
受講者数：34　　回答者数：19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.95	4.44	4	5	4
2	3.00	3.33	3・4	4	2
3	3.47	3.94	4	5	2
4	3.70	4.33	4・5	5	3
5	3.79	4.39	5	5	2
6	3.12	3.61	4	5	2
7	3.21	3.28	3	5	2
8	3.65	4.50	5	5	3
9	3.44	4.22	4	5	3
10	3.98	4.33	5	5	3
11	3.23	4.06	4	5	3
12	4.65	4.89	5	5	4
13	2.09	2.39	2	4	1
14	2.93	3.00	2	5	1
15	3.26	4.18	4	5	4
16	3.14	4.00	4	5	3
17	3.28	3.65	3	5	1
回答者数	43	19			



受講生の傾向
受講生のレベルに2極分化現象が見られたが、全体としては講義の進行とともにレベルの向上が伺えた。
しかし、最終局面に至って、前半部分の講義内容が身についていないことが判明した。

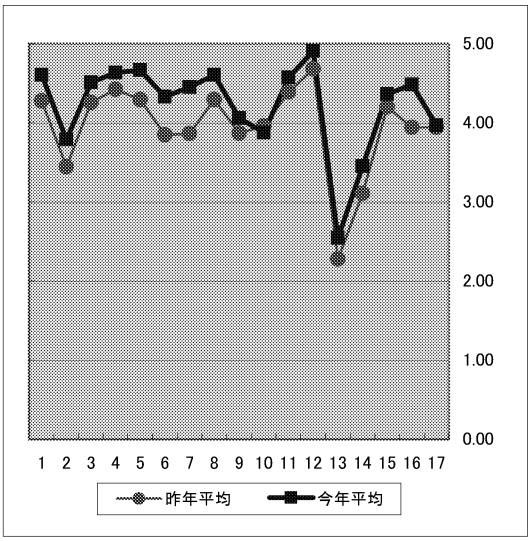
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
前半の抽象レベルの解説を簡略化し、後半に具体性のある内容を追加した。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
財務会計の根底にある会計の機能と制度の関係及び概念フレームワークと会計基準の関係の習熟に努める。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
抽象性のレベルに具体性を加味するのが今後の課題である。

科　　目：上級原価計算論
配当年次：1　　開講時限：月2・3
受講者数：50　　回答者数：33

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.61	5	5	4
2	3.44	3.79	3	5	2
3	4.26	4.52	5	5	4
4	4.43	4.64	5	5	4
5	4.30	4.67	5	5	4
6	3.85	4.33	4	5	3
7	3.87	4.45	5	5	3
8	4.30	4.61	5	5	4
9	3.87	4.06	4	5	3
10	3.96	3.88	4	5	1
11	4.39	4.58	5	5	4
12	4.69	4.91	5	5	4
13	2.28	2.55	1	5	1
14	3.11	3.45	3	5	1
15	4.20	4.36	4	5	2
16	3.94	4.48	4	5	4
17	3.94	3.97	4	5	1
回答者数	54	33			



受講生の傾向
日商簿記検定2級工業簿記などの基本的な知識を身につけている学生が比較的に多かった。

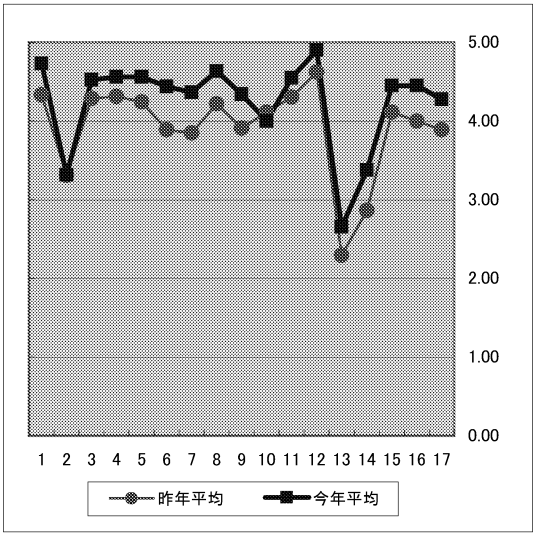
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
工業簿記など比較的に基本的な知識を身に付けた学生が多かったので、レギュラーの項目のほかにより
高度な知識をレクチャーした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
体系的なテキストを出版したため、これを利用して効率的にフォローしていく予定である。
テキスト：加登豊編『インサイト原価計算』中央経済社

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
原価計算の総合問題の構造などを中心に今後も学生の状況に合わせて授業を進めていきたい。

科　　目：上級管理会計論
配当年次：1　　開講時限：金2・火3
受講者数：49　　回答者数：41

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.73	5	5	4
2	3.31	3.32	3	5	1
3	4.29	4.53	5	5	3
4	4.31	4.56	5	5	4
5	4.24	4.56	5	5	3
6	3.89	4.44	5	5	3
7	3.85	4.37	5	5	2
8	4.22	4.63	5	5	3
9	3.91	4.34	5	5	3
10	4.11	4.00	4	5	1
11	4.30	4.55	5	5	3
12	4.62	4.90	5	5	4
13	2.30	2.66	1・2	5	1
14	2.86	3.38	3	5	1
15	4.11	4.45	5	5	4
16	4.00	4.45	4	5	3
17	3.89	4.28	4	5	1
回答者数	46	41			



受講生の傾向
基本的な知識を身につけているものの、管理会計に初めて本格的に接する学生が比較的に多かった。

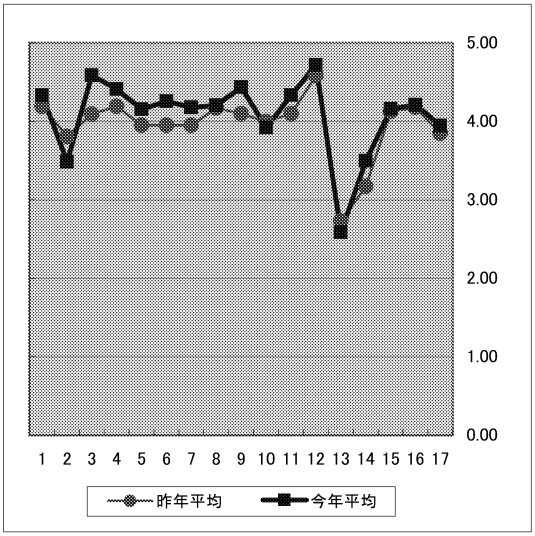
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
比較的に基本的な用語や知識を身に付けた学生が多かったので、レギュラーの項目のほかにより高度な知識をレクチャーした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
体系的なテキストを利用して対応する予定である。
なお、テキストは今年度に出版されている。
テキスト：加登豊編『インサイト管理会計』中央経済社

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
管理会計の各トピックで設定されている状況などをふまえ、今後も学生の状況に合わせて授業を進めていきたい。

科　　目：監査制度論（春学期）
配当年次：1　　開講時限：火2、金3
受講者数：47　　回答者数：39

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.19	4.33	5	5	1
2	3.81	3.49	3	5	2
3	4.10	4.59	5	5	3
4	4.19	4.41	5	5	2
5	3.95	4.15	5	5	1
6	3.95	4.26	4	5	3
7	3.95	4.18	5	5	1
8	4.17	4.21	5	5	1
9	4.10	4.44	5	5	2
10	4.00	3.92	4	5	1
11	4.10	4.33	5	5	1
12	4.59	4.72	5	5	4
13	2.73	2.59	2	5	1
14	3.17	3.50	3	5	1
15	4.13	4.16	5	5	1
16	4.18	4.21	4	5	1
17	3.85	3.95	4	5	1
回答者数	43	39			



受講生の傾向

基本科目（必修科目）群に属するという関係上、受講生の出席率はかなり高く85～93%となっている。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間が昨年度より減少しており1時間（項目13）と短く、復習時間も向上は見られるものの1時間半（項目14）となっているため、相変わらず望ましい情況とは言えない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

制度改正等に伴う箇所や不備のあった箇所などを改訂したパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了する（1週間）ごとに、前2回分の理解度を確認するためとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。最終的に、6回分の小テスト実施→添削→返却（講評）を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方（重要論点の抽出と一貫した論旨の展開）を習得できるように、去年以上に心懸けた。この結果、項目2と10を除く全ての授業に関連した評価項目で昨年度を上回っている。

今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

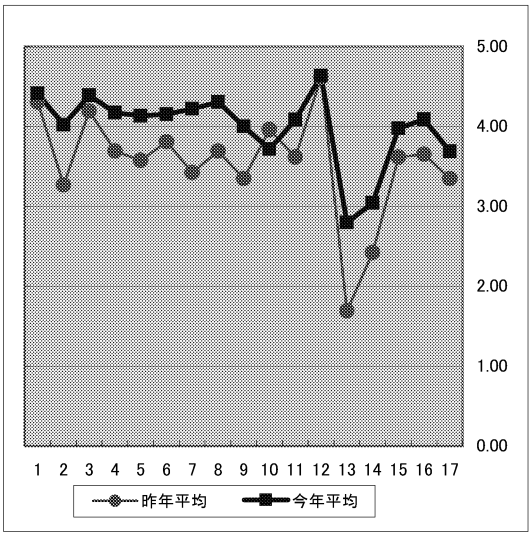
こちらの期待に反して、受講生の側での予習・復習の時間が相対的に少ないため、復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習の時間を確保させるために小テスト返却時に最低限度の講評とともに、成績優秀者数名の答案を学籍番号・氏名を伏してコピーし全員に配布するようにした。この結果、若干ではあるが、受講生のモラールの向上に貢献したのか、昨年度に比べると小テストに備えた復習の時間に増加が見られた。

科　　目：監査基準
配当年次：1　　開講時限：水2
受講者数：54　　回答者数：46

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.31	4.41	5	5	3
2	3.27	4.02	3・4	5	3
3	4.19	4.39	5	5	3
4	3.69	4.17	5	5	2
5	3.58	4.13	5	5	2
6	3.81	4.15	5	5	2
7	3.42	4.22	5	5	3
8	3.69	4.30	4・5	5	3
9	3.35	4.00	5	5	2
10	3.96	3.72	4・5	5	1
11	3.62	4.09	5	5	1
12	4.62	4.64	5	5	3
13	1.69	2.80	3	5	1
14	2.42	3.04	3	5	1
15	3.62	3.98	5	5	1
16	3.65	4.09	4・5	5	2
17	3.35	3.69	4	5	1
回答者数	26	46			



受講生の傾向
質問に来る等、熱心な学生が多かった。

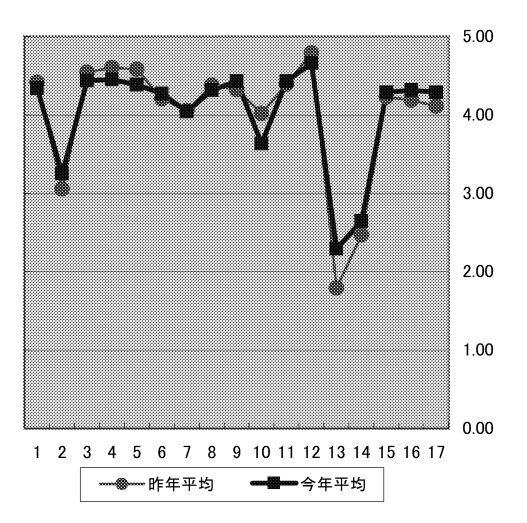
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
具体例を多く引用した。
オープンに質問を受け付けるようにした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
（担当者変更のため）N/A

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
予習・復習をあまり必要としないと感じているようであるが、必須科目でもあるため、今後は、課題を与える等の工夫をしたい。

科　　目：企業法
配当年次：1　　開講時限：火2、金3
受講者数：55　　回答者数：45

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.34	4・5	5	2
2	3.06	3.25	3	5	2
3	4.55	4.44	5	5	2
4	4.60	4.45	5	5	2
5	4.58	4.39	5	5	2
6	4.21	4.27	4	5	2
7	4.06	4.05	4	5	2
8	4.38	4.32	5	5	2
9	4.32	4.43	5	5	2
10	4.02	3.64	4	5	1
11	4.40	4.43	5	5	2
12	4.79	4.66	5	5	1
13	1.79	2.30	1	5	1
14	2.47	2.65	2	5	1
15	4.23	4.29	5	5	2
16	4.19	4.32	5	5	2
17	4.12	4.29	4	5	2
回答者数	53	45			



受講生の傾向
授業内容としては、企業法の基礎を扱うものであるから、難易度は高くないようである。
ただ、法学を始めて学習する学生も多く、専門用語ないし法学独特の言い回りが少しわかりずらいところも見られた。

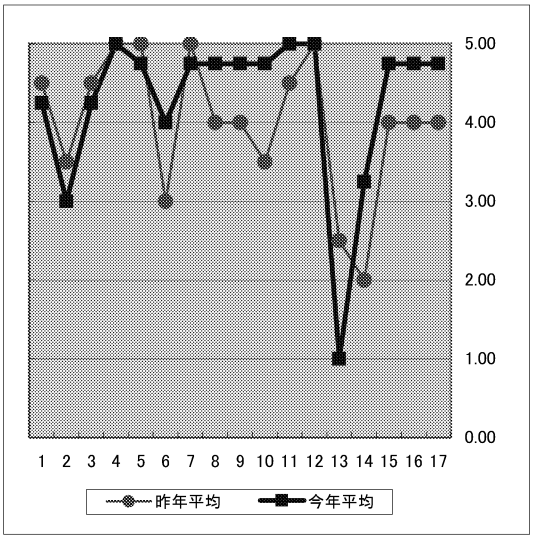
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
会社法の根本的な考え方を習得してもらうことに心がけた。
とりわけ、会社法の趣旨を徹底的に理解してもらうことに努めた。
その反面、会社法の規制内容については中級会社法に譲ることとした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
企業法については、範囲が広いので、もう少し範囲を絞った授業にして学生理解を助け、扱わない範囲については、それぞれ他の授業（商法や金融商品取引法など）にゆだねるようにしたい。
引き続き補習授業は続けるが、もっと多くの学生に参加してもらいたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
この科目は企業法に関連する科目の基礎的な位置づけとなるので、会社法の根底に流れる基本的な考え方を徹底的に理解してもらえるような授業にしたい。

科　　目：会計専門職数学
配当年次：1　　開講時限：土2
受講者数：9　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.25	5	5	3
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.50	4.25	5	5	3
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.75	5	5	4
6	3.00	4.00	4	4	3
7	5.00	4.75	5	5	4
8	4.00	4.75	5	5	4
9	4.00	4.75	5	5	4
10	3.50	4.75	5	5	4
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.50	1.00	1	1	1
14	2.00	3.25	3	5	2
15	4.00	4.75	5	5	4
16	4.00	4.75	5	5	4
17	4.00	4.75	5	5	4
回答者数	53	4			



受講生の傾向
会計専門職業数学は、経済学、経営学、会計学を専攻する学生が受講する科目である。つまり、最近の経済学、経営学、会計学では基礎的な数学の知識が必要であるからである。一般的に、文系の学生は数学が得意ではないが、この授業はほとんど大学での数学を知らない学生であっても、できるだけ理解できるように解説する。したがって、多くの学生が受講してきている。

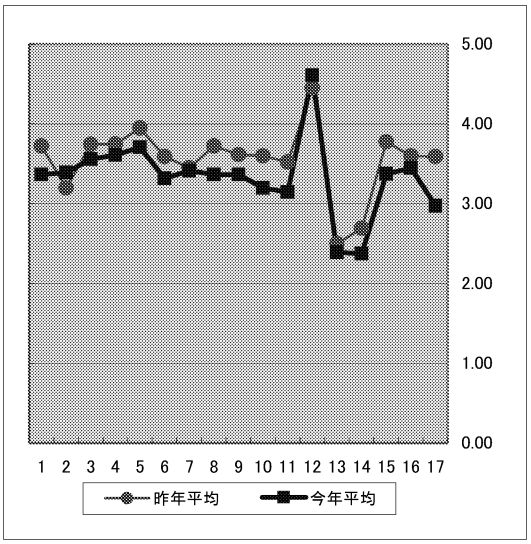
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
数式はできるだけ簡単なものにして、経済学、経営学、会計学で用いる応用例を用いて受講生に解説しているので、かなり理解度は高いと思っている。また、よく宿題を出して、次回に受講生にその回答を黒板で説明させている。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
会計専門職数学は、経済学、経営学、会計学の分析の基礎となっているので、それらの科目の理解にも有益であることを院生に周知するように努めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
受講生は、最初思っていたよりも授業が簡単で分かりやすいので、回を重ねる毎に、かなり興味を持ってきている。会計専門職業数学は経済学、経営学、会計学の基礎となるので、今後は一人でも多くの学生が受講してくれるように工夫したい。

科　　目：会計制度論
配当年次：1　　開講時限：金4
受講者数：53　　回答者数：41

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.73	3.37	4	5	1
2	3.20	3.39	4	5	2
3	3.74	3.56	4	5	1
4	3.75	3.61	4	5	1
5	3.95	3.71	4	5	1
6	3.59	3.32	4	5	1
7	3.45	3.41	4	5	1
8	3.73	3.37	3・4	5	1
9	3.62	3.37	4	5	1
10	3.60	3.20	4	5	1
11	3.53	3.15	4	5	1
12	4.45	4.61	5	5	1
13	2.50	2.39	3	5	1
14	2.69	2.38	2	5	1
15	3.78	3.38	4	5	1
16	3.60	3.45	4	5	1
17	3.59	2.98	3	5	1
回答者数	40	41			



受講生の傾向
昨年同様に受講姿勢・理解度に分散が見られる。評価項目全体についてみるとそれほど評価が高くない。これはここ数年の評価と類似している。最重点の「考える」学習が必ずしも受け入れられない実態の反映とみることも可能である。

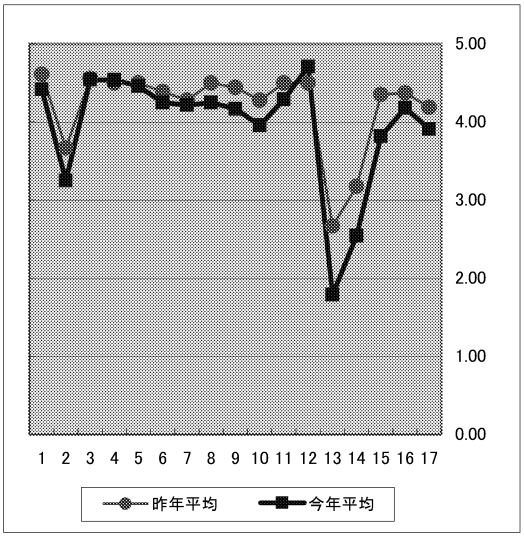
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
講義中に具体的な質問をぶつけ、それぞれの答えの違いを解説し、どのように考えていくかを実演したが、こうした方法には反応が分かれることがより鮮明になった。すなわち、この方法により積極的に授業に参加し理解を高める学生がいる一方で、どうやら黙って講義を聞いていたいという消極的姿勢の学生にストレスを与えているように思える。二極分解する受講生の問題は次年度に持ち越された。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「考えろというばかりでは改善しないので、具体的な訓練法を開発し、これを提供する。」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
「考える」学習の効果を引き出すように「考える」方法を示す方式を明年度も実施する。

科　　目：商法
配当年次：1　　開講時限：火1
受講者数：42　　回答者数：24

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.61	4.42	5	5	2
2	3.67	3.25	3	5	2
3	4.56	4.54	5	5	3
4	4.50	4.54	5	5	3
5	4.50	4.46	5	5	1
6	4.39	4.25	4	5	2
7	4.28	4.22	5	5	2
8	4.50	4.25	4・5	5	3
9	4.44	4.17	4	5	2
10	4.28	3.96	4	5	1
11	4.50	4.29	5	5	2
12	4.50	4.71	5	5	2
13	2.67	1.79	2	3	1
14	3.18	2.55	2・3	5	1
15	4.35	3.82	4	5	1
16	4.38	4.18	4	5	4
17	4.19	3.91	4	5	1
回答者数	18	24			



受講生の傾向
今年度は商法という科目（会社法と異なり、公認会計士試験では短答式でのみ出題される科目）であるにもかかわらず、受講生が４２人と多かった。
学生の商法に対する興味が高くなったこともあるかもしれないが、公認会計士試験の短答式試験を意識する学生が多かったと思われる。

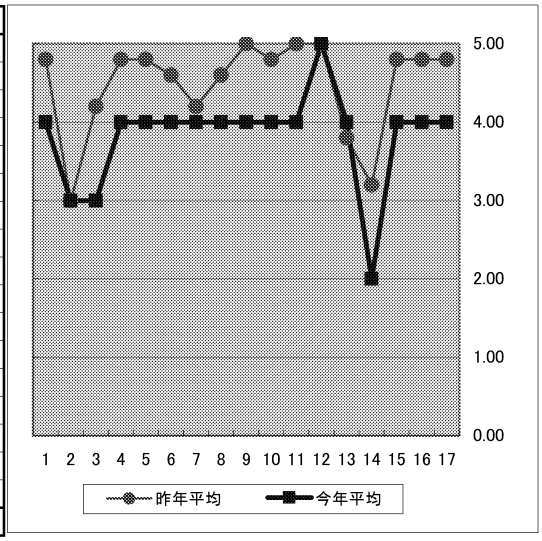
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
民法の知識がないことを前提に授業を行わなければならないが、民法の特別法である商法の学習には民法の理解が必要不可欠であり、基本的な民法の解説をしたうえで、商法について説明することによって、商法の性質および特徴を理解してもらうことを心がけた。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
商法は、会社法よりも範囲が狭いので、企業法での商法に関する基本的な学習がなくても、完結できるようにしたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
時間の関係上困難かもしれないが、もっと深い内容、具体的にはもっと多くの判例や学説などを授業の中に盛り込んでいきたい。

科　　目：国際会計制度論
配当年次：2　　開講時限：水2
受講者数：5　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.20	3.00	3	3	3
4	4.80	4.00	4	4	4
5	4.80	4.00	4	4	4
6	4.60	4.00	4	4	4
7	4.20	4.00	4	4	4
8	4.60	4.00	4	4	4
9	5.00	4.00	4	4	4
10	4.80	4.00	4	4	4
11	5.00	4.00	4	4	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.80	4.00	4	4	4
14	3.20	2.00	2	2	2
15	4.80	4.00	4	4	4
16	4.80	4.00	4	4	4
17	4.80	4.00	4	4	4
回答者数	5	1			



受講生の傾向
受講生の学習意欲は非常に高い。

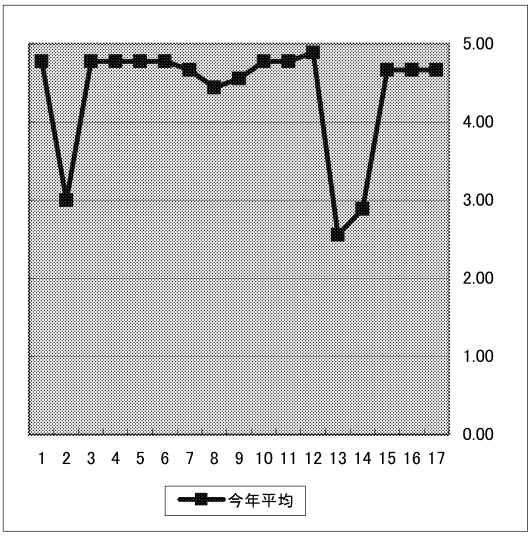
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
問題意識を明確にするために、プレゼンテーション中心の講義形式を展開した。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
激動する国際会計制度の現実を第1次情報に基づいて展開する。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
前年度と同様の方針で展開する。

科　　目：企業分析論
配当年次：2　　開講時限：木3
受講者数：11　　回答者数：9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.78	5	5	4
2	−	3.00	3	3	3
3	−	4.78	5	5	4
4	−	4.78	5	5	4
5	−	4.78	5	5	4
6	−	4.78	5	5	4
7	−	4.67	5	5	4
8	−	4.44	5	5	3
9	−	4.56	5	5	3
10	−	4.78	5	5	4
11	−	4.78	5	5	4
12	−	4.89	5	5	4
13	−	2.56	3	3	1
14	−	2.89	3	5	2
15	−	4.67	5	5	3
16	−	4.67	3	5	4
17	−	4.67	3	5	4
回答者数	−	9			



受講生の傾向
まじめに熱心に授業に参加していた。受験とは関係がない科目であるが、将来の進路を意識して真剣に取り組んでいた。

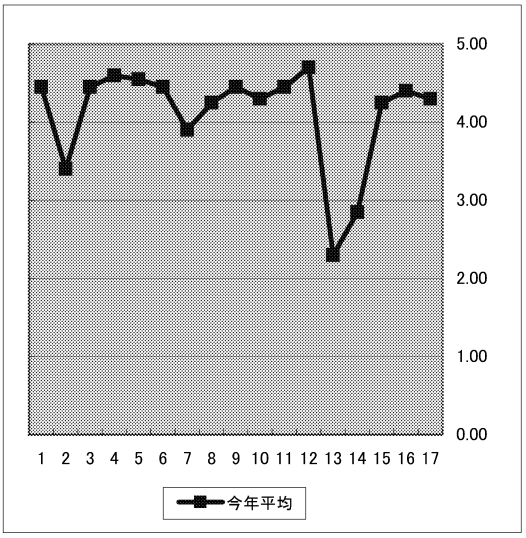
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
１年だけの担当だったが、できる限り、受講生の将来に役立つようにとの工夫を行ったつもりである。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科　　目：上級会社法
配当年次：2　　開講時限：木2
受講者数：27　　回答者数：20

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.45	4	5	4
2	－	3.40	3	5	3
3	－	4.45	5	5	3
4	－	4.60	5	5	4
5	－	4.55	5	5	3
6	－	4.45	4	5	4
7	－	3.90	4	5	1
8	－	4.25	4	5	3
9	－	4.45	5	5	3
10	－	4.30	4	5	3
11	－	4.45	5	5	3
12	－	4.70	5	5	3
13	－	2.30	1	5	1
14	－	2.85	3	5	1
15	－	4.25	5	5	2
16	－	4.40	5	5	1
17	－	4.30	5	5	3
回答者数	－	20			



受講生の傾向
受講生が27人とあまり多人数ではなかったが、熱心に受講していた。
内容が高度で速度も速いので、授業についてくるのが困難な学生がいた。

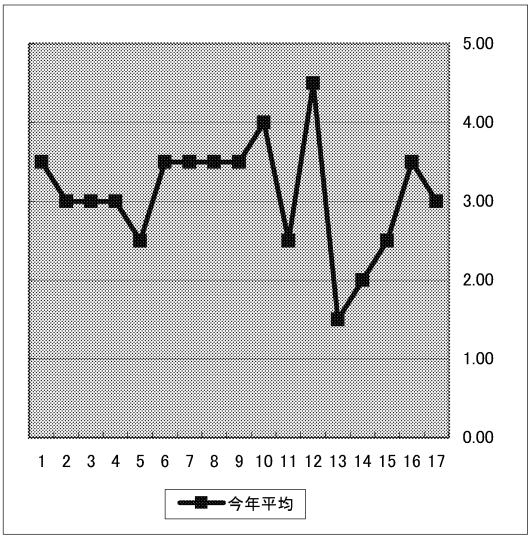
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
この科目はこの年度より開講された科目であるため、昨年度との比較はできない。
この授業において気をつけたこととして、中級会社法から連続する科目であるため、中級会社法の内容を学生が理解できているか否かを確認したうえで、より高度な内容に踏み込むということに配慮した。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
（今年度から開講された授業である）

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
授業のレベルが高くなるので、中級会社法の復習および予習をしっかりしておかなければ、授業についてくることが困難である旨を学生に徹底する必要がある。

科　　目：民法（債権）
配当年次：2　　開講時限：水3
受講者数：3　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	3.50	3・4	4	3
2	―	3.00	3	3	3
3	―	3.00	2・4	4	2
4	―	3.00	2・4	4	2
5	―	2.50	2・3	3	2
6	―	3.50	3・4	4	3
7	―	3.50	3・4	4	3
8	―	3.50	3・4	4	3
9	―	3.50	3・4	4	3
10	―	4.00	4	4	4
11	―	2.50	2・3	3	2
12	―	4.50	4・5	5	4
13	―	1.50	1・2	2	1
14	―	2.00	2	2	2
15	―	2.50	2・3	3	2
16	―	3.50	3・4	4	3
17	―	3.00	2・4	4	2
回答者数	―	2			



受講生の傾向
受講生は3名であったが、全員、民法の初学者であった。そのため、債権法を理解するのは、少し難しかったのではないかと思われる。

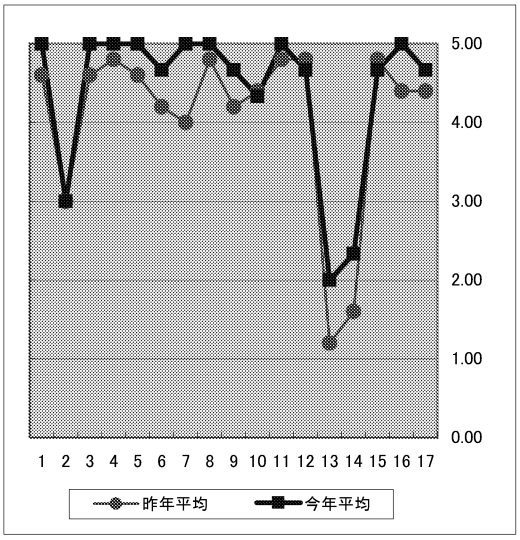
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
昨年度も、講義の冒頭において、前回の講義の復習問題を受講生に解答させていた。今年度は、その問題の数を増やすとともに、時間をかけて受講生に質問をしたり、意見を述べさせたりしている。これにより、初学者の受講生qを含めて、理解が深まることを期待している。ただ、講義の時間が少なくなり、昨年度よりも進行が遅くなっているのが、悩みである。また、講義に使う教科書は、内田貴教授の基本書を指定しているが、分量が多く、内容も高度であるため、教科書に沿った形で講義をすることができていない。そこで、内容より基本的な教科書に変えるのがよいと考えており、今年度の秋学期の総則・物権から変更したいと考えている。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科　　目：資本市場論
配当年次：2　　開講時限：金1
受講者数：3　　回答者数：3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.60	5.00	5	5	5
4	4.80	5.00	5	5	5
5	4.60	5.00	5	5	5
6	4.20	4.67	5	5	4
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.80	5.00	5	5	5
9	4.20	4.67	5	5	4
10	4.40	4.33	4	5	4
11	4.80	5.00	5	5	5
12	4.80	4.67	5	5	4
13	1.20	2.00	1・2・3	3	1
14	1.60	2.33	2	3	2
15	4.80	4.67	5	5	4
16	4.40	5.00	5	5	5
17	4.40	4.67	5	5	4
回答者数	5	3			



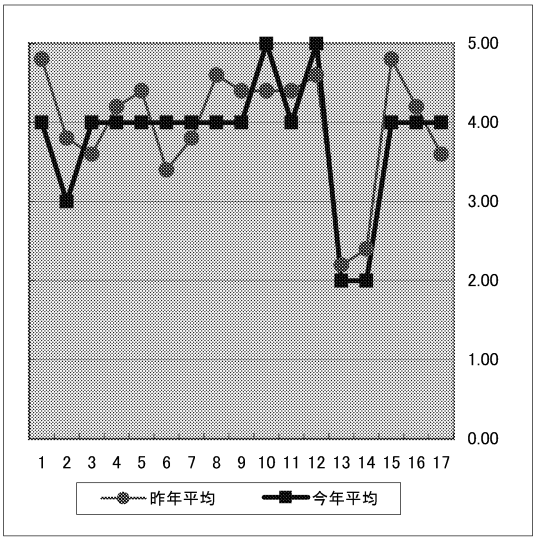
受講生の傾向
公認会計士試験に直接関係のない科目であり、将来を見据え自らの専門性を高めるべく受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
授業の事前準備をより入念に行い、説明のポイントやディスカッションさせるべき内容等を事前に準備した。小レポートを毎回提出されるようにするとともに、適宜ディスカッションを行わせて、当日のポイントを再度確認させるようにした。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
授業の準備をより入念に行うとともに、最新の状況について講義できるべく、さまざまな機会を捉えて勉強を行う。小レポートやディスカッションに工夫を行って、毎回、重要なポイントを理解かつ応用可能なように指導して行く。
〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
当該対応を今後も継続したい。

科　　目：マクロ経済学
配当年次：2　　開講時限：土4
受講者数：9　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.00	4	4	4
2	3.80	3.00	3	3	3
3	3.60	4.00	4	4	4
4	4.20	4.00	4	4	4
5	4.40	4.00	4	4	4
6	3.40	4.00	4	4	4
7	3.80	4.00	4	4	4
8	4.60	4.00	4	4	4
9	4.40	4.00	4	4	4
10	4.40	5.00	5	5	5
11	4.40	4.00	4	4	4
12	4.60	5.00	5	5	5
13	2.20	2.00	2	2	2
14	2.40	2.00	2	2	2
15	4.80	4.00	4	4	4
16	4.20	4.00	4	4	4
17	3.60	4.00	4	4	4
回答者数	5	1			



受講生の傾向
マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済学の基礎をなす経済理論の一つである。マクロ経済学では、国民所得、雇用、利子率などの普段マスコミでよく見られる経済用語を分析に用いるので、受講生はミクロ経済学よりも早く理解すると言える。特に、会計士になってからも世界経済や日本経済の動きを理解するのに役立つマクロ経済学には強い関心を示して授業に出席している。

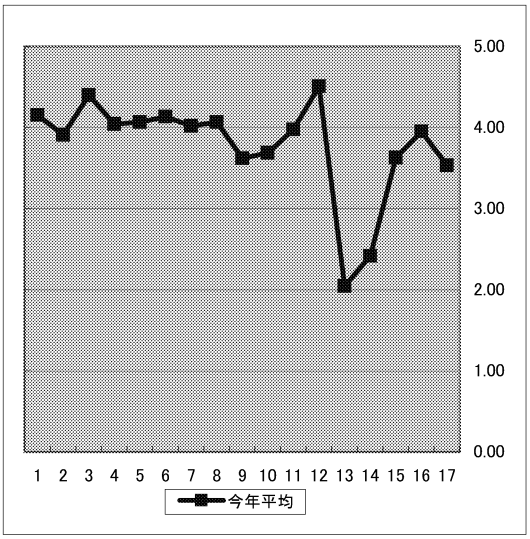
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
世界経済、日本経済の実情を理論的に理解するために、理論だけでなく、実際の経済の動きを授業の時に解説することによって、受講生の関心を強めるように工夫した。さらに、数式をできる限り使わないで、図を用いて受講生に分かりやすく説明した。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
マクロ経済学は、ミクロ経済学と異なり、受講生には理解しやすい経済理論であるので、基礎的なマクロ経済学の知識を講義したあとで、できるだけ多くの宿題や練習問題に取り組ませるようにする。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
はじめは基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、次にマクロ経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、宿題、練習問題、模擬試験を取り上げ、受講生に各自で考えて答を出させるようにして、受講生の学力を引き上げる。

科　　目：会計事例研究
配当年次：1　　開講時限：水3
受講者数：60　　回答者数：45

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.16	5	5	2
2	ー	3.91	3	5	2
3	ー	4.40	5	5	2
4	ー	4.04	5	5	2
5	ー	4.07	5	5	2
6	ー	4.13	5	5	2
7	ー	4.02	4	5	2
8	ー	4.07	5	5	1
9	ー	3.62	3	5	2
10	ー	3.69	4	5	1
11	ー	3.98	5	5	2
12	ー	4.51	5	5	1
13	ー	2.04	1	5	1
14	ー	2.42	2	5	1
15	ー	3.63	4	5	1
16	ー	3.95	5	5	1
17	ー	3.53	3	5	1
回答者数	ー	45			



受講生の傾向
人数が多かったため、教室も広く、なかなか全員を集中させることが難しかった。

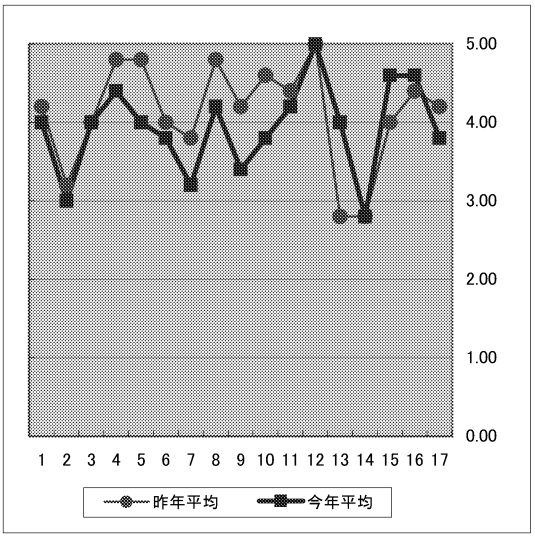
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
N/A

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
N/A

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
スピードが速いという意見があるので、初学者（1年次）であることを考慮して、もう少し理解を深めながら進めるようにしたい。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（柴クラス）
配当年次：1　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.00	3・5	5	3
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.00	4.00	4	5	3
4	4.80	4.40	4	5	4
5	4.80	4.00	4	5	3
6	4.00	3.80	3・4	5	3
7	3.80	3.20	3	4	3
8	4.80	4.20	4・5	5	3
9	4.20	3.40	3	4	3
10	4.60	3.80	4	4	3
11	4.40	4.20	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.80	4.00	3・5	5	3
14	2.80	2.80	3	5	1
15	4.00	4.60	5	5	3
16	4.40	4.60	5	5	4
17	4.20	3.80	4	4	3
回答者数	5	5			



受講生の傾向
同じ人数での比較であるが昨年度は12名中の5名の回答であり今年度は全員の回答である。評価点は対前年比で減少している項目が多いが、項目13の学生による予習時間が大幅に伸びるとともに、項目15と項目16のように学生の満足度が上昇している。

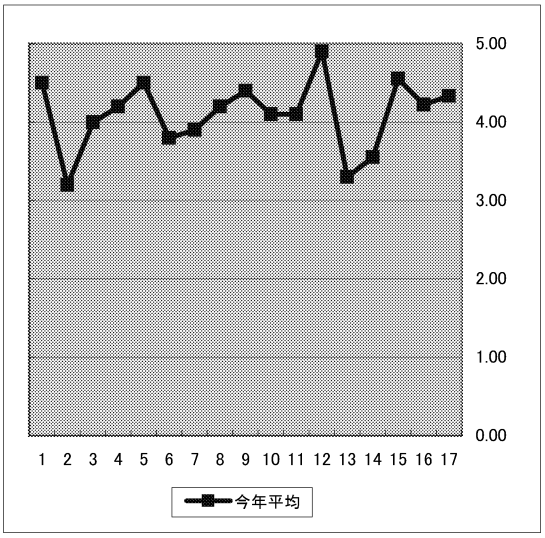
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
昨年度は成績下位層を対象とし簿記会計の入門から復習を行ったが、今年度はそのような制約の無い中での応募学生を対象としたので、全員に対して徹底的に質問を浴びせ、答えられるように訓練した。春学期は財務会計の基礎的内容の徹底的理解に重点を置いた。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「明年度は募集の方針が再度変わるので、履修者の水準に合わせてやや負担感のある作業を与えるようにする」と記載した。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今年度の演習方法が効果的であるのでこの方法を継続する。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（清水クラス）
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：10　　回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.50	4・5	5	4
2	ー	3.20	3	4	3
3	ー	4.00	4	5	3
4	ー	4.20	4	5	2
5	ー	4.50	4・5	5	4
6	ー	3.80	4	5	1
7	ー	3.90	3	5	3
8	ー	4.20	4	5	3
9	ー	4.40	5	5	3
10	ー	4.10	4	5	3
11	ー	4.10	4	5	3
12	ー	4.90	5	5	4
13	ー	3.30	3	4	2
14	ー	3.56	4	5	2
15	ー	4.56	5	5	4
16	ー	4.22	4	5	3
17	ー	4.33	4・5	5	3
回答者数	ー	10			



受講生の傾向
企業会計の基礎を対象とする講座であった。受講生には概ね真面目、大人しい、ディスカッションが苦手といった傾向が見られた。

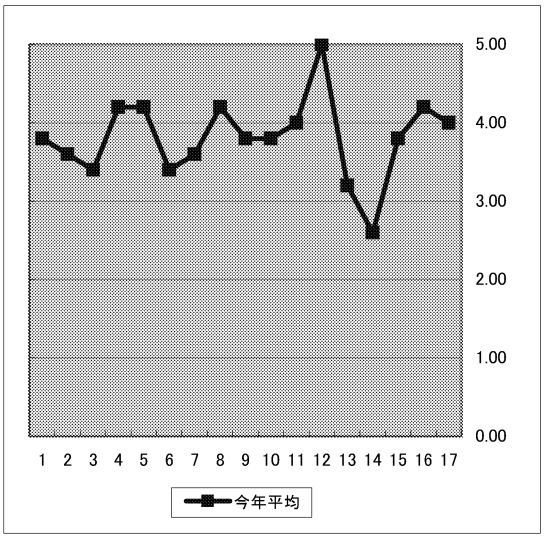
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
演習等を増やす。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
実際の成績向上につながっているかどうか確認する機会をより多く設ける。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
順番にレジュメを作成し発表することに加え、成果の逐次確認やディスカッション等をする機会を設ける。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（松本クラス）
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	3.80	5	5	2
2	―	3.60	4	4	3
3	―	3.40	4	4	2
4	―	4.20	4・5	5	3
5	―	4.20	4・5	5	3
6	―	3.40	3	4	3
7	―	3.60	3	5	3
8	―	4.20	4・5	5	3
9	―	3.80	3・4	5	3
10	―	3.80	3・4	5	3
11	―	4.00	4	5	3
12	―	5.00	5	5	5
13	―	3.20	5	5	1
14	―	2.60	1	5	1
15	―	3.80	3・4	5	3
16	―	4.20	4・5	5	3
17	―	4.00	4	5	3
回答者数	―	5			



受講生の傾向
全員がまじめに100%出席した。

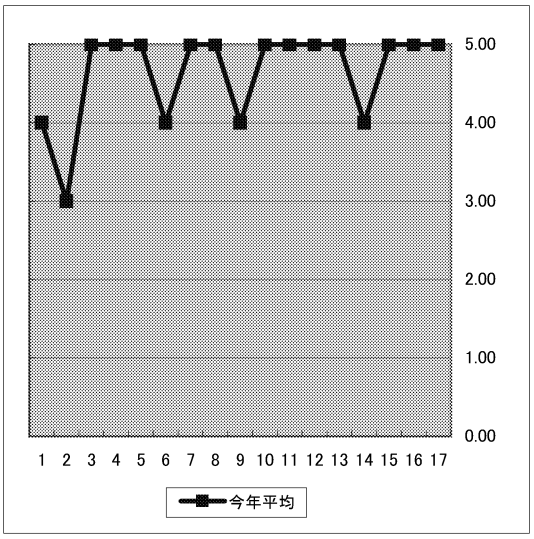
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
次年度においても、今年度と同様に個別的な対応を指向したい。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（宮本クラス）
配当年次：1　　開講時限：土5
受講者数：4　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.00	4	4	4
2	―	3.00	3	3	3
3	―	5.00	5	5	5
4	―	5.00	5	5	5
5	―	5.00	5	5	5
6	―	4.00	4	4	4
7	―	5.00	5	5	5
8	―	5.00	5	5	5
9	―	4.00	4	4	4
10	―	5.00	5	5	5
11	―	5.00	5	5	5
12	―	5.00	5	5	5
13	―	5.00	5	5	5
14	―	4.00	4	4	4
15	―	5.00	5	5	5
16	―	5.00	5	5	5
17	―	5.00	5	5	5
回答者数	―	1			



受講生の傾向
アカデミック・ソリューションAでは、ミクロ経済学の消費の理論、生産の理論、市場の理論を中心に初歩的な授業を展開するので、経済学や基礎的な数学に関心を持つ非常に熱心で優秀な受講生ばかりであった。したがって、15回の講義にほとんど欠席はなかった。

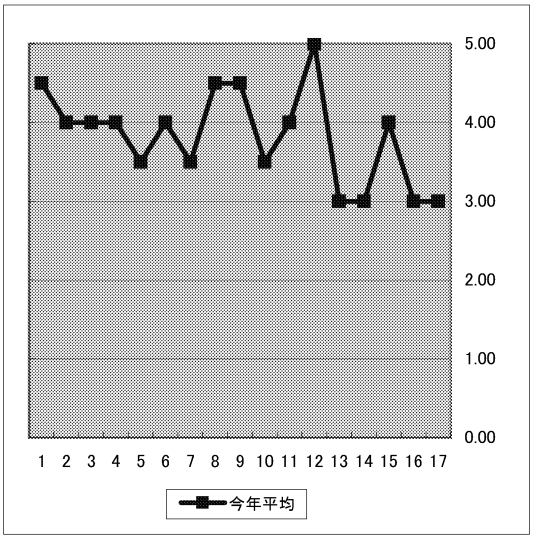
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
これまでの授業アンケートによると、「授業は非常によく理解できるが、模擬試験の問題などを解くのは少し難しいと感じた」との意見もあったので、授業と模擬試験を繋ぐ意味で、過去の公認会計士の試験問題などを例題として取り上げて、解法に関して詳細に解説をした。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
学部時代に経済学の基礎的知識を習得した受講生と、経済学部以外から進学してきた院生との間に、初期の段階でやや学力差が見られたので、最初はできる限り初心者にも理解できるような内容で講義を行う。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
最初は、基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば授業の回数を重ねるにつれて徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで学力を引き上げる。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（宗岡クラス）
配当年次：1　　開講時限：木5
受講者数：8　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.50	4・5	5	4
2	―	4.00	4	4	4
3	―	4.00	4	4	4
4	―	4.00	4	4	4
5	―	3.50	3・4	4	3
6	―	4.00	4	4	4
7	―	3.50	3・4	4	3
8	―	4.50	4・5	5	4
9	―	4.50	4・5	5	4
10	―	3.50	3・4	4	3
11	―	4.00	4	4	4
12	―	5.00	5	5	5
13	―	3.00	3	3	3
14	―	3.00	3	3	3
15	―	4.00	4	4	4
16	―	3.00	3	3	3
17	―	3.00	3	3	3
回答者数	―	2			



受講生の傾向
公認会計士の受験の前段階として簿記1級を取得しようという呼びかけに呼応して入ってきた学生であり、当初の意気込みは大きかった。しかしながら、これまでの学習進度の差並びに能力差が大きくあり、ますます勉強を進める学生と一種のあきらめを感じる学生に大きく2分していった。

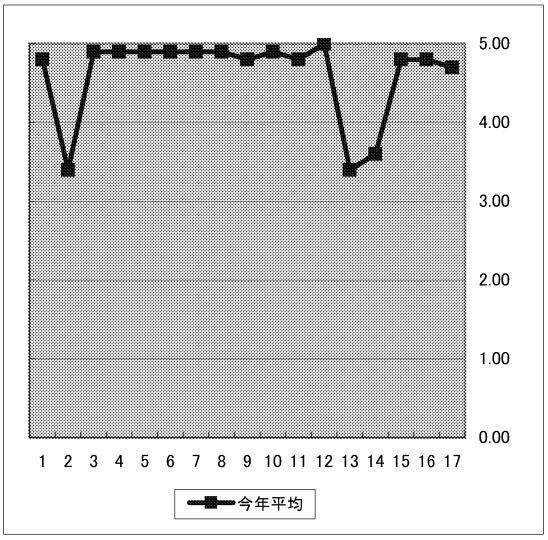
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
学習進度が遅く、能力の高くない学生に対しては、個別指導的に対応することで、途中で挫折することなく学習を進めていくこととしたい。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（坂口クラス）
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：10　　回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.80	5	5	4
2	ー	3.40	3	5	1
3	ー	4.90	5	5	4
4	ー	4.90	5	5	4
5	ー	4.90	5	5	4
6	ー	4.90	5	5	4
7	ー	4.90	5	5	4
8	ー	4.90	5	5	4
9	ー	4.80	5	5	4
10	ー	4.90	5	5	4
11	ー	4.80	5	5	4
12	ー	5.00	5	5	5
13	ー	3.40	5	5	1
14	ー	3.60	4・5	5	1
15	ー	4.80	5	5	4
16	ー	4.80	5	5	4
17	ー	4.70	5	5	3
回答者数	ー	10			



受講生の傾向
個人により学習の進捗度に差があり多様性が見受けられた。

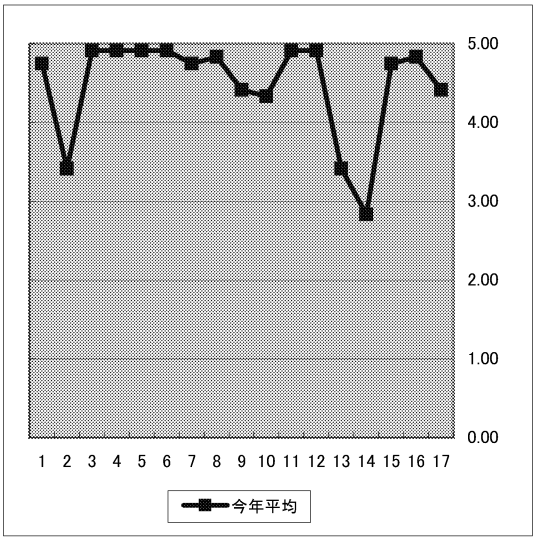
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
学生のニーズに出来るだけ合わせられるように基礎的なことと高度なことを織り交ぜて進めた。具体的には
疑似的なケースを利用して議論した。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
学生の進捗状況に応じた柔軟な対応をこれからもとっていきたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今後も学生の状況を見て取り組んでいきたい。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（三島クラス）
配当年次：1　　開講時限：木5
受講者数：13　　回答者数：12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.75	5	5	4
2	―	3.42	3	5	3
3	―	4.92	5	5	4
4	―	4.92	5	5	4
5	―	4.92	5	5	4
6	―	4.92	5	5	4
7	―	4.75	5	5	4
8	―	4.83	5	5	4
9	―	4.42	5	5	3
10	―	4.33	5	5	2
11	―	4.92	5	5	4
12	―	4.92	5	5	4
13	―	3.42	3	5	2
14	―	2.83	3	5	1
15	―	4.75	5	5	3
16	―	4.83	5	5	4
17	―	4.42	5	5	2
回答者数	―	12			



受講生の傾向
アカデミック・ソリューションとしては、受講者が１３人と人数が多かった。
個々の学生に対して、細かな指導ができているかどうか不安はあったが、授業に関してはおおむね満足は得られたようだ。

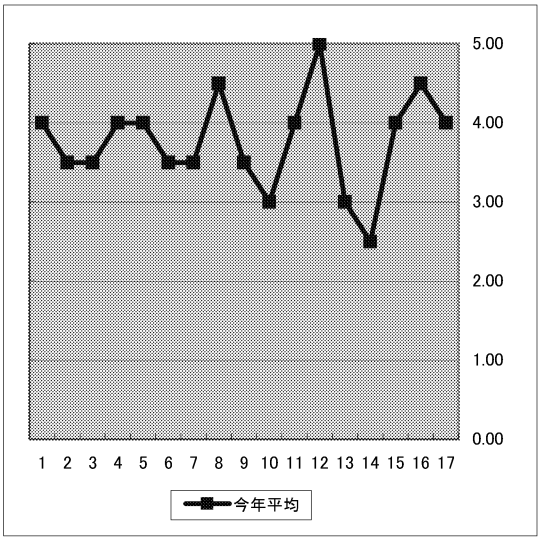
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
学生同士の議論が積極的に行われるように配慮した。
具体的には、これまでは教員の側で進行をしていたが、学生に任せるなどを試みた。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
１年間で学生のレベルはかなり上昇するので、それに応じた教材を作っていきたい。
学生による積極的な発言はあるものの、学生間でも討論はあまり見られないので、学生間討論をもっと活発にしたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
学生間の議論はまだまだ不足しているように思われる。
より一層、学生主導のソリューションとしていきたい。

科　　目：アカデミック・ソリューションA（松尾クラス）
配当年次：1　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.00	4	4	4
2	―	3.50	3・4	4	3
3	―	3.50	3・4	4	3
4	―	4.00	4	4	4
5	―	4.00	4	4	4
6	―	3.50	3・4	4	3
7	―	3.50	3・4	4	3
8	―	4.50	4・5	5	4
9	―	3.50	3・4	4	3
10	―	3.00	2・4	4	2
11	―	4.00	4	4	4
12	―	5.00	5	5	5
13	―	3.00	2・4	4	2
14	―	2.50	2・3	3	2
15	―	4.00	4	4	4
16	―	4.50	4・5	5	4
17	―	4.00	4	4	4
回答者数	―	2			



受講生の傾向
アカデミック・ソリューションは受講生の問題意識に差がある。

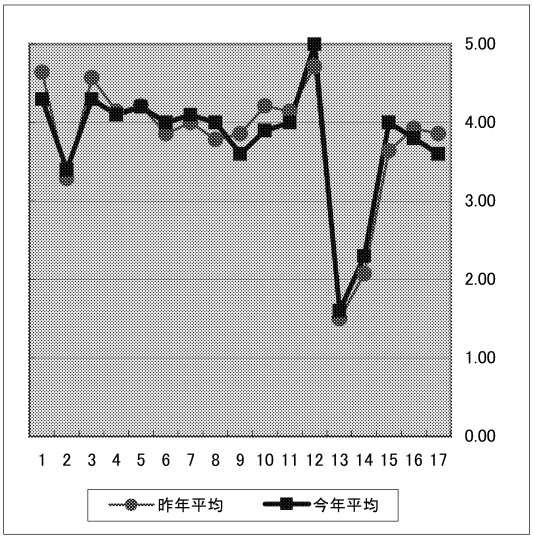
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
アカデミック・ソリューションはCPA試験財務会計論出題範囲を完全にカバーするように努める。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
CPA試験財務会計論出題範囲の完全カバーに努める。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
昨年と同様の方式を踏襲する。

科　　目：無形資産会計論
配当年次：2　　開講時限：火2
受講者数：13　　回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.30	4	5	4
2	3.29	3.40	3	4	3
3	4.57	4.30	4	5	4
4	4.14	4.10	4	5	2
5	4.21	4.20	4	5	2
6	3.86	4.00	4	5	2
7	4.00	4.10	4	5	3
8	3.79	4.00	4	5	3
9	3.86	3.60	4	4	2
10	4.21	3.90	4	5	1
11	4.14	4.00	4	5	2
12	4.71	5.00	5	5	5
13	1.50	1.60	1	3	1
14	2.07	2.30	2	4	1
15	3.64	4.00	4	5	2
16	3.93	3.80	4	5	1
17	3.86	3.60	4	4	1
回答者数	14	10			



受講生の傾向
講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で、遅参者は少なかった。
定期的に行った小テストでは、文章表現力に問題はあるものの、内容的に質の高い答案が多く、講義内容を理解できている様子であった。
教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている受講生が多く、私語はほとんどない状態であった。

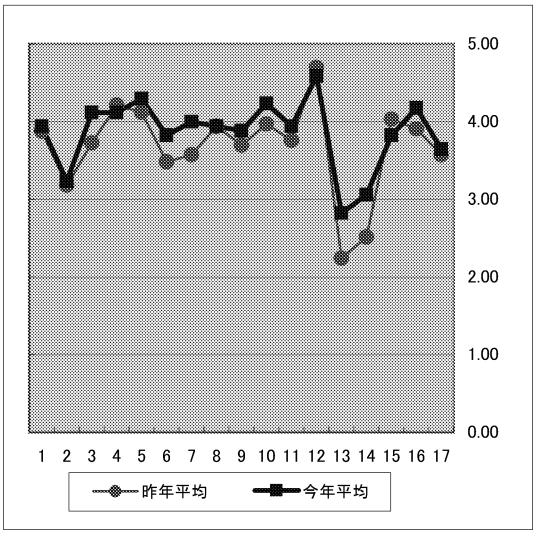
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
パワーポイントを利用した講義を展開し、考え方の手順を分かりやすくスライド形式で示した。
暗記よりも理解させることに力点をおき、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。
会計基準等の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、受講生に原文を見るように促した。
現行基準の概要を説明するだけでなく、歴史的な論争や基準設定の経緯、国際的な改定動向等を示すことで、現行基準に対する理解が深まるようにした。
教員の問題意識を提示し、無形資産会計の将来的な展望を講義内容に含めることで、受講生の興味関心を高めるようにした。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。
コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供していく。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。
コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供していく。

科　　目：金融商品会計論
配当年次：2　　開講時限：月4
受講者数：21　　回答者数：17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.88	3.94	5	5	2
2	3.18	3.24	3	5	1
3	3.73	4.12	5	5	2
4	4.21	4.12	5	5	1
5	4.12	4.29	5	5	2
6	3.48	3.82	4・5	5	1
7	3.58	4.00	5	5	1
8	3.94	3.94	5	5	2
9	3.70	3.88	4・5	5	1
10	3.97	4.24	5	5	1
11	3.76	3.94	5	5	1
12	4.70	4.59	5	5	1
13	2.24	2.82	3	5	1
14	2.52	3.06	3・4	5	1
15	4.03	3.82	4・5	5	1
16	3.91	4.18	5	5	1
17	3.58	3.65	3	5	1
回答者数	33	17			



受講生の傾向
評価結果から見る限り昨年度対比でやや好転している。その結果は予習復習の時間が増えていることからも確認できる。受講生が半減していることは意欲ある学生の比率が上昇していることを暗示する。

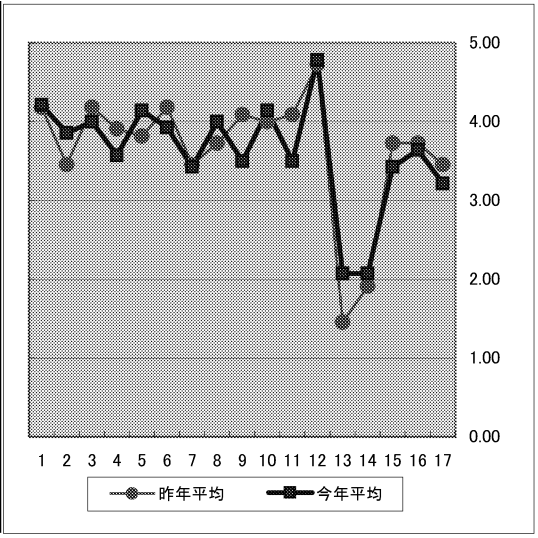
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
この科目は会計の基本科目ではない。受講生は基本の学習を終えている。にもかかわらず理解度が人により理解度が大きく分かれる。会計の対象である取引を会計処理のパターンとして理解する者と、取引そのものを理解しようとする者の姿勢の差が理解度に影響している。そこで、今年度は金融商品そのものを理解させるための説明を多くした。さらに、金融取引は割引現在価値にて等価であるという点を計算を通じて実感させた。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「よりいっそう進度を落として、講義中に考える時間を増やすことを試みる。一般的傾向であるが、あとは自分でできるだろうという考えで諸資料を提供しても、復習しないようであるので、この点を重視して工夫する必要がある。」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
会計のセンスは経済・経営への理解度を高めることによって生まれると言う点を強調して講義するように心がける。

科　　目：非営利会計論
配当年次：2　　開講時限：火3
受講者数：19　　回答者数：15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.21	4・5	5	2
2	3.45	3.86	4	5	3
3	4.18	4.00	5	5	1
4	3.91	3.57	4	5	1
5	3.82	4.14	5	5	2
6	4.18	3.93	4	5	3
7	3.45	3.43	4	5	2
8	3.73	4.00	4	5	3
9	4.09	3.50	4	5	1
10	4.00	4.14	4	5	2
11	4.09	3.50	4	5	1
12	4.73	4.79	5	5	4
13	1.45	2.07	1・2	4	1
14	1.91	2.07	2	4	1
15	3.73	3.43	4	5	1
16	3.73	3.64	3・4・5	5	1
17	3.45	3.21	4	5	1
回答者数	11	15			



受講生の傾向
興味のあるなしに拘わらず、「どんなものか見てみたい」という好奇心から、或いは単位取得のためか、受講生数は予想以上に多かった（10名程度）

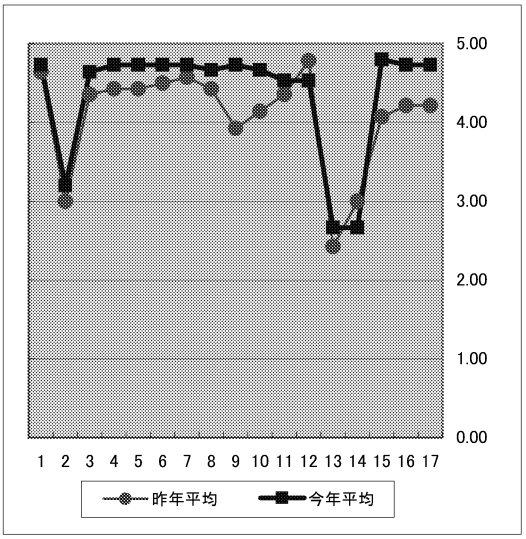
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
毎回テーマを明確にするなどメリハリをつけた講義にすること。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
内容的にさらにブラッシュアップするとともに、分かりやすい授業にするよう心掛けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
最近の傾向、企業会計との関係等、全体的な流れの中で詳細に講義していく方法を模索する。

科　　目：保証業務論
配当年次：2　　開講時限：火4
受講者数：18　　回答者数：15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.73	5	5	4
2	3.00	3.20	3	5	2
3	4.36	4.64	5	5	4
4	4.43	4.73	5	5	4
5	4.43	4.73	5	5	4
6	4.50	4.73	5	5	4
7	4.57	4.73	5	5	3
8	4.43	4.67	5	5	4
9	3.93	4.73	5	5	3
10	4.14	4.67	5	5	4
11	4.36	4.53	5	5	2
12	4.79	4.53	5	5	2
13	2.43	2.67	2・3	5	1
14	3.00	2.67	2・3	5	1
15	4.07	4.80	5	5	4
16	4.21	4.73	5	5	4
17	4.21	4.73	5	5	4
回答者数	14	15			



受講生の傾向
本科目は、基本科目の「監査制度論」とその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラールの高い学生が集まっていることから、出席率が85%以上となっている。
授業に対する取り組みも比較的積極的で、職業会計人として将来的に保証業務に積極的に取り組んでもらえることが期待できる（項目15・16・17）。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
本講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに評価させた。
この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目（情報収集の程度や情報分析の程度等）について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。

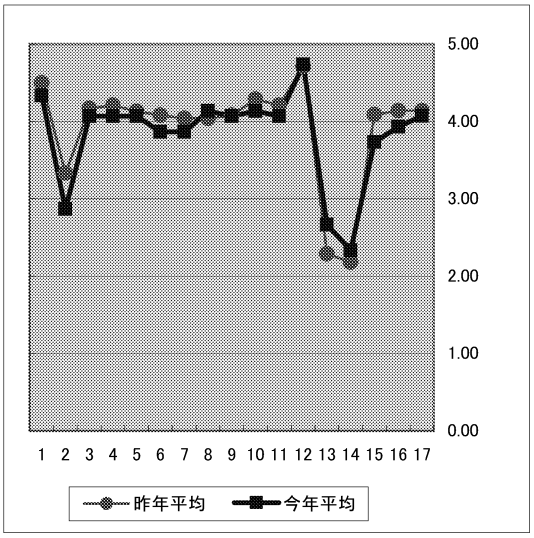
今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
本科目で採る講義スタイルであれば、前半における保証業務の枠組みや内容に関する理解度が完全になされていない場合、後半における保証業務の提案書の精緻さや説得力に反映されない。従って、前半における座学による講義スタイルの段階で、一定の教育効果を確認するための方策が必要かもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
前半終了時、及び保証業務提案書作成前に、質疑応答の機会を別途設けた。

Ⅲ. 21 年度秋学期 授業評価アンケート結果概要

科　　目：会計専門職業倫理
配当年次：2　　開講時限：月3
受講者数：26　　回答者数：16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.33	5	5	3
2	3.33	2.87	3	3	2
3	4.17	4.07	4	5	3
4	4.21	4.07	4	5	3
5	4.13	4.07	4	5	3
6	4.08	3.87	4	5	3
7	4.04	3.87	4	5	3
8	4.04	4.13	4	5	3
9	4.08	4.07	4	5	3
10	4.29	4.13	4	5	3
11	4.21	4.07	4	5	3
12	4.71	4.73	5	5	3
13	2.29	2.67	2・3	5	1
14	2.18	2.33	2	5	1
15	4.09	3.73	3	5	2
16	4.14	3.93	4	5	3
17	4.14	4.07	4	5	3
回答者数	25	16			



受講生の傾向
会計士以外の職業を目指す者が多く、熱心さが感じられなかった。（これまでで一番熱心さに欠けていた）

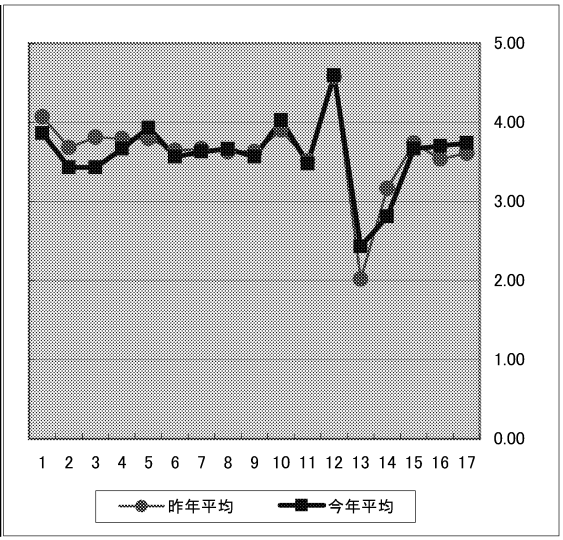
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
会計士を目指す者以外でも興味の持てる内容を考えて授業を行った。

今後の対応
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
班単位のディスカッションや発表の方式は成功だった。続けることとする。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
班単位のディスカッションや発表の方式は成功だった。続けることとする。

科　　目：上級簿記
配当年次：1　　開講時限：金2
受講者数：43　　回答者数：30

質問№.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	3.87	5	5	1
2	3.69	3.43	3	5	1
3	3.81	3.43	3	5	1
4	3.80	3.67	4	5	1
5	3.80	3.93	4・5	5	1
6	3.65	3.57	4	5	1
7	3.67	3.63	4	5	1
8	3.63	3.67	3・5	5	1
9	3.63	3.57	4	5	1
10	3.91	4.03	5	5	1
11	3.52	3.48	3	5	1
12	4.57	4.60	5	5	2
13	2.02	2.43	2	5	1
14	3.17	2.81	2・3	5	1
15	3.74	3.67	4	5	1
16	3.54	3.70	5	5	1
17	3.61	3.74	5	5	1
回答者数	32	30			



受講生の傾向

昨年度と今年度で担当者が異なるにもかかわらず評価は極めて酷似している。担当者の相違を無視できるとして、この科目の受講者は、講義の進み方が早いと感じている一方で、予習と復習に時間をかけない実態が見える。簿記は訓練こそ重要であるので講義方法等に工夫が必要に思える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度から春学期と秋学期に2度開講され、春学期を例年の担当者、秋学期を私が担当した。春秋で差が出ないように例年の担当者が実施している講義計画（講義資料も含む）に従って講義した。ただし講義内の説明まで同一にできないのでそこには個性が出ている。

今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

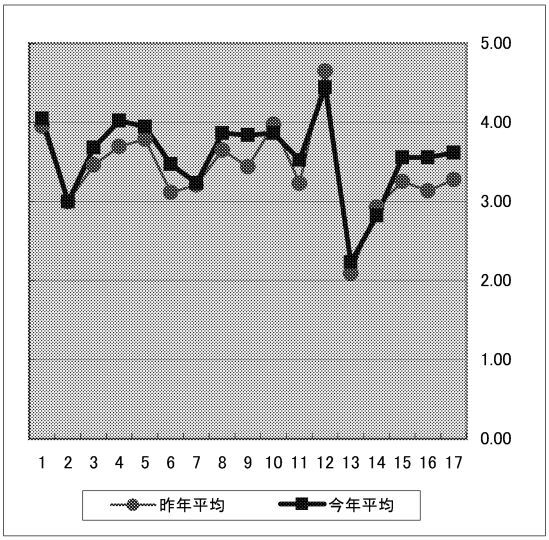
昨年度の担当者は「講義資料と講義時間の両面において、学生の理解を高めることができる工夫を凝らしていく。講義時間内にできるだけ多くの演習時間を確保し、学生の疑問を学生の理解度に応じてその場で解消できるようにする。」と記載していた。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

例年の担当者の講義方式を踏襲した結果、受身の学生を生み出すことが判明した。講義計画と講義資料を再吟味し、講義の理解度を高める工夫が必要である。その際、講義時間内に演習時間をかける方法は上級簿記には適していないので、予習・復習の評価を挿入し、学生に徹底的に負荷を高める方法を採用する必要がある。明年度は令年度の担当者が担当するので、ここでは感想にとどめ、FD等で問題点を指摘したい。

科　　目：上級財務会計論
配当年次：1　　開講時限：火3
受講者数：46　　回答者数：39

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.95	4.05	4	5	1
2	3.00	3.00	3	5	1
3	3.47	3.68	4	5	1
4	3.70	4.03	5	5	1
5	3.79	3.95	4	5	1
6	3.12	3.47	4	5	1
7	3.21	3.24	4	5	1
8	3.65	3.87	4	5	1
9	3.44	3.84	4	5	1
10	3.98	3.87	5	5	1
11	3.23	3.53	4	5	1
12	4.65	4.45	5	5	2
13	2.09	2.24	1	5	1
14	2.93	2.82	3	5	1
15	3.26	3.56	4	5	1
16	3.14	3.56	4	5	1
17	3.28	3.62	5	5	1
回答者数	43	39			



受講生の傾向

受講生のレベルに2極分化現象が見受けられたが、全体としては講義の進行とともにレベルの向上が伺えた。
しかし、最終局面に至って、前半部分の講義内容が身についてないことが判明した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前半の抽象レベルの解説を簡略化し、後半に具体性のある内容を追加した。

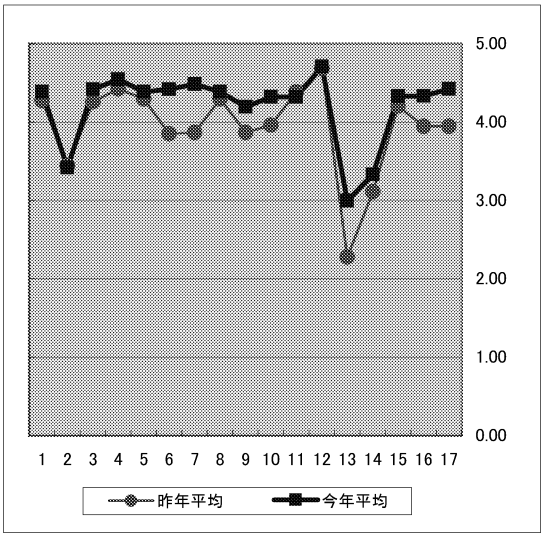
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
財務会計の根底にある会計の機能と制度の関係及び概念フレームワークと会計基準の関係の習熟に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
抽象性のレベルに具体性を加味するのが今後の課題である。

科　　目：上級原価計算論
配当年次：1　　開講時限：月3
受講者数：41　　回答者数：32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.39	5	5	1
2	3.44	3.42	3	5	2
3	4.26	4.42	5	5	3
4	4.43	4.55	5	5	3
5	4.30	4.39	5	5	2
6	3.85	4.42	5	5	2
7	3.87	4.48	5	5	3
8	4.30	4.39	5	5	3
9	3.87	4.19	5	5	2
10	3.96	4.32	5	5	2
11	4.39	4.32	5	5	2
12	4.69	4.71	5	5	3
13	2.28	3.00	4	5	1
14	3.11	3.33	4	5	1
15	4.20	4.33	5	5	2
16	3.94	4.33	5	5	2
17	3.94	4.42	5	5	2
回答者数	54	32			



受講生の傾向

日商簿記検定の工業簿記2級の知識も十分ではなく、基礎的な知識から学習する必要のある学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基礎的な項目を中心にレクチャーを進め、講義の根本となるものに出来るだけ時間を割くように努力した。

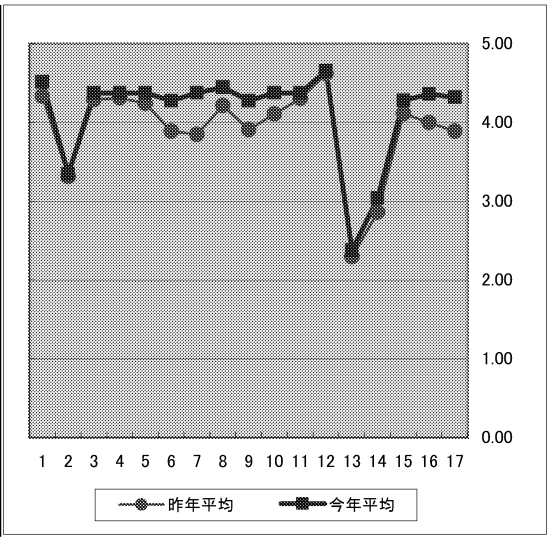
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
体系的なテキストを出版したため、これを利用して効率的にフォローしていく予定である。
テキスト：加登豊編『インサイト原価計算』中央経済社

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
各年度の学生の習熟状況を客観的に把握できるようし、かつ、今後も学生の状況に合わせて授業を進めていきたい。

科　　目：上級管理会計論
配当年次：1　　開講時限：火2
受講者数：41　　回答者数：30

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.52	5	5	3
2	3.31	3.34	3	4	2
3	4.29	4.38	5	5	2
4	4.31	4.38	5	5	3
5	4.24	4.38	4	5	3
6	3.89	4.28	4	5	2
7	3.85	4.38	5	5	3
8	4.22	4.45	4	5	4
9	3.91	4.28	4	5	3
10	4.11	4.38	4	5	3
11	4.30	4.38	5	5	2
12	4.62	4.66	5	5	4
13	2.30	2.38	2	5	1
14	2.86	3.04	3	5	1
15	4.11	4.28	5	5	2
16	4.00	4.36	4	5	3
17	3.89	4.32	4	5	3
回答者数	46	30			



受講生の傾向

工業簿記、原価計算、管理会計の知識が乏しく、基礎的な知識から学習する必要のある学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

管理会計の基本用語などより基礎的な項目を中心にレクチャーを進め、出来るだけ時間を割くように努力した。

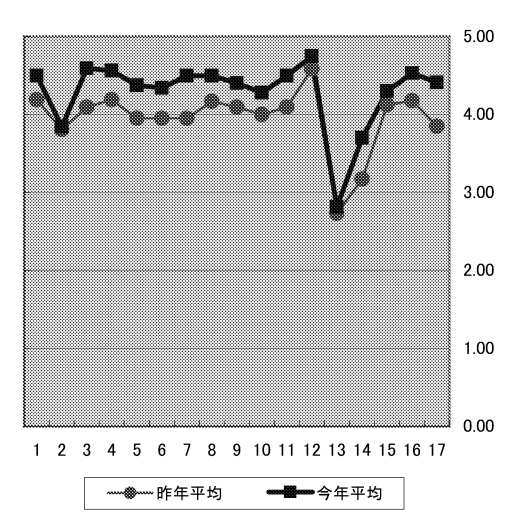
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度より満足度が若干低下しているので、体系的なテキストを利用して対応する予定である。
なお、テキストは今年度に出版されている。
テキスト：加登豊編『インサイト管理会計』中央経済社

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
各年度の学生の習熟度を測定し、傾向を見るとともに、学生の状況に合わせて授業を進めていきたい。

科　　目：監査制度論
配当年次：1　　開講時限：金3
受講者数：40　　回答者数：32

質問№.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.19	4.50	5	5	2
2	3.81	3.84	3	5	2
3	4.10	4.59	5	5	2
4	4.19	4.56	5	5	2
5	3.95	4.38	5	5	1
6	3.95	4.34	5	5	2
7	3.95	4.50	5	5	2
8	4.17	4.50	5	5	2
9	4.10	4.41	5	5	2
10	4.00	4.28	5	5	2
11	4.10	4.50	5	5	2
12	4.59	4.75	5	5	1
13	2.73	2.81	2	5	1
14	3.17	3.70	3	5	2
15	4.13	4.30	5	5	2
16	4.18	4.53	5	5	2
17	3.85	4.41	5	5	2
回答者数	43	32			



受講生の傾向

基本科目（必修科目）群に属するという関係上、受講生の出席率はかなり高く85％以上となっている。
上記アンケート結果より、授業に対する予習時間（項目13）が昨年度より若干増加したものの1時間と短く、復習時間も向上は見られるものの1時間半（項目14）となっているため、相変わらず望ましい情況とは言えない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

過年度の制度改正等に伴う箇所や不備のあった箇所などを改訂したパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。
授業が2回終了する（1週間）ごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。
最終的に、6回分の小テスト実施→添削→返却（講評）を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方（重要論点の抽出と一貫した論旨の展開）を習得できるように、去年以上に心懸けた。この結果、全ての授業に関連した評価項目で昨年度を上回っている。

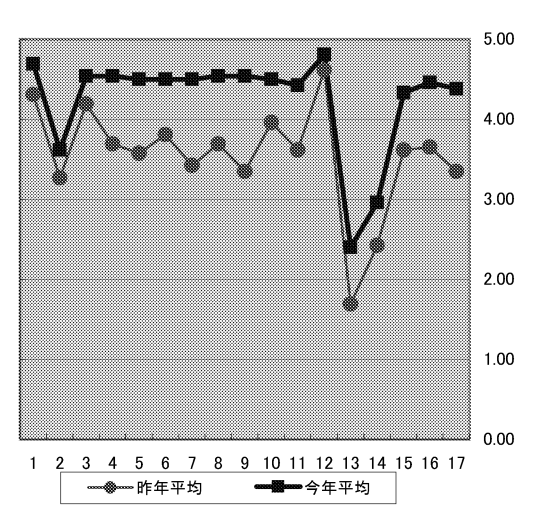
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
こちらの期待に反して、受講生の側での予習・復習の時間が相対的に少ないため、復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
予習・復習の時間を確保させるために小テスト返却時に最低限度の講評とともに、成績優秀者数名の答案を学籍番号・氏名を伏してコピーし全員に配布するようにした。この結果、若干ではあるが、受講生のモラールの向上に貢献したのか、昨年度に比べると予習・復習ともその時間に増加が見られた。

科　　目：監査基準
配当年次：1　　開講時限：水2
受講者数：29　　回答者数：26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.31	4.69	5	5	4
2	3.27	3.62	3・4	5	2
3	4.19	4.54	5	5	3
4	3.69	4.54	5	5	4
5	3.58	4.50	5	5	3
6	3.81	4.50	5	5	3
7	3.42	4.50	4・5	5	4
8	3.69	4.54	5	5	3
9	3.35	4.54	5	5	3
10	3.96	4.50	5	5	2
11	3.62	4.42	4	5	3
12	4.62	4.81	5	5	3
13	1.69	2.40	2	5	1
14	2.42	2.96	2	5	2
15	3.62	4.33	4	5	2
16	3.65	4.46	4	5	4
17	3.35	4.38	4	5	3
回答者数	26	26			



受講生の傾向
熱心な学生が多かった。

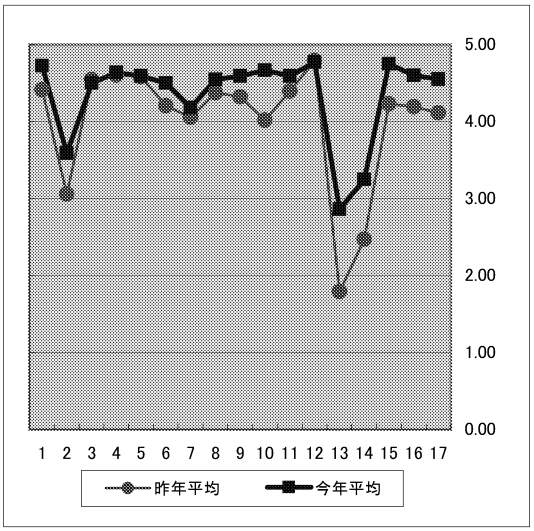
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
初学者が多いことをふまえて、より易しく、具体例をいれながら、説明をした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
（担当者変更のため）N/A

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
予習・復習をあまり必要としないと感じているようであるが、必須科目でもあるため、今後は、課題を与える等のエ夫をしたい。

科　　目：企業法
配当年次：1　　開講時限：月1
受講者数：28　　回答者数：22

質問№.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.73	5	5	3
2	3.06	3.59	3	5	3
3	4.55	4.50	5	5	3
4	4.60	4.64	5	5	4
5	4.58	4.59	5	5	2
6	4.21	4.50	5	5	3
7	4.06	4.18	5	5	2
8	4.38	4.55	5	5	3
9	4.32	4.59	5	5	3
10	4.02	4.67	5	5	3
11	4.40	4.59	5	5	3
12	4.79	4.77	5	5	3
13	1.79	2.86	1・2・3・5	5	1
14	2.47	3.25	3	5	1
15	4.23	4.75	5	5	4
16	4.19	4.60	5	5	2
17	4.12	4.55	5	5	3
回答者数	53	22			



受講生の傾向

春学期と同様に、授業内容としては、企業法の基礎を扱うものであるから、難易度は高くないようである。
しかし、春学期よりも理解度が上がっているのは、再履修の学生が2度目の受講であり理解しやすかったのではないかということがうかがえる。
また、ここでも法学を始めて学習する学生も多く、専門用語ないし法学独特の言い回りが少しわかりずらいところも見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期と同様であるが、会社法の根本的な考え方を習得してもらうことに心がけた。
とりわけ、会社法の趣旨を徹底的に理解してもらうことに努めた。
その反面、会社法の規制内容については中級会社法に譲ることとした。

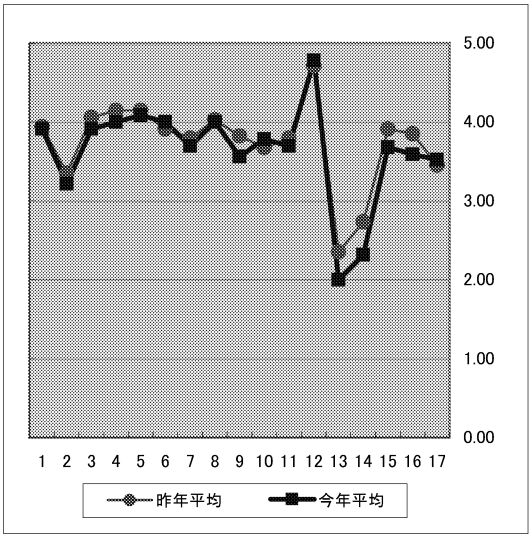
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
企業法については、範囲が広いので、もう少し範囲を絞った授業にして学生理解を助け、扱わない範囲については、それぞれ他の授業（商法や金融商品取引法など）にゆだねるようにしたい。
引き続き補習授業は続けるが、もっと多くの学生に参加してもらいたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
この科目は企業法に関連する科目の基礎的な位置づけとなるので、会社法の根底に流れる基本的な考え方を徹底的に理解してもらえるような授業にしたい。

科　　目：会計基準論
配当年次：1　　開講時限：月4
受講者数：57　　回答者数：23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.94	3.91	4	5	1
2	3.35	3.22	3	5	1
3	4.06	3.91	4	5	2
4	4.15	4.00	5	5	1
5	4.15	4.09	4・5	5	2
6	3.91	4.00	4・5	5	2
7	3.79	3.70	4	5	1
8	4.03	4.00	4	5	2
9	3.82	3.57	3	5	1
10	3.68	3.78	5	5	1
11	3.79	3.70	4	5	1
12	4.71	4.78	5	5	2
13	2.35	2.00	2	5	2
14	2.74	2.32	2	5	2
15	3.91	3.68	3・4	5	3・4
16	3.85	3.59	3	5	3
17	3.45	3.52	4	5	4
回答者数	34	23			



受講生の傾向

評価項目全体から見る限り受講生の評価や姿勢は昨年度と酷似している。講義の進度がより適切になったと感じられる点は良いが、これまでも少ない予習復習が一層減少している点が多いに気になる。一昨年度対比での好転の傾向は続いている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目は会計の基本科目ではない。受講生は基本の学習を終えている。にもかかわらず理解度が大きく分かれる。会計の対象である取引を会計処理のパターンとして理解する者と、取引そのものを理解しようとする者の姿勢の差が理解度に影響している。そこで、会計基準の解説に当たり、取引内容を理解させるために実務指針を利用して会計計算の内容を実感させた。しかしこの科目で扱う領域が多岐にわたるため一部学生は消化不良を起こしている可能性もある。

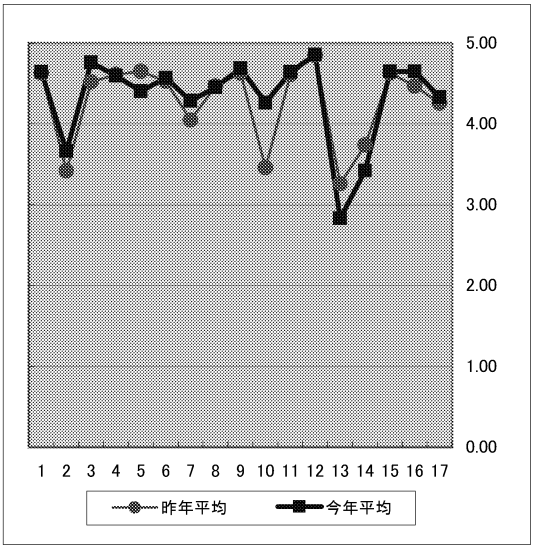
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「今年度の方針が評価されたようであるからこれを維持することに努力する。」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
会計のセンスは経済・経営への理解度を高めることによって生まれるという点を強調して講義するように心がける。

科　　目：戦略管理会計論
配当年次：1　　開講時限：月2
受講者数：56　　回答者数：42

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.64	5	5	2
2	3.42	3.67	3	5	3
3	4.52	4.76	5	5	4
4	4.61	4.60	5	5	3
5	4.65	4.40	5	5	2
6	4.53	4.57	5	5	3
7	4.05	4.29	4	5	3
8	4.47	4.45	5	5	3
9	4.63	4.69	5	5	4
10	3.46	4.26	5	5	2
11	4.61	4.64	5	5	3
12	4.85	4.86	5	5	3
13	3.26	2.83	3	5	1
14	3.74	3.43	3	5	1
15	4.63	4.65	5	5	3
16	4.47	4.65	5	5	3
17	4.26	4.33	5	5	3
回答者数	63	42			



受講生の傾向

学生の意識や知識に差があり多様性が見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

近年の管理会計の動向を考慮し一部をリニューアルした。具体的には環境管理会計についての項目を追加するとともに、他の項目についても逐次入れ替えた。

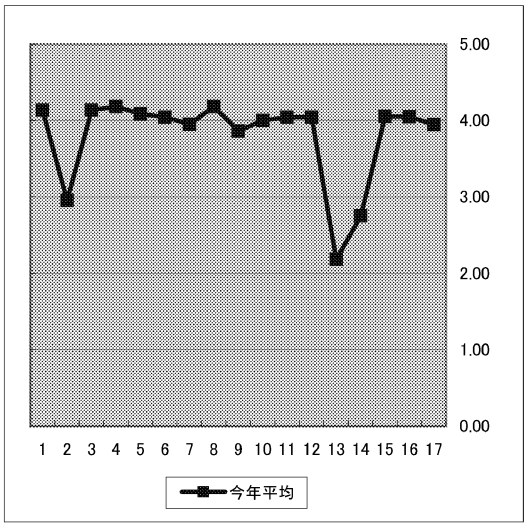
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
学生数などの状況に応じてこれからも対応していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今後も学生のニーズに合わせていきたい。

科　　目: 監査実施論
配当年次: 1　　開講時限: 土2
受講者数: 39　　回答者数: 22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.14	5	5	1
2	−	2.95	3	5	2
3	−	4.14	5	5	1
4	−	4.18	5	5	1
5	−	4.09	5	5	1
6	−	4.05	5	5	1
7	−	3.95	4・5	5	1
8	−	4.18	5	5	1
9	−	3.86	4	5	1
10	−	4.00	4	5	1
11	−	4.05	5	5	1
12	−	4.05	5	5	1
13	−	2.18	2	4	1
14	−	2.75	2	5	2
15	−	4.05	4	5	1
16	−	4.05	4	5	1
17	−	3.95	4・5	5	1
回答者数	−	22			



受講生の傾向

・講義に熱心に取り組んでいる受講生が多く授業の進度(2)についても、ちょうど良いと回答している学生が多かった。
・学生自身の授業への取り組みの項目(12～17)をみると、出席率が非常に高く、また、公認会計士試験にも直結することもあり、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートを入手していないので、難しい面があるが、私個人としては、昨年以上に分かりやすく、実務的に授業を行ってきたつもりである。

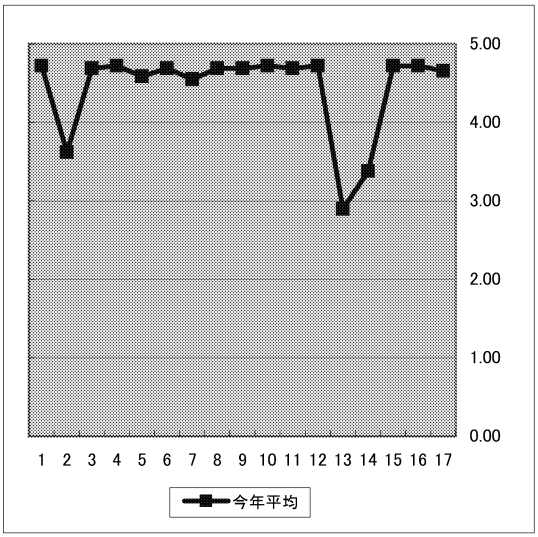
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度のアンケートを入手していないので該当事項はない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
・アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問い(16)に対しては「普通～良」程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施したい。また、さらに分かり易い授業を心がけたいと考えている。

科　　目：監査報告論
配当年次：1　　開講時限：火4
受講者数：40　　回答者数：29

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.72	5	5	3
2	―	3.62	3	5	2
3	―	4.69	5	5	3
4	―	4.72	5	5	3
5	―	4.59	5	5	3
6	―	4.69	5	5	4
7	―	4.55	5	5	3
8	―	4.69	5	5	3
9	―	4.69	5	5	3
10	―	4.72	5	5	4
11	―	4.69	5	5	4
12	―	4.72	5	5	3
13	―	2.90	3	5	1
14	―	3.38	3	5	2
15	―	4.72	5	5	4
16	―	4.72	5	5	4
17	―	4.66	5	5	4
回答者数	―	29			



受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況（項目12）は、平均85%以上を確保しており、受講生の出席率はかなり高いと言える。また予習時間が1時間強（項目13）、復習時間が1時間半から2時間程度（項目14）となっている。これらのことから、参加意欲は去年並みに高く、加えて今年度は学習時間も増加している。ただし、表示データは今年度に限られている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年と同じく、毎回、パワーポイントによるスライドを用意・配布するとともに、必要に応じて各種の基準・実務指針・意見書等をコピーした上で配布した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配付資料の全ては、授業当日中に関西大学インフォメーション・システムにアップロードし、WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。
昨年に続き、前回の理解度を確認するための小テストを授業時間の最初に15分程度で実施し、添削して返却した。また成績優秀者数名の答案を氏名と学生番号を伏した上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方（重要論点の抽出と一貫した論旨の展開）を習得できるよう心懸けた。この小テストを毎回実施したために、予習時間に比して、復習時間が相対的に多くなったと推測できる。

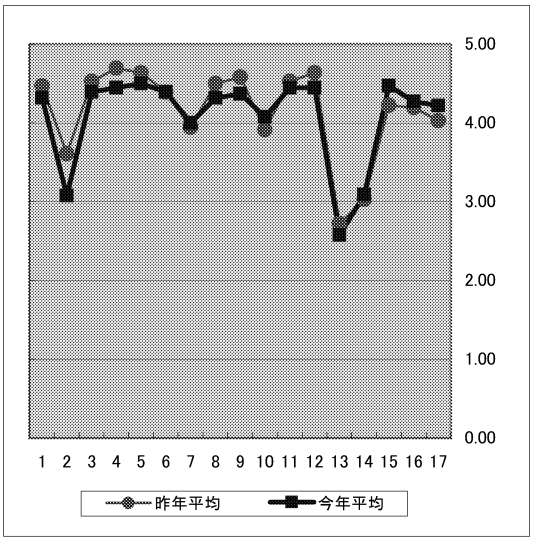
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
受講生の側での予習の時間を相対的に高めるため、予習課題を大学のインフォメーション等で指示する必要があるかもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
昨年度に続き今年度も、学生の復習時間を増加させる方向で小テスト回数を増やし、その効果を得ることができた。

科　　目：中級会社法
配当年次：1　　開講時限：木2
受講者数：57　　回答者数：38

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.32	5	5	2
2	3.61	3.08	3	5	1
3	4.53	4.39	5	5	2
4	4.69	4.45	5	5	1
5	4.64	4.50	5	5	1
6	4.39	4.39	4・5	5	2
7	3.94	4.00	4・5	5	1
8	4.50	4.32	5	5	3
9	4.58	4.37	5	5	1
10	3.92	4.08	4	5	1
11	4.53	4.45	5	5	2
12	4.64	4.45	5	5	1
13	2.72	2.58	1	5	1
14	3.03	3.09	3	5	1
15	4.22	4.47	5	5	3
16	4.19	4.27	5	5	2
17	4.03	4.22	4	5	3
回答者数	37	38			



受講生の傾向

基本科目である企業法と異なり、発展科目ではあるが、受講生の数が多かった。
会社法に対して関心が高いこともあると思うが、公認会計士試験を意識しての受講であることがうかがえる。
学生の理解度および予習復習にかける時間などにばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

中級会社法を受講するうえで、基礎となる企業法の復習を行いながら、授業を進めるということをおこなった。
しかしながら、これは会社法をあまり得意としていない学生にとっては必要なことであるが、すでに理解できている学生にとっては不要であったかもしれない。

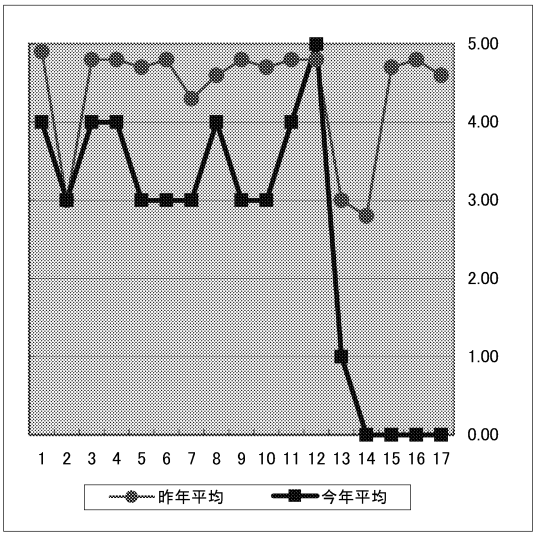
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
予習と復習を促進させるような授業にしたい。
より多くの学生が授業についてくることができるような工夫をしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
企業法との連続性ということを重視したい。
具体的には、企業法の理解があることを前提として、中級会社法をある程度のレベルからスタートさせる。

科　　目：コーポレート・ファイナンス論
配当年次：1　　開講時限：木4
受講者数：9　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.90	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.80	4.00	4	4	4
4	4.80	4.00	4	4	4
5	4.70	3.00	3	3	3
6	4.80	3.00	3	3	3
7	4.30	3.00	3	3	3
8	4.60	4.00	4	4	4
9	4.80	3.00	3	3	3
10	4.70	3.00	3	3	3
11	4.80	4.00	4	4	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	3.00	1.00	1	1	1
14	2.80	0.00	0	0	0
15	4.70	0.00	0	0	0
16	4.80	0.00	0	0	0
17	4.60	0.00	0	0	0
回答者数	10	1			



受講生の傾向

公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて認識している学生と認識していない学生がおり、レベルに差があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士試験の問題を授業に取り入れる等を行った。また、数学をできる限り使わずに授業を行う工夫をした。

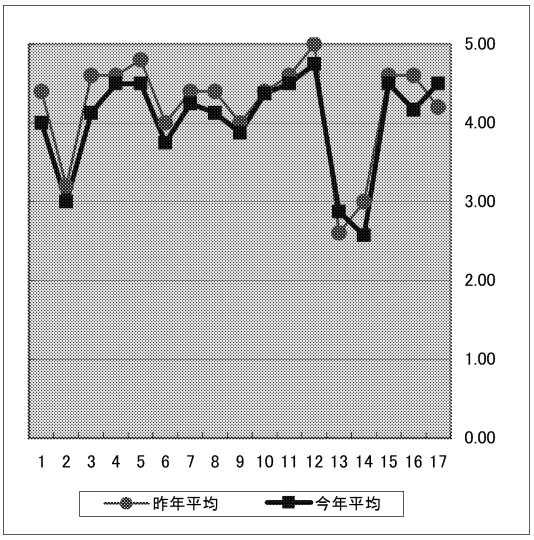
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
評価が大きく分かれた（たとえば、最高5、最低1）面があった。これは、科目の性格上、数学的な説明をせざるを得ないことに対して、十分に理解させることができなかった。今後も、数学のみならず、図表や文章等を使って、できる限りわかりやすい説明を心がけていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
試験問題自体が数学ができることを前提にしてきており、最初に数学的な問題を集中して行ってから授業をしたほうが効率的であると同時に効果的であると思われる。

科　　目：ミクロ経済学
配当年次：1　　開講時限：土2
受講者数：11　　回答者数：8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.00	4	5	3
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.60	4.13	4・5	5	3
4	4.60	4.50	4・5	5	4
5	4.80	4.50	5	5	3
6	4.00	3.75	3	5	3
7	4.40	4.25	5	5	3
8	4.40	4.13	5	5	3
9	4.00	3.88	3・4	5	3
10	4.40	4.38	5	5	3
11	4.60	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.75	5	5	4
13	2.60	2.88	2・5	5	1
14	3.00	2.57	2	5	1
15	4.60	4.50	4・5	5	4
16	4.60	4.17	4	5	3
17	4.20	4.50	4・5	5	4
回答者数	5	8			



受講生の傾向

ミクロ経済学では、消費の理論、生産の理論、市場の理論、厚生経済学、ゲームの理論の初歩的な授業を展開したので、受講生は経済学や基礎的な数学に関心を持つ優秀な受講生ばかりであった。公認会計士の本試験に「経済学」を選択する意思がなくても、経済学の基礎を学びたいと言う熱心な受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業アンケートによると、「授業は非常に面白くてよく理解できるが、練習問題になるとやや難しいと感じた」との意見もあったので、宿題や練習問題を増やした。そしてそれらの問題を丁寧に時間をかけて説明、解説した。また、授業の説明や練習問題の解答の解説には数式をあまり用いないで、図を用いてよくわかるように工夫した。

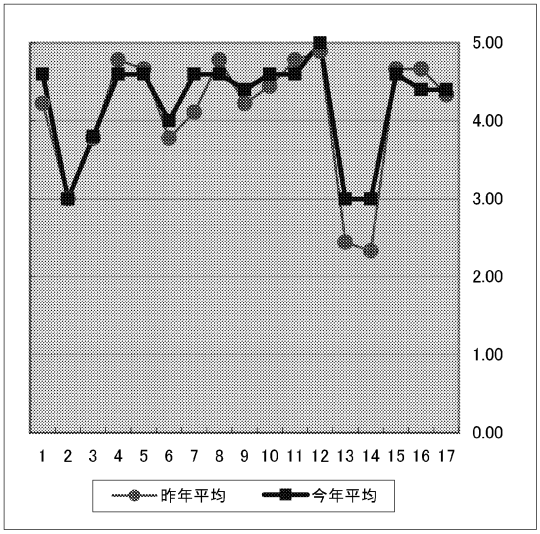
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
院生のレベルを高めるために、応用的な宿題や練習問題を増やす。そして、自分たちで、まずそれらの宿題や練習問題を解く癖をつけさせ、授業ではその解答を丁寧な説明し、受講生全員が理解できるように努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
最初は、基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、「ゲームの理論」など最先端の授業を行い、最後には模擬試験のような難解な問題が解けるレベルまで学力を引き上げる。

科　　目: 国際会計基準論
配当年次: 2　　開講時限: 木3
受講者数: 11　　回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.60	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	3.78	3.80	3・4	5	3
4	4.78	4.60	5	5	4
5	4.67	4.60	5	5	4
6	3.78	4.00	4	5	3
7	4.11	4.60	5	5	4
8	4.78	4.60	5	5	4
9	4.22	4.40	4	5	4
10	4.44	4.60	5	5	4
11	4.78	4.60	5	5	4
12	4.89	5.00	5	5	5
13	2.44	3.00	3	4	2
14	2.33	3.00	3	4	2
15	4.67	4.60	5	5	4
16	4.67	4.40	4	5	4
17	4.33	4.40	4	5	4
回答者数	9	5			



受講生の傾向

受講生の学習意欲は非常に高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題意識を明確にするために、プレゼンテーション中心の対話形式で講義を展開した。

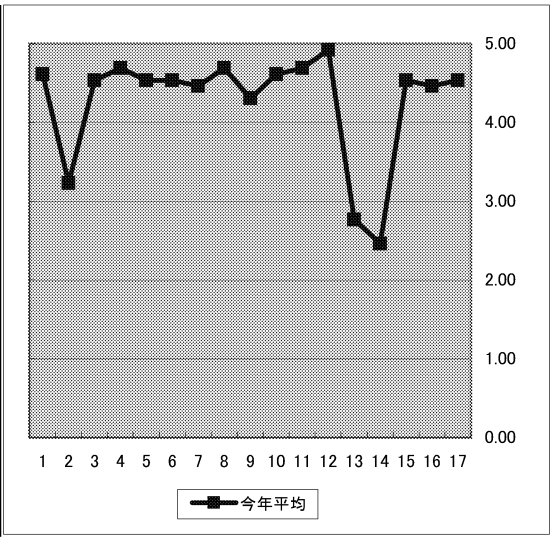
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
今後ともプレゼン中心の講義方式を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
10年度は担当者を変更する。

科　　目：コストマネジメント論
配当年次：2　　開講時限：火3
受講者数：22　　回答者数：13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.62	5	5	3
2	－	3.23	3	5	2
3	－	4.54	5	5	4
4	－	4.69	5	5	4
5	－	4.54	5	5	4
6	－	4.54	5	5	3
7	－	4.46	4	5	4
8	－	4.69	5	5	4
9	－	4.31	5	5	3
10	－	4.62	5	5	3
11	－	4.69	5	5	4
12	－	4.92	5	5	4
13	－	2.77	3	5	1
14	－	2.46	2	5	1
15	－	4.54	5	5	4
16	－	4.46	4	5	4
17	－	4.54	5	5	4
回答者数	－	13			



受講生の傾向

基本的に向学心のある学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

海外の先端の事例を学習してもらえるように、重要な研究雑誌の中からコストマネジメントにかかわる事例をピックアップし、内容についてもフォローした。

今後の対応

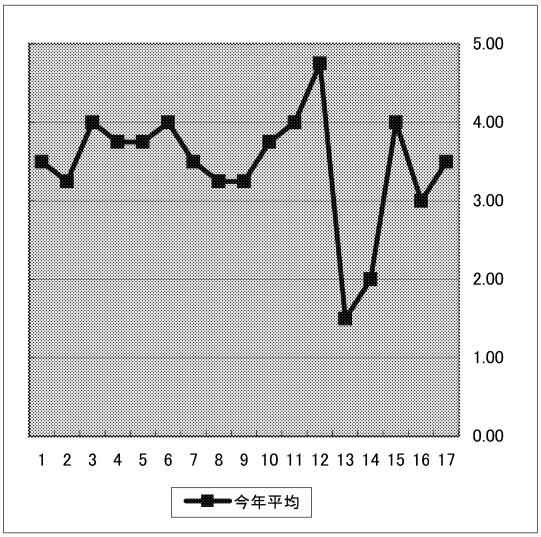
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も先進的なことに取り組んでいきたい。

科　　目：政府・自治体会計論
配当年次：2　　開講時限：金4
受講者数：11　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	3.50	4	4	2
2	―	3.25	3	4	3
3	―	4.00	4	5	3
4	―	3.75	4	4	3
5	―	3.75	3	5	3
6	―	4.00	4	5	3
7	―	3.50	3・4	4	3
8	―	3.25	3	4	3
9	―	3.25	3	4	3
10	―	3.75	4	4	3
11	―	4.00	4	4	4
12	―	4.75	5	5	4
13	―	1.50	1・2	2	1
14	―	2.00	2	3	1
15	―	4.00	4	4	4
16	―	3.00	3	4	2
17	―	3.50	3・4	4	3
回答者数	―	4			



受講生の傾向

年々受講生の数が減ってきている。2年生の秋という時期が関係している可能性もある。中には興味を持って質問してくる者もいる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

板書を分かりやすいように工夫する。

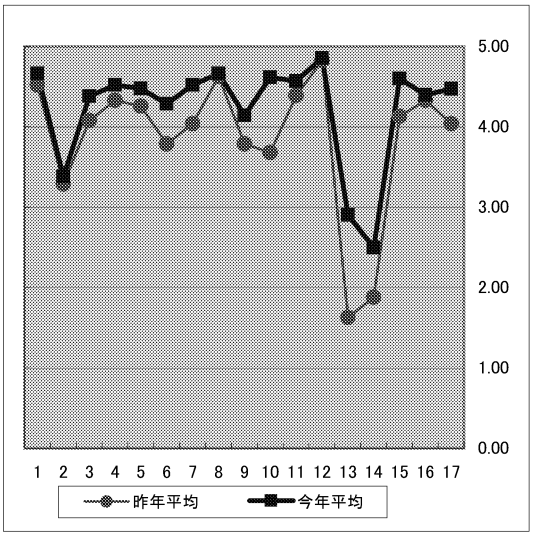
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
講義の方針は現状を継続する。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
分かりやすく興味を持たせるように工夫する。

科　　目：監査事例研究
配当年次：1　　開講時限：水3
受講者数：30　　回答者数：21

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	4.67	5	5	3
2	3.29	3.38	3	5	2
3	4.08	4.38	5	5	3
4	4.33	4.52	5	5	3
5	4.26	4.48	5	5	3
6	3.79	4.29	5	5	3
7	4.04	4.52	5	5	3
8	4.63	4.67	5	5	4
9	3.79	4.14	5	5	2
10	3.68	4.62	5	5	3
11	4.39	4.57	5	5	3
12	4.83	4.86	5	5	4
13	1.63	2.90	2・5	5	1
14	1.88	2.50	2	5	1
15	4.13	4.60	5	5	3
16	4.33	4.40	5	5	3
17	4.04	4.47	5	5	3
回答者数	24	21			



受講生の傾向

熱心な方が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

参加型のスタイルをとり、できるだけ学生に発表をさせるようにした。
準備にあたっては、自信をもって行えるように、入念に打ち合わせを行った。

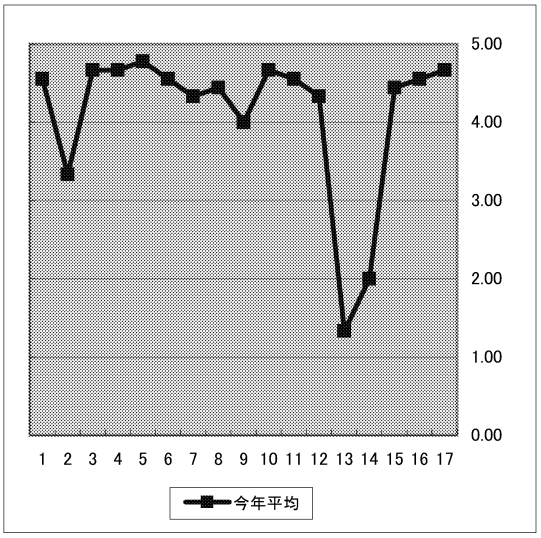
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
（担当者変更のため）N/A

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
発表の方法についてもう少し指導を行うようにして、内容のみならず発表の練習でもあることを意識してもらうようにしたいと思う。

科　　目：BATIC演習
配当年次：1　　開講時限：土3
受講者数：10　　回答者数：9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.56	5	5	4
2	−	3.33	3	5	3
3	−	4.67	5	5	4
4	−	4.67	5	5	4
5	−	4.78	5	5	4
6	−	4.56	5	5	4
7	−	4.33	4	5	4
8	−	4.44	5	5	3
9	−	4.00	3・4・5	5	3
10	−	4.67	5	5	4
11	−	4.56	5	5	4
12	−	4.33	5	5	1
13	−	1.33	1	3	1
14	−	2.00	1・2・3	3	1
15	−	4.44	5	5	3
16	−	4.56	5	5	3
17	−	4.67	5	5	3
回答者数	−	9			



受講生の傾向

・授業の評価に関する項目（1～11）については全ての項目について割りと高い評価であった。
・学生自身の授業への取り組みの項目（12～17）をみると、出席率が非常に高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。
・授業の進度（2）についても、ちょうど良いと回答している学生が大多数であり、講義に熱心に取り組んでいる学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

・当科目は今年度からスタートした科目であるため該当なし。

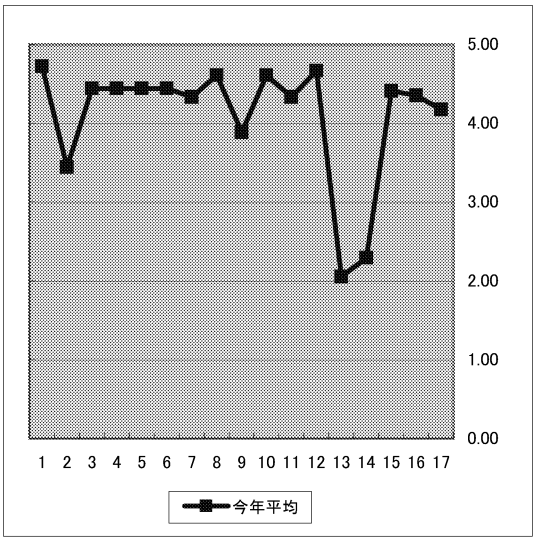
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
・当科目は今年度からスタートした科目であるため該当なし。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
・英文会計に慣れ親しんでいただくと言うの基本目標として授業に取り組んでおり、それを継続したうえで、レベルの一段上の内容（Subject 2）をかなり折込み、より質の高い授業にしたいと考えている。

科　　目：IFRS実務
配当年次：1　　開講時限：土4
受講者数：18　　回答者数：18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.72	5	5	4
2	－	3.44	3	5	3
3	－	4.44	5	5	3
4	－	4.44	5	5	3
5	－	4.44	5	5	3
6	－	4.44	5	5	3
7	－	4.33	4	5	3
8	－	4.61	5	5	3
9	－	3.89	3	5	3
10	－	4.61	5	5	4
11	－	4.33	4・5	5	3
12	－	4.67	5	5	3
13	－	2.06	2	5	1
14	－	2.29	1・2・3	5	1
15	－	4.41	5	5	3
16	－	4.35	4	5	3
17	－	4.18	5	5	3
回答者数	－	18			



受講生の傾向

・授業の評価に関する項目（1～11）については全ての項目について高い評価であった。
・学生自身の授業への取り組みの項目（12～17）をみると、出席率が非常に高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。
・授業の進度（2）についても、ちょうど良いと回答している学生が大多数であり、講義に熱心に取り組んでいる学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

・当科目は今年度からスタートした科目であるため該当なし。

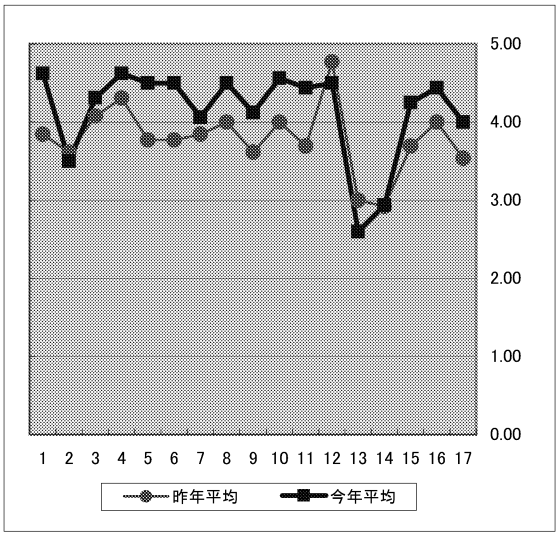
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
・当科目は今年度からスタートした科目であるため該当なし。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
・受講生の皆様に、少しでもIFRSを理解してもらい、次世代の会計士もしくは経理マンとして活躍していただける素地を持ってもらうべく授業を進めて行きたいと考えている。特に今年度は分かりやすいIFRSの実務的な解説により一層、注力したいと思っている。

科　　目：基本監査プログラム演習
配当年次：1　　開講時限：金1
受講者数：28　　回答者数：16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.85	4.63	5	5	2
2	3.62	3.50	3	5	3
3	4.08	4.31	5	5	2
4	4.31	4.63	5	5	2
5	3.77	4.50	5	5	2
6	3.77	4.50	5	5	3
7	3.85	4.06	5	5	2
8	4.00	4.50	5	5	3
9	3.62	4.13	5	5	2
10	4.00	4.56	5	5	2
11	3.69	4.44	5	5	2
12	4.77	4.50	5	5	1
13	3.00	2.60	2	5	1
14	2.92	2.94	2・3・5	5	1
15	3.69	4.25	5	5	2
16	4.00	4.44	5	5	2
17	3.54	4.00	5	5	2
回答者数	13	16			



受講生の傾向

出席率（項目12）は約90%であったことから、参加意欲も高く積極的に学生は授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査基準の改訂等を反映したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。これら前半の資料については、授業の都度、関西大学インフォメーション・システムにアップロードし復習のように供した。
前半の講義により、監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行えた。また去年通り、前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。同時に前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

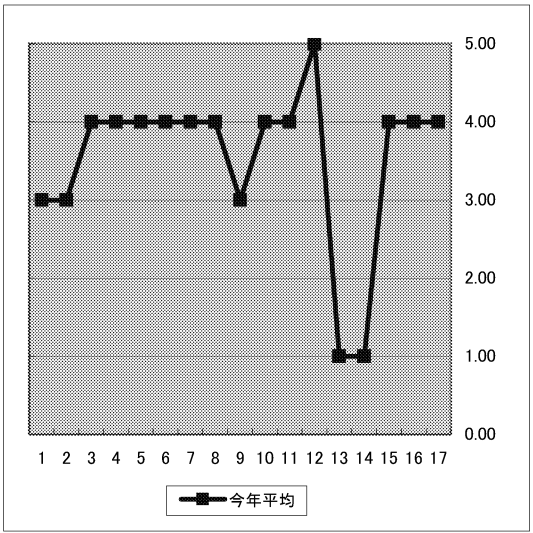
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
授業時間内での質疑応答に対して、相対的に積極的な受講生とそうでないものがおり、全ての学生に対して発言機会を与える方法を考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
次年度以降も、この方針で臨みたい。

科　　目：ディスクロージャー実務
配当年次：2　　開講時限：金3
受講者数：8　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	3.00	3	3	3
2	―	3.00	3	3	3
3	―	4.00	4	4	4
4	―	4.00	4	4	4
5	―	4.00	4	4	4
6	―	4.00	4	4	4
7	―	4.00	4	4	4
8	―	4.00	4	4	4
9	―	3.00	3	3	3
10	―	4.00	4	4	4
11	―	4.00	4	4	4
12	―	5.00	5	5	5
13	―	1.00	1	1	1
14	―	1.00	1	1	1
15	―	4.00	4	4	4
16	―	4.00	4	4	4
17	―	4.00	4	4	4
回答者数	―	1			



受講生の傾向

熱心に授業に参加していたが、ディスクロージャーという分野について戸惑っている様子も見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初めての科目であり、ディスクロージャー制度と法律や会計基準との関係を理解させるようにした。

今後の対応

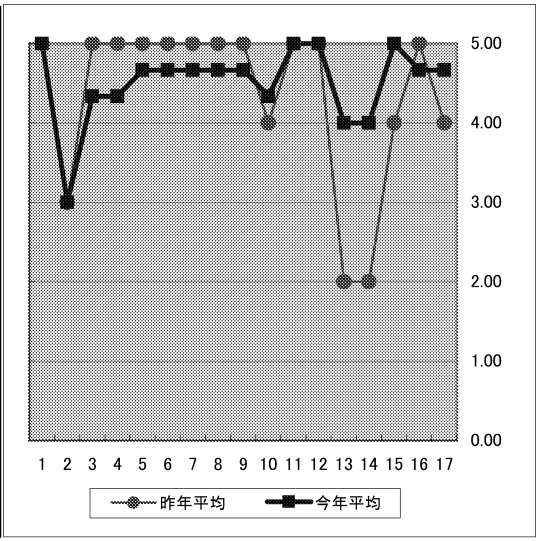
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

FASBやIFRS等の諸外国のディスクロージャー制度との比較を行うとともに、より基準の原文を読みこむように指導したい。さらに、分野別により突っ込んだ発表を行わせるようにする。

科　　目：実践会計プログラム演習
配当年次：2　　開講時限：木1
受講者数：5　　回答者数：3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.33	4	5	4
4	5.00	4.33	4	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	5.00	4.67	5	5	4
7	5.00	4.67	5	5	4
8	5.00	4.67	5	5	4
9	5.00	4.67	5	5	4
10	4.00	4.33	4	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	4.00	3・4・5	5	3
14	2.00	4.00	3・4・5	5	3
15	4.00	5.00	5	5	5
16	5.00	4.67	5	5	4
17	4.00	4.67	5	5	4
回答者数	1	3			



受講生の傾向

コンピュータを使った会計処理に興味を持ち、ゲーム的な感覚を持って熱心に授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

データや授業計画は前任者のものをそのまま使用して行った。よくできた教材であり、コンピュータを使った会計処理を実際に体験させることができたと思われる。

今後の対応

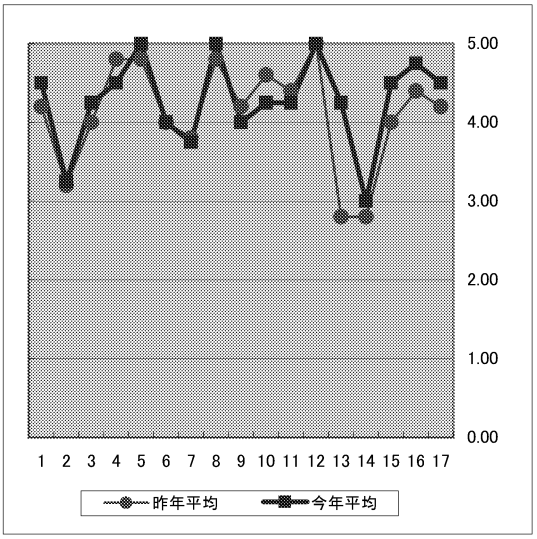
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

復習用の課題のレベルおよびボリュームの調整を行い、学生の学習により効率的なモノに改善する。ソフトウェア使用のという実践性だけでなく、その背景となる帳票等の教材を作成し、より実践的な実習となるよう改善に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科　　目：アカデミック・ソリューションB（柴クラス）
配当年次：1　　開講時限：金5
受講者数：4　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.50	5	5	3
2	3.20	3.25	3	4	3
3	4.00	4.25	5	5	3
4	4.80	4.50	5	5	3
5	4.80	5.00	5	5	5
6	4.00	4.00	4	5	3
7	3.80	3.75	3	5	3
8	4.80	5.00	5	5	5
9	4.20	4.00	3・5	5	3
10	4.60	4.25	5	5	3
11	4.40	4.25	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.80	4.25	5	5	2
14	2.80	3.00	2	5	2
15	4.00	4.50	5	5	3
16	4.40	4.75	5	5	4
17	4.20	4.50	5	5	3
回答者数	5	4			



受講生の傾向

同じ人数での比較であるが昨年度は12名中の5名の回答であり今年度は全員の回答である。評価点は対前年比で減少している項目もあるが、項目13の予習時間及び項目14の復習時間が大幅に伸びるとともに、項目15と項目16のように学生の満足度が上昇している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は成績下位層を対象とし簿記会計の入門から復習を行ったが、今年度はそのような制約の無い中での応募学生を対象としたので、全員に対して徹底的に質問を浴びせ、答えられるように訓練した。秋学期は会計基準の徹底的理解に重点を置いた。

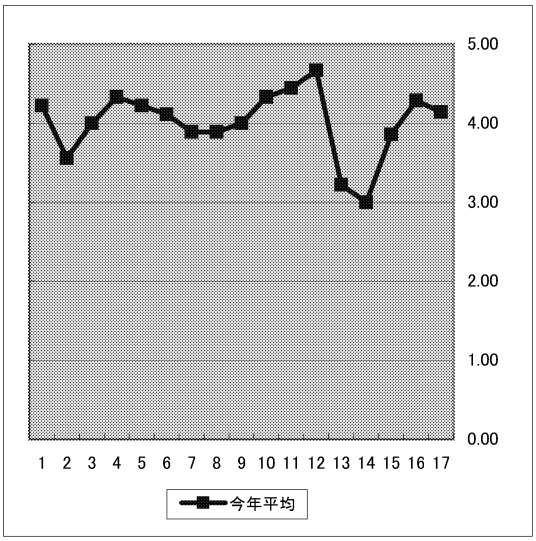
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「明年度は募集の方針が再度変わるので、履修者の水準に合わせてやや負担感のある作業を与えるようにする」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今年度の演習方法が効果的であるのでこの方法を継続する。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（清水クラス）
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：10　　回答者数：9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.22	5	5	3
2	−	3.56	3	5	3
3	−	4.00	4	5	3
4	−	4.33	4・5	5	3
5	−	4.22	5	5	3
6	−	4.11	4	5	3
7	−	3.89	3	5	3
8	−	3.89	3	5	3
9	−	4.00	3・4・5	5	3
10	−	4.33	4・5	5	3
11	−	4.44	4	5	4
12	−	4.67	5	5	2
13	−	3.22	3	5	1
14	−	3.00	2・4	4	2
15	−	3.86	4	5	2
16	−	4.29	4・5	5	3
17	−	4.14	4	5	3
回答者数	−	9			



受講生の傾向

春学期と概ね同じ。（1名入れ替わっただけ）

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習等を増やし理解度の確認を逐次行う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

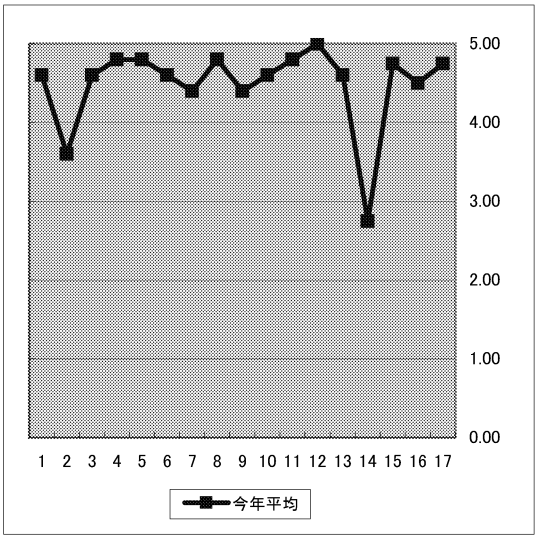
順番にレジュメを作成し発表することに加え、成果の逐次確認やディスカッション等をする機会を設ける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この秋学期から、予め設問を配布し、それに対する解答を公表しディスカッションする方式に変更した。そのほうが関心や問題意識を持って取り組めるように思える。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（松本クラス）
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.60	5	5	4
2	−	3.60	3	5	3
3	−	4.60	5	5	4
4	−	4.80	5	5	4
5	−	4.80	5	5	4
6	−	4.60	5	5	4
7	−	4.40	5	5	3
8	−	4.80	5	5	4
9	−	4.40	5	5	3
10	−	4.60	5	5	4
11	−	4.80	5	5	4
12	−	5.00	5	5	5
13	−	4.60	5	5	3
14	−	2.75	3	3	2
15	−	4.75	5	5	4
16	−	4.50	4・5	5	4
17	−	4.75	5	5	4
回答者数	−	5			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

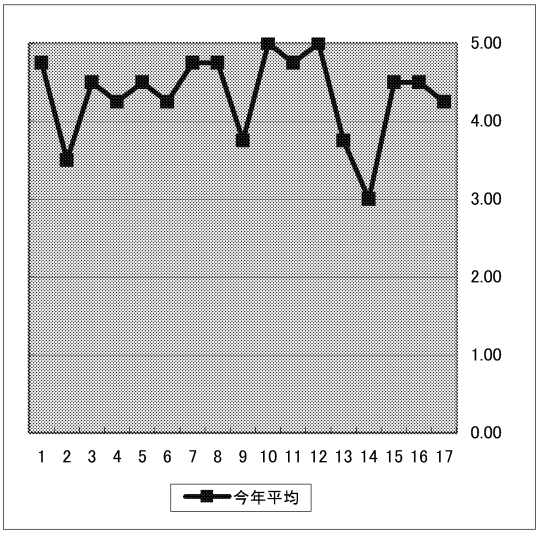
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
次年度においても、今年度と同様に個別的な対応を指向したい。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（宮本クラス）
配当年次：1　　開講時限：土5
受講者数：6　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.75	5	5	4
2	－	3.50	3・4	4	3
3	－	4.50	4・5	5	4
4	－	4.25	5	5	3
5	－	4.50	4・5	5	4
6	－	4.25	5	5	3
7	－	4.75	5	5	4
8	－	4.75	5	5	4
9	－	3.75	4	4	3
10	－	5.00	5	5	5
11	－	4.75	5	5	4
12	－	5.00	5	5	5
13	－	3.75	3	5	3
14	－	3.00	1・2・4・5	5	1
15	－	4.50	4・5	5	4
16	－	4.50	4・5	5	4
17	－	4.25	3・4	5	3
回答者数	－	4			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションBでは、アカデミック・ソリューションAから引き続き受講した学生とアカデミック・ソリューションBに新たに受講した学生が混在したが、新たに授業に参加した学生は、もともと経済学の基礎学力を持っていたことと、平行してミクロ経済学を受講することを勧めたので、両者の間に学力差はほとんどなく、レベルの高い授業を行うことができるような全員優秀な学生であった。全員15回の講義にほとんど欠席はなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの授業アンケートによると、「授業は非常によく理解できるが、模擬試験の問題などを解くのは少し難しいと感じた」との意見もあったので、アカデミック・ソリューションBでは授業と模擬試験を繋ぐ意味で、過去の公認会計士の試験問題などを例題としてかなり多くを取り上げて、学生に練習問題を自主的に解かせて解法能力を高めるように努めた。

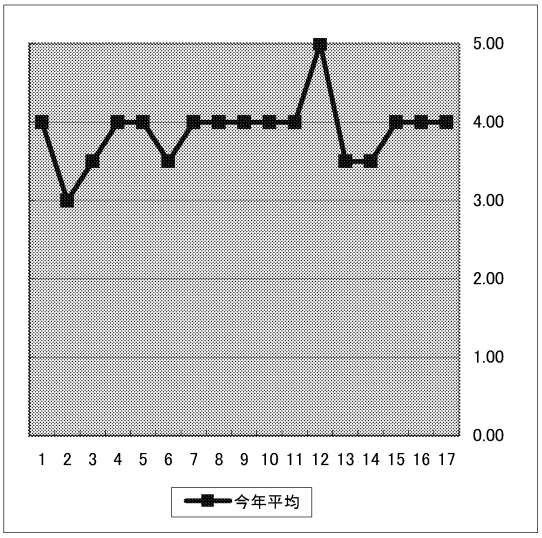
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
学部時代に経済学の基礎的知識を習得した受講生と、経済学部以外から進学してきた院生との間に、初期の段階でやや学力差が見られたので、最初はできる限り初心者向けのわかりやすい授業を心がけた。そして、徐々にレベルを引き上げる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
最初は、基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、その後経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで学力を引き上げる。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（宗岡クラス）
配当年次：1　　開講時限：木5
受講者数：4　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.00	4	4	4
2	−	3.00	3	3	3
3	−	3.50	3・4	4	3
4	−	4.00	4	4	4
5	−	4.00	4	4	4
6	−	3.50	3・4	4	3
7	−	4.00	4	4	4
8	−	4.00	4	4	4
9	−	4.00	4	4	4
10	−	4.00	4	4	4
11	−	4.00	4	4	4
12	−	5.00	5	5	5
13	−	3.50	3・4	4	3
14	−	3.50	3・4	4	3
15	−	4.00	4	4	4
16	−	4.00	4	4	4
17	−	4.00	4	4	4
回答者数	−	2			



受講生の傾向

公認会計士の受験希望なのか、就職希望なのか踏ん切りがついていない学生に対して、試験とは関係のない分野の勉強を指導したため、戸惑っている学生が多かったように感じられた。アカデミックソリューションAで公認会計士試験から脱落しかかった学生が抜けて、ついてきた学生が残ったため、内容の大きな変化に戸惑っているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

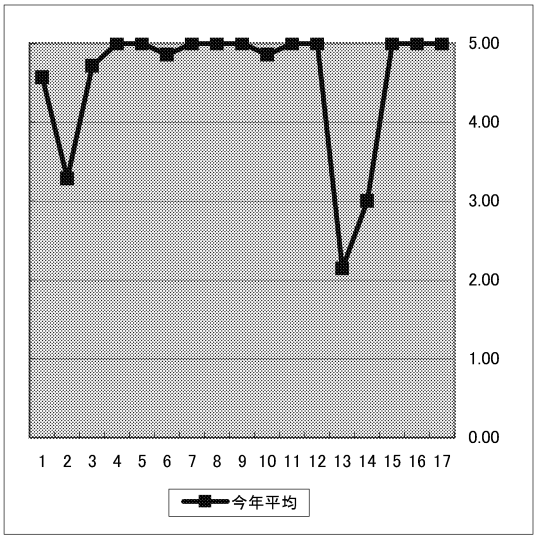
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

秋学期についても引き続き日商簿記1級、さらには公認会計士を目指すべく指導を行ったほうがよいと感じた。

科　　目：アカデミック・ソリューションB(坂口クラス)
配当年次：1　　開講時限：月5
受講者数：12　　回答者数：7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	4.57	5	5	4
2	−	3.29	3	5	3
3	−	4.71	5	5	4
4	−	5.00	5	5	5
5	−	5.00	5	5	5
6	−	4.86	5	5	4
7	−	5.00	5	5	5
8	−	5.00	5	5	5
9	−	5.00	5	5	5
10	−	4.86	5	5	4
11	−	5.00	5	5	5
12	−	5.00	5	5	5
13	−	2.14	1	5	1
14	−	3.00	3	5	1
15	−	5.00	5	5	5
16	−	5.00	5	5	5
17	−	5.00	5	5	5
回答者数	−	7			



受講生の傾向

基本的な知識を身に付けた学生とそうでない学生がおり、多様性がみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が興味を持つようにケースなどを用いたほか、実際の製造現場に出向き生産管理とコストの関連性についてのレクチャーを受けた。

今後の対応

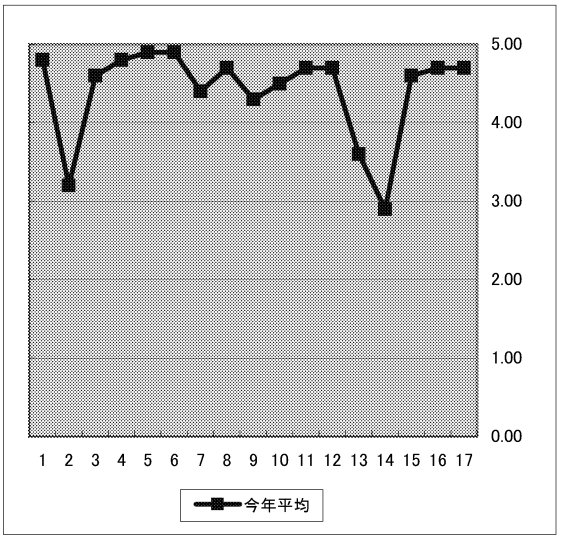
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も学生が興味を持つように工夫していきたい。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（三島クラス）
配当年次：1　　開講時限：木5
受講者数：16　　回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.80	5	5	4
2	－	3.20	3	5	2
3	－	4.60	5	5	4
4	－	4.80	5	5	4
5	－	4.90	5	5	4
6	－	4.90	5	5	4
7	－	4.40	5	5	3
8	－	4.70	5	5	4
9	－	4.30	5	5	3
10	－	4.50	5	5	3
11	－	4.70	5	5	4
12	－	4.70	5	5	4
13	－	3.60	3	5	3
14	－	2.90	3	5	1
15	－	4.60	5	5	3
16	－	4.70	5	5	4
17	－	4.70	5	5	4
回答者数	－	10			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションAと同様になるが、
アカデミック・ソリューションとしては、受講者が16人と人数が多かった（アカデミック・ソリューションAは13人であることに比べるとさらに人数が増えている）。
個々の学生に対して、細かな指導ができているかどうか不安はあったが、授業に関してはおおむね満足は得られたようだ。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ここでも、アカデミック・ソリューションAと同様になるが、学生同士の議論が積極的に行われるように配慮した。
具体的には、これまでは教員の側で進行をしていたが、学生に任せるなどを試みた。
これに加えて、アカデミック・ソリューションAから引き続き参加する学生とBから参加する学生の双方ともに対応できるような授業を試みた。

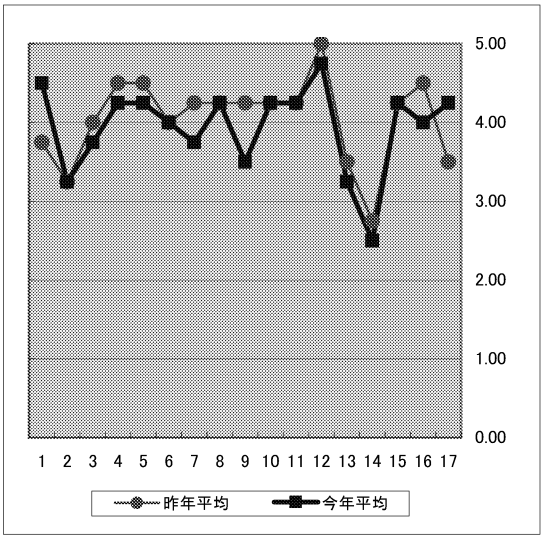
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
1年間で学生のレベルはかなり上昇するので、それに応じた教材を作っていきたい。
学生による積極的な発言はあるものの、学生間でも討論はあまり見られないので、学生間討論をもっと活発にしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
人数が多くなっても、学生の学力や学習状況を踏まえたきめ細かな指導ができるように工夫したい。

科　　目：アカデミック・ソリューションB（松尾クラス）
配当年次：1　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.75	4.50	4・5	5	4
2	3.25	3.25	3	4	3
3	4.00	3.75	4	4	3
4	4.50	4.25	4	5	4
5	4.50	4.25	4	5	4
6	4.00	4.00	4	4	4
7	4.25	3.75	5	5	2
8	4.25	4.25	4	5	4
9	4.25	3.50	4	4	2
10	4.25	4.25	4	5	4
11	4.25	4.25	4	5	4
12	5.00	4.75	5	5	4
13	3.50	3.25	1・3・4・5	5	1
14	2.75	2.50	1・2・3・4	4	1
15	4.25	4.25	4	5	4
16	4.50	4.00	4	4	4
17	3.50	4.25	4	5	4
回答者数	4	4			



受講生の傾向
アカデミック・ソリューションは受講生の問題意識に差がある。

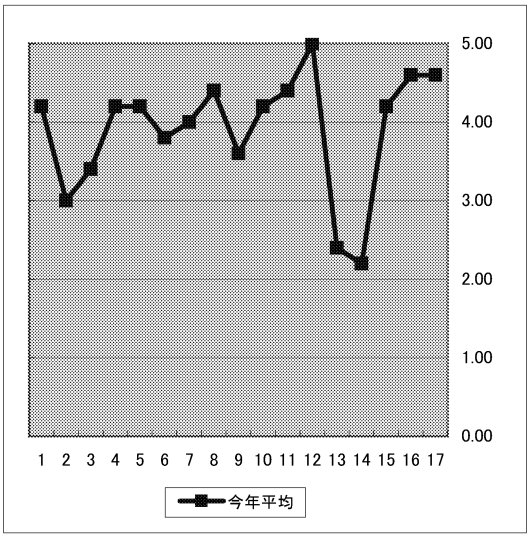
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
アカデミック・ソリューションはCPA試験財務会計論出題範囲を完全にカバーするように努める。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
CPA試験財務会計論出題範囲の完全カバーに努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
昨年と同様の方式を踏襲する。

科　　目：企業結合会計
配当年次：2　　開講時限：木2
受講者数：13　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.20	4	5	4
2	―	3.00	3	3	3
3	―	3.40	3	4	3
4	―	4.20	4	5	4
5	―	4.20	4	5	4
6	―	3.80	3・4	5	3
7	―	4.00	4	5	3
8	―	4.40	4	5	4
9	―	3.60	3	5	3
10	―	4.20	4・5	5	3
11	―	4.40	4	5	4
12	―	5.00	5	5	5
13	―	2.40	3	3	1
14	―	2.20	2・3	3	1
15	―	4.20	4・5	5	3
16	―	4.60	5	5	4
17	―	4.60	5	5	4
回答者数	―	5			



受講生の傾向

受講生の学習意欲は非常に高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題意識を明確にするために、プレゼンテーション中心の対話形式で講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

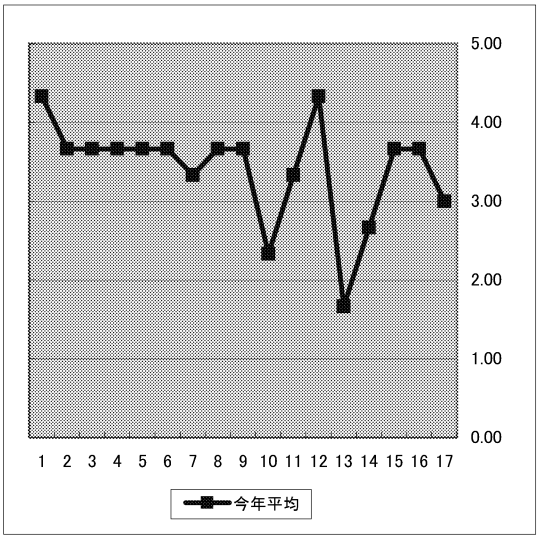
09年度から新設科目なので、本件に関する記述はない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後ともプレゼン形式を踏襲する。

科　　目：国際公会計制度論
配当年次：2　　開講時限：金2
受講者数：8　　回答者数：3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.33	4	5	4
2	ー	3.67	4	4	3
3	ー	3.67	4	4	3
4	ー	3.67	4	4	3
5	ー	3.67	4	4	3
6	ー	3.67	4	4	3
7	ー	3.33	3	4	3
8	ー	3.67	4	4	3
9	ー	3.67	4	4	3
10	ー	2.33	2	3	2
11	ー	3.33	3	4	3
12	ー	4.33	5	5	3
13	ー	1.67	1	3	1
14	ー	2.67	3	3	2
15	ー	3.67	3	5	3
16	ー	3.67	4	4	3
17	ー	3.00	2・3・4	4	2
回答者数	ー	3			



受講生の傾向

内容は良く分からないけれどとりあえず登録したというような学生ばかりであった。途中で出てこなくなる学生が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回テーマを決めてその論点について説明するように工夫した。

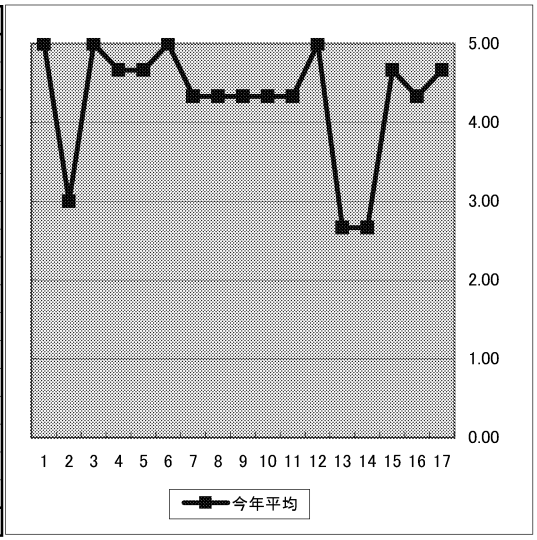
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
英文に直接触れる機会を設ける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
予め英文の文書を配っておき、せまい範囲ではあるが、テーマと関係するところを読ませるようにした。

科　　目：国際財務戦略論
配当年次：2　　開講時限：土1
受講者数：7　　回答者数：3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	5.00	5	5	5
2	ー	3.00	3	3	3
3	ー	5.00	5	5	5
4	ー	4.67	5	5	4
5	ー	4.67	5	5	4
6	ー	5.00	5	5	5
7	ー	4.33	4	5	4
8	ー	4.33	4	5	4
9	ー	4.33	5	5	3
10	ー	4.33	4	5	4
11	ー	4.33	4	5	4
12	ー	5.00	5	5	5
13	ー	2.67	3	3	2
14	ー	2.67	3	3	2
15	ー	4.67	5	5	4
16	ー	4.33	4	5	4
17	ー	4.67	5	5	4
回答者数	ー	3			



受講生の傾向

国際的な財務戦略について勉強したいという意欲の高い学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回小テストを行い、その回の内容を理解しているかどうかを自らも確認させるようにした。さらに、学生の発表の回数を減少させ、より深い発表を行わせるようにした。また、説明における事例の充実を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

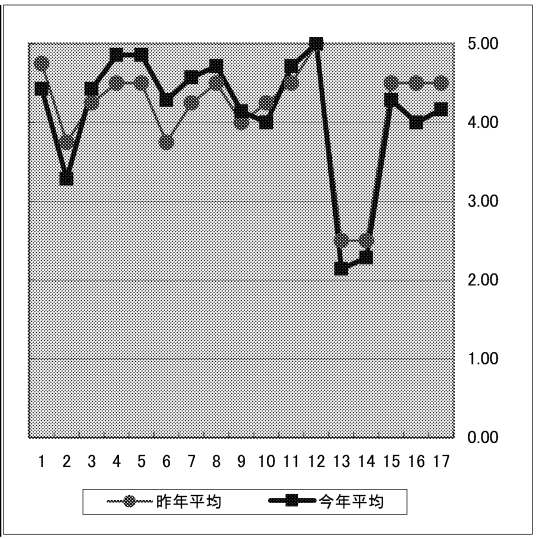
担当する範囲が広いため、かなり授業の速度が速かった。発表について、熱心にする学生とそうでない学生の差が大きかったので、指示を具体的にしてその差を小さくなるようにする。授業中にさまざまな具体例を示しつつ授業することで、より身近な問題として理解させるようにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

具体例を増やし、財務戦略にかかるディスカッションの時間をとるようにする。小テストよりもレポートという形でより深い学習を行わせるようにする。

科　　目：公共経済学
配当年次：2　　開講時限：火2
受講者数：10　　回答者数：7

質問№.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.43	4	5	4
2	3.75	3.29	3	5	3
3	4.25	4.43	4	5	4
4	4.50	4.86	5	5	4
5	4.50	4.86	5	5	4
6	3.75	4.29	4・5	5	3
7	4.25	4.57	5	5	4
8	4.50	4.71	5	5	4
9	4.00	4.14	5	5	3
10	4.25	4.00	5	5	2
11	4.50	4.71	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.50	2.14	1	4	1
14	2.50	2.29	1・2・3	4	1
15	4.50	4.29	4・5	5	3
16	4.50	4.00	3・5	5	3
17	4.50	4.17	4	5	3
回答者数	4	7			



受講生の傾向

公共経済学の授業には、経済学、財政学、地方財政学などに関心のある受講生が出席してくる。さらに、公認会計士のみならず、将来国や地方自治体の公務員や国税官を目指す受講生も受講してくる。目的意識や関心がはっきりしているので、非常に熱心な受講生が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの授業アンケートによると、公共経済学の分野全体よりも関心のある分野でポイントを抑えた公共経済学の話を聞きたいと言う希望があったので、授業では多くの種類の税の転嫁、超過負担、そして補助金の超過負担などについて図を用いて分かりやすく説明した。

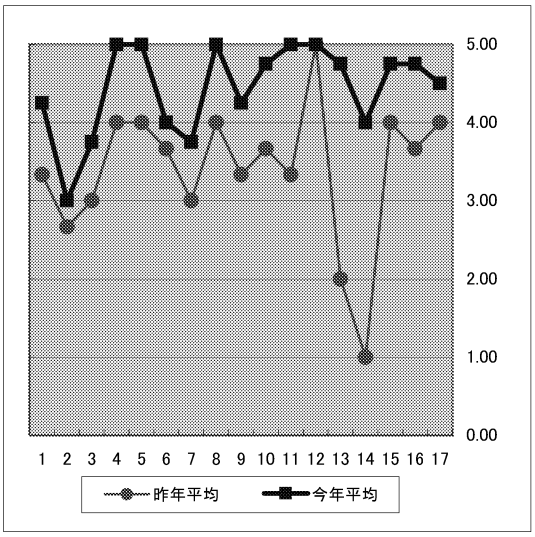
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
公共経済学の理論を受講生にきちんと理解させて、基礎的な問題の解決だけではなく、実社会に出て役立つような応用力が身に付くことができるように授業を工夫した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今後は、まず税の種類を詳しく説明し、それから数式ではなくすべて図を用いて、完全競争、独占市場、従量税、従価税、補助金などのケースについて、価格転嫁、超過負担を納得するまで説明する。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（柴クラス）
配当年次：2　　開講時限：月5
受講者数：4　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.33	4.25	4	5	4
2	2.67	3.00	3	3	3
3	3.00	3.75	4	5	2
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.67	4.00	4	5	3
7	3.00	3.75	3	5	3
8	4.00	5.00	5	5	5
9	3.33	4.25	4	5	4
10	3.67	4.75	5	5	4
11	3.33	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	4.75	5	5	4
14	1.00	4.00	4	5	3
15	4.00	4.75	5	5	4
16	3.67	4.75	5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	4			



受講生の傾向

昨年度との対比で全項目にわたり評価が改善している。結果として一昨年並みに戻っている。学生数が少ないので評価が大きく変動することもありうる。項目13と項目14の好転から判断できるように予習復習にたっぷり時間をかける学生が参加していたことがわかる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年、プロフェッショナル・ソリューションでは学生に個別のテーマを選択させ、各自の報告に対して、相互に疑問点をぶつけ合う方式を採用し、学習の深化を誘導している。この方式は本年も踏襲している。

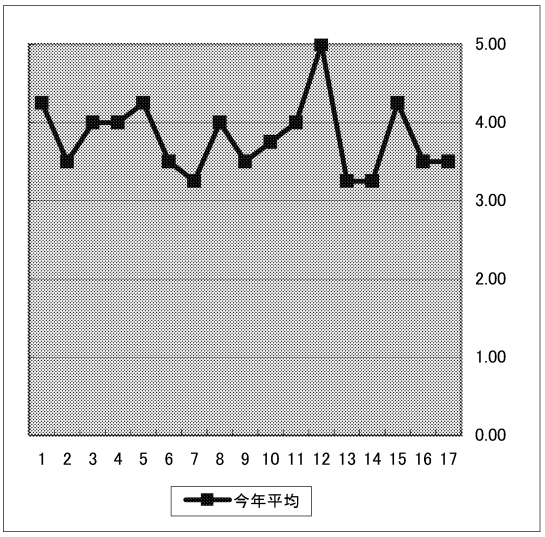
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
昨年度は「回答者が少ないとはいえ低評価であったことを踏まえ、明年度は大幅に負荷を高めることにする。」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
大幅に負荷を高める方針が受け入れられているので、明年度もこれを踏襲する。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（清水クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：4　　回答者数：4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.25	5	5	3
2	ー	3.50	3	5	3
3	ー	4.00	4	4	4
4	ー	4.00	4	4	4
5	ー	4.25	4	5	4
6	ー	3.50	4・5	4	3
7	ー	3.25	3	44	3
8	ー	4.00	4	4	4
9	ー	3.50	3	5	3
10	ー	3.75	4	4	3
11	ー	4.00	4	5	3
12	ー	5.00	5	5	5
13	ー	3.25	3	5	2
14	ー	3.25	3	5	2
15	ー	4.25	4	5	4
16	ー	3.50	3・4	4	3
17	ー	3.50	3	5	3
回答者数	ー	4			



受講生の傾向

1名を除いて自らやりたいこと等が表現できない学生が殆どであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

１年次の持ち上がりであったが、話すことに加え、文章を書かせることに注力する。

今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

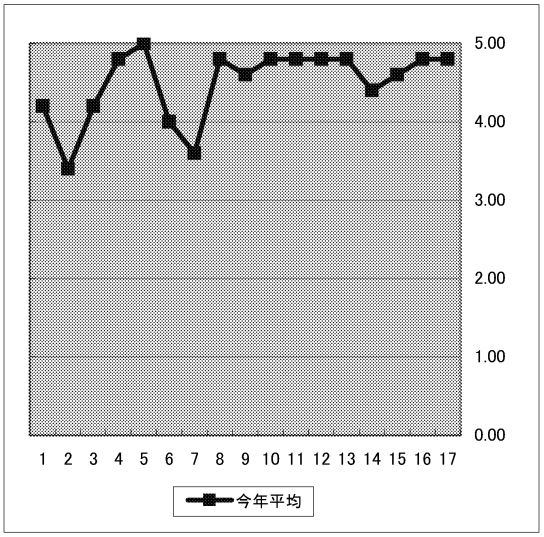
引き続き、公会計に関するテーマを与えてそれについての調査結果を発表する形式で実施する。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

１名を除いては、与えたテーマ自体があまり興味が持てず何のためにレポートを書くのか苦痛に感じていたようだ。学生に応じた大幅な見直しが必要。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（松本クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.20	5	5	3
2	ー	3.40	3	5	3
3	ー	4.20	5	5	3
4	ー	4.80	5	5	4
5	ー	5.00	5	5	5
6	ー	4.00	5	5	2
7	ー	3.60	5	5	1
8	ー	4.80	5	5	4
9	ー	4.60	5	5	3
10	ー	4.80	5	5	4
11	ー	4.80	5	5	4
12	ー	4.80	5	5	4
13	ー	4.80	5	5	4
14	ー	4.40	5	5	3
15	ー	4.60	5	5	3
16	ー	4.80	5	5	4
17	ー	4.80	5	5	4
回答者数	ー	5			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。
ただし、表示されているデータは、今年度のものに限定されている。

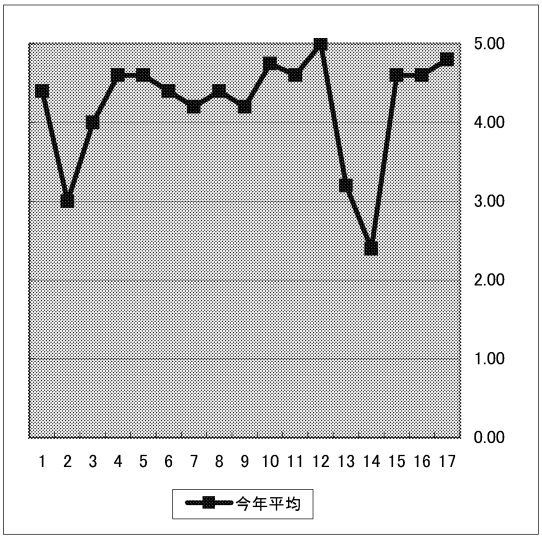
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
次年度においても、今年度と同様に個別的な対応を指向したい。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（宗岡クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：7　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	ー	4.40	4	5	4
2	ー	3.00	3	3	3
3	ー	4.00	3・5	5	3
4	ー	4.60	5	5	4
5	ー	4.60	5	5	4
6	ー	4.40	4	5	4
7	ー	4.20	4・5	5	3
8	ー	4.40	4	5	4
9	ー	4.20	4・5	5	3
10	ー	4.75	5	5	4
11	ー	4.60	5	5	4
12	ー	5.00	5	5	5
13	ー	3.20	5	5	1
14	ー	2.40	1	5	1
15	ー	4.60	5	5	4
16	ー	4.60	5	5	4
17	ー	4.80	5	5	4
回答者数	ー	5			



受講生の傾向

非常に熱心に授業に取り組んでいた。ただし、春学期は就職活動や受験勉強で十分な学習時間が取れなかったり、授業に出席できなかったりして、ついてくるのに大変な様子が見受けられた。秋学期になると、一部の学生を除き、就職活動も終了して、企業の分析に熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今後の対応

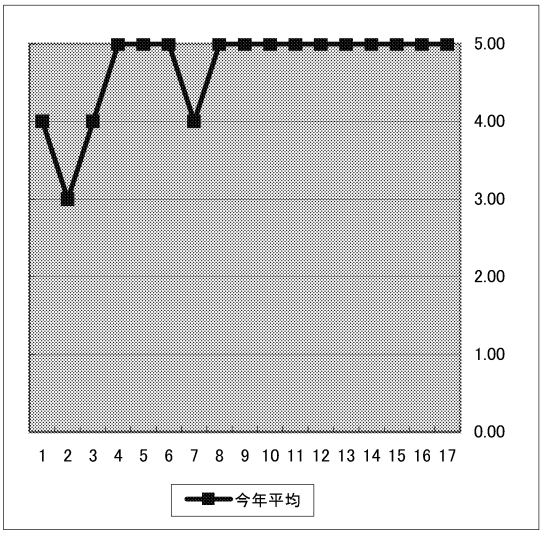
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期は就職活動や受験勉強で勉強時間が取れないうえに、授業参加も飛び飛びとなり継続的あるいは段階的に進めていくことが難しい。そのため、ピースミール的に進めていき、秋学期に全体像を把握させたうえで研究を進めることとしたい。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（加藤クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：1　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	―	4.00	4	4	4
2	―	3.00	3	3	3
3	―	4.00	4	4	4
4	―	5.00	5	5	5
5	―	5.00	5	5	5
6	―	5.00	5	5	5
7	―	4.00	4	4	4
8	―	5.00	5	5	5
9	―	5.00	5	5	5
10	―	5.00	5	5	5
11	―	5.00	5	5	5
12	―	5.00	5	5	5
13	―	5.00	5	5	5
14	―	5.00	5	5	5
15	―	5.00	5	5	5
16	―	5.00	5	5	5
17	―	5.00	5	5	5
回答者数	―	1			



受講生の傾向

講義の開始に遅参することは、ほとんどなかった。
教員の説明に真面目に耳を傾け、講義内容を熱心にメモしており、私語はほとんどない状態であった。
会計基準等の原文を中心として完成度の高い勉強ノートを作成し、ディスカッションに対して前向きであった。
暗記よりも理解することに力点をおいた学習を心がけている様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計基準等の原文を中心として勉強ノートを作成し、それに基づいてプレゼンテーションとディスカッションを行う講義を展開した。
暗記よりも理解させることに力点をおき、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。
会計基準等の考え方を説明するだけでなく、いくつかの論点を提示することで、問題意識をもたせるような指導を心がけ
論述の構成や文章表現の指導は、受講生の個性を尊重しながら理解を促すようにした。
場合によっては特別な課題を与えるなど、受講生の理解度と学習の進捗度に合わせる形で講義を進めた。

今後の対応

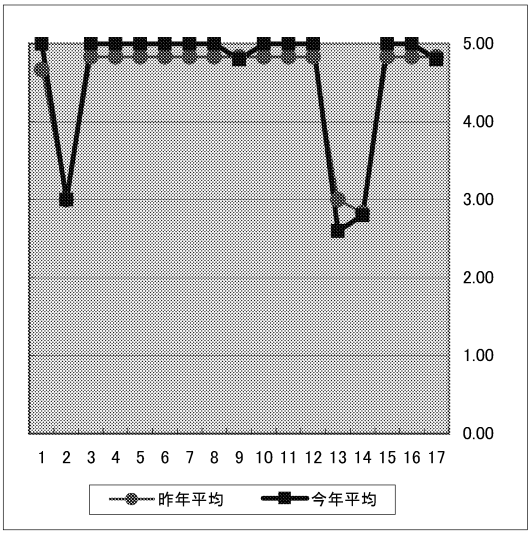
〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を常に参照するように指導していく。
問題意識をもたせるような指導を心がけ、活発なディスカッションが行われるようにしていく。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（坂口クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.83	5.00	5	5	5
4	4.83	5.00	5	5	5
5	4.83	5.00	5	5	5
6	4.83	5.00	5	5	5
7	4.83	5.00	5	5	5
8	4.83	5.00	5	5	5
9	4.83	4.80	5	5	4
10	4.83	5.00	5	5	5
11	4.83	5.00	5	5	5
12	4.83	5.00	5	5	5
13	3.00	2.60	3	5	1
14	2.83	2.80	3	5	1
15	4.83	5.00	5	5	5
16	4.83	5.00	5	5	5
17	4.83	4.80	5	5	4
回答者数	6	5			



受講生の傾向

基本的な知識を身に付けた学生が多く、学習態度も真剣であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年と同じように学生の学習の進捗程度に合わせて課題を設定し議論、検討した。また、実際の生産現場に出向き、生産とコストの関係についてのレクチャーを受けた。こうした機会は実際にプロフェッショナルになった時に有益であると考えられる。

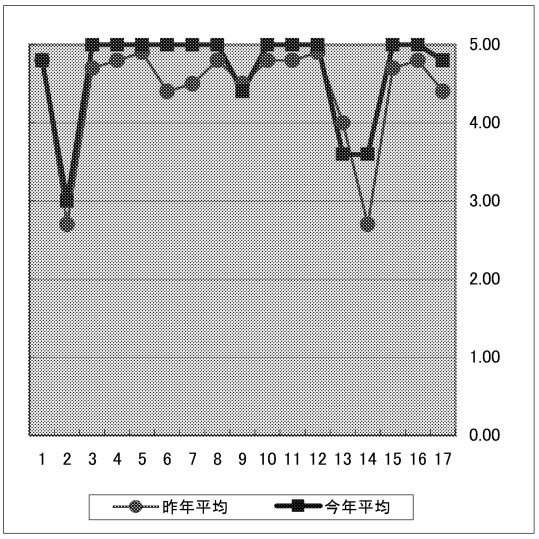
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
これからも学生の学習進捗状況に応じて柔軟に対応していきたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今後も同様に努力していきたい。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（三島クラス）
配当年次：2　　開講時限：金5
受講者数：5　　回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.80	5	5	4
2	2.70	3.00	3	3	3
3	4.70	5.00	5	5	5
4	4.80	5.00	5	5	5
5	4.90	5.00	5	5	5
6	4.40	5.00	5	5	5
7	4.50	5.00	5	5	5
8	4.80	5.00	5	5	5
9	4.50	4.40	5	5	3
10	4.80	5.00	5	5	5
11	4.80	5.00	5	5	5
12	4.90	5.00	5	5	5
13	4.00	3.60	3・5	5	2
14	2.70	3.60	3・5	5	2
15	4.70	5.00	5	5	5
16	4.80	5.00	5	5	5
17	4.40	4.80	5	5	4
回答者数	10	5			



受講生の傾向

受講生の数は5人と、ソリューションを行ううえでは適正人数であると感じた。
また、学生の授業に対する満足度も高いように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでよりも、授業を学生主導のスタイルにした。
学生の希望によるテーマ設定から学生主導のプレゼンテーションから質疑応答までできるように配慮した。

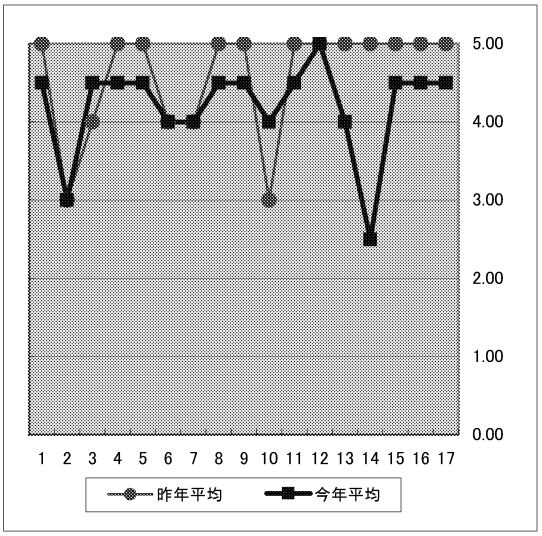
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
学生主導による授業は行われるようになったので、これを継続していきたい。
また、議論に多く参加する学生とそうでない学生とがみられるので、なるべくすべての学生が多く議論に参加するように心がけたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
このソリューションでは、学生主導による授業が比較的成功したように思う。
この形式を維持し、さらに進化させていきたい。

科　　目：プロフェッショナル・ソリューション（松尾クラス）
配当年次：2　　開講時限：火5
受講者数：2　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.00	4	4	4
7	4.00	4.00	4	4	4
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	4.50	4・5	5	4
10	3.00	4.00	4	4	4
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.00	3・5	5	3
14	5.00	2.50	2・3	3	2
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	1	2			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューション受講生の問題意識は非常に明解である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

プロフェッショナル・ソリューションは、財務会計論過去問を手掛かりに出題の背景、意図等を徹底的に分析した。

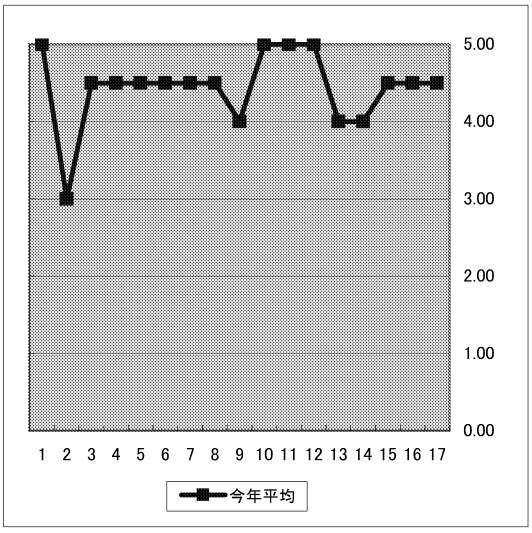
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
財務会計論過去問分析と徹底。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
昨年と同様の方式を踏襲する。

科　　目：論文指導・修士論文（宗岡クラス）
配当年次：2　　開講時限：火5
受講者数：3　　回答者数：2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	5.00	5	5	5
2	−	3.00	3	3	3
3	−	4.50	4・5	5	4
4	−	4.50	4・5	5	4
5	−	4.50	4・5	5	4
6	−	4.50	4・5	5	4
7	−	4.50	4・5	5	4
8	−	4.50	4・5	5	4
9	−	4.00	3・5	5	3
10	−	5.00	5	5	5
11	−	5.00	5	5	5
12	−	5.00	5	5	5
13	−	4.00	3・5	5	3
14	−	4.00	3・5	5	3
15	−	4.50	4・5	5	4
16	−	4.50	4・5	5	4
17	−	4.50	4・5	5	4
回答者数	−	2			



受講生の傾向

意欲が高く、熱心な学生であったが、受験勉強や就職活動に時間を取られ、十分な研究時間を確保することが難しかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

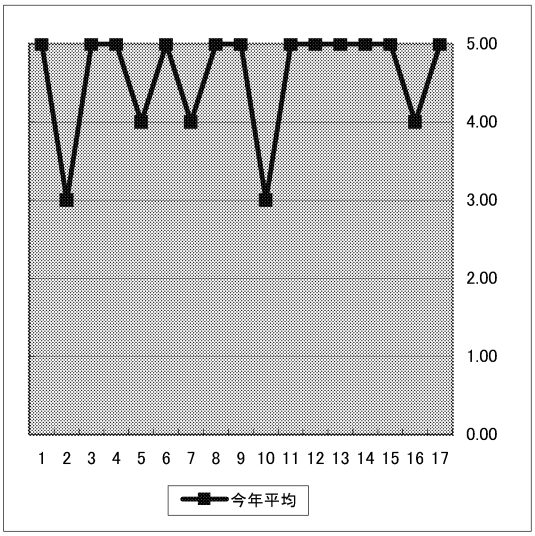
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科　　目：論文指導・修士論文(坂口クラス)
配当年次：2　　開講時限：月1
受講者数：1　　回答者数：1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	−	5.00	5	5	5
2	−	3.00	3	3	3
3	−	5.00	5	5	5
4	−	5.00	5	5	5
5	−	4.00	4	4	4
6	−	5.00	5	5	5
7	−	4.00	4	4	4
8	−	5.00	5	5	5
9	−	5.00	5	5	5
10	−	3.00	3	3	3
11	−	5.00	5	5	5
12	−	5.00	5	5	5
13	−	5.00	5	5	5
14	−	5.00	5	5	5
15	−	5.00	5	5	5
16	−	4.00	4	4	4
17	−	5.00	5	5	5
回答者数	−	1			



受講生の傾向
管理会計の論文を書きたいという学生であり、基本的な知識を十分に備えていた。

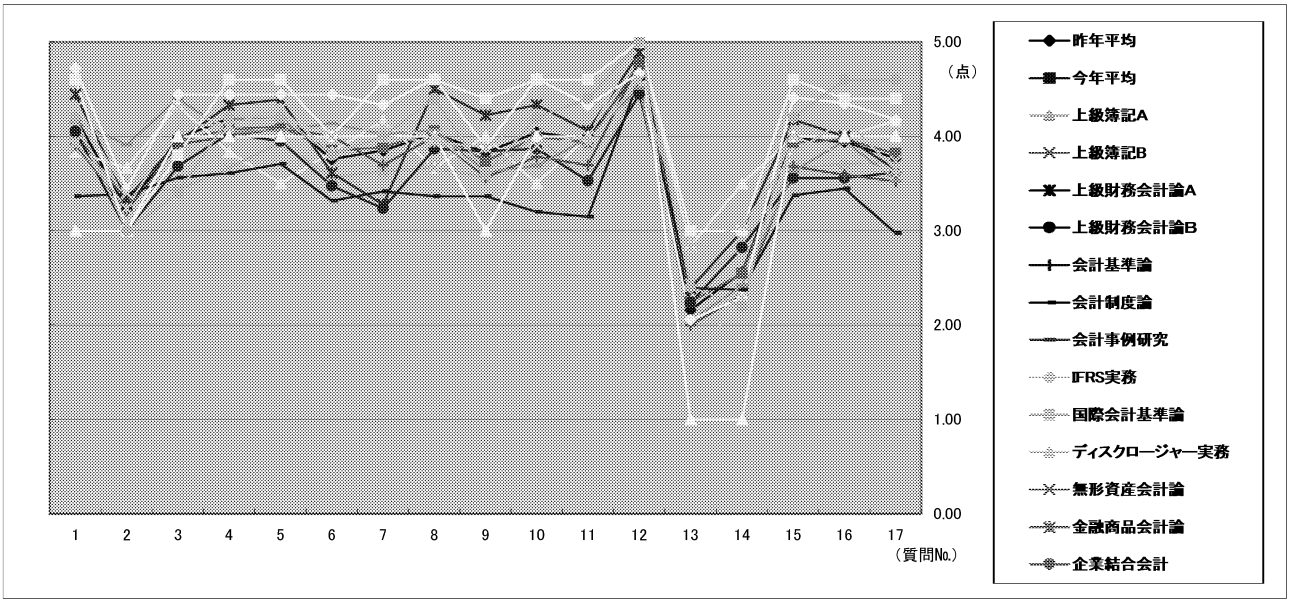
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
昨年度は実施していない。工夫したことは①既存文献のサーベイの仕方と②分析方法についてである。これらについては研究の根幹であるため、ともに文献をサーチし、ともに計算機で数十回と計算した。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
要望と素養があれば今後も同様に対応したい。

系:　　財務会計
受講者数423　　回答者数259

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記A	上級簿記B	上級財務会計論A	上級財務会計論B	会計基準論	会計制度論	会計事例研究	IFRS実務	国際会計基準論	ディスクロージャー実務	無形資産会計論	金融商品会計論	企業結合会計
1	4.20	4.03	3.83	3.87	4.44	4.05	3.91	3.37	4.16	4.72	4.60	3.00	4.30	3.94	4.20
2	3.23	3.31	3.67	3.43	3.33	3.00	3.22	3.39	3.91	3.44	3.00	3.00	3.40	3.24	3.00
3	3.98	3.95	4.33	3.43	3.94	3.68	3.91	3.56	4.40	4.44	3.80	4.00	4.30	4.12	3.40
4	4.19	4.08	3.83	3.67	4.33	4.03	4.00	3.61	4.04	4.44	4.60	4.00	4.10	4.12	4.20
5	4.20	4.11	3.50	3.93	4.39	3.95	4.09	3.71	4.07	4.44	4.60	4.00	4.20	4.29	4.20
6	3.76	3.85	3.83	3.57	3.61	3.47	4.00	3.32	4.13	4.44	4.00	4.00	4.00	3.82	3.80
7	3.85	3.88	4.17	3.63	3.28	3.24	3.70	3.41	4.02	4.33	4.60	4.00	4.10	4.00	4.00
8	4.03	4.05	3.67	3.67	4.50	3.87	4.00	3.37	4.07	4.61	4.60	4.00	4.00	3.94	4.40
9	3.83	3.74	4.00	3.57	4.22	3.84	3.57	3.37	3.62	3.89	4.40	3.00	3.60	3.88	3.60
10	4.04	4.00	3.50	4.03	4.33	3.87	3.78	3.20	3.69	4.61	4.60	4.00	3.90	4.24	4.20
11	3.97	3.94	4.00	3.48	4.06	3.53	3.70	3.15	3.98	4.33	4.60	4.00	4.00	3.94	4.40
12	4.74	4.78	5.00	4.60	4.89	4.45	4.78	4.61	4.51	4.67	5.00	5.00	5.00	4.59	5.00
13	2.16	2.25	2.83	2.43	2.39	2.24	2.00	2.39	2.04	2.06	3.00	1.00	1.60	2.82	2.40
14	2.56	2.55	3.50	2.81	3.00	2.82	2.32	2.38	2.42	2.29	3.00	1.00	2.30	3.06	2.20
15	3.98	3.93	4.00	3.67	4.18	3.56	3.68	3.38	3.63	4.41	4.60	4.00	4.00	3.82	4.20
16	3.94	3.97	4.00	3.70	4.00	3.56	3.59	3.45	3.95	4.35	4.40	4.00	3.80	4.18	4.60
17	3.77	3.82	4.17	3.74	3.65	3.62	3.52	2.98	3.53	4.18	4.40	4.00	3.60	3.65	4.60
回答者数	258	259	6	30	19	39	23	41	45	18	5	1	10	17	5



受講生の傾向

昨年同様、受講人数の少ない科目（回答数が一桁）の満足度が高いことから科目選択の自主性との相関が想像される。これら科目をのぞいてみると、基本科目の評価が相対的に低い一方で、その他科目の評価が相対的に高い。後者の科目は実務的な科目が多いという性格を鑑みると、学生はこれら科目に相対的に高い評価を与えている点を良く分析する必要がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

担当者自身による記述を参照されたい。

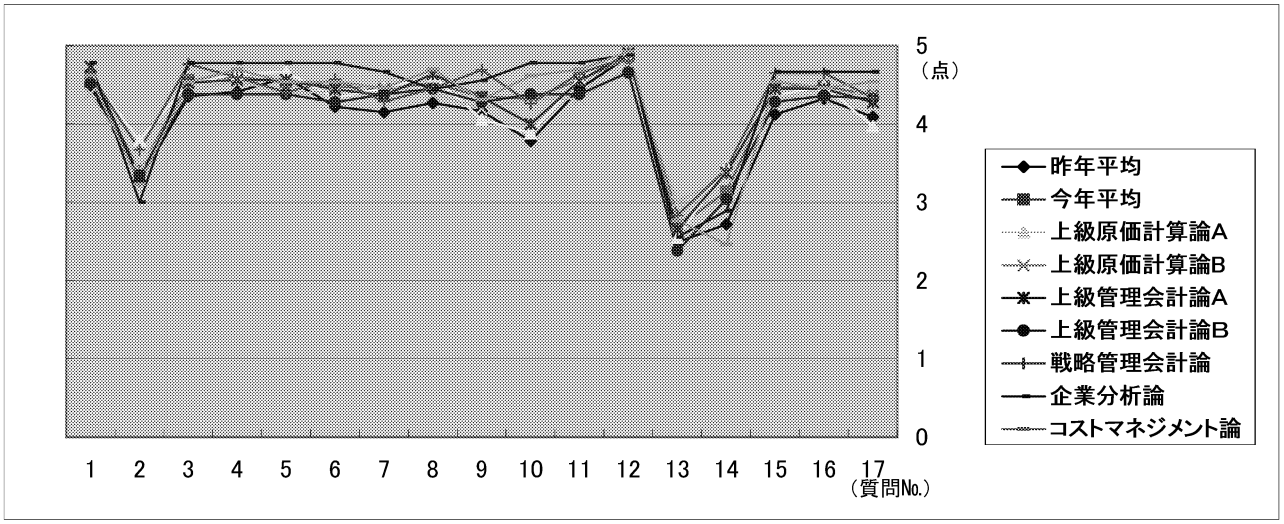
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
担当者自身による記述を参照されたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
担当者自身による記述を参照されたい。

系:　　管理会計
受講者数: 270　　回答者数:　126

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論A	上級原価計算論B	上級管理会計論A	上級管理会計論B	戦略管理会計論	企業分析論	コストマネジメント論
1	4.48	4.61	4.61	4.39	4.73	4.52	4.64	4.78	4.62
2	3.28	3.40	3.79	3.42	3.32	3.34	3.67	3.00	3.23
3	4.35	4.56	4.52	4.42	4.53	4.38	4.76	4.78	4.54
4	4.41	4.60	4.64	4.55	4.56	4.38	4.60	4.78	4.69
5	4.59	4.53	4.67	4.39	4.56	4.38	4.40	4.78	4.54
6	4.22	4.48	4.33	4.42	4.44	4.28	4.57	4.78	4.54
7	4.15	4.44	4.45	4.48	4.37	4.38	4.29	4.67	4.46
8	4.27	4.52	4.61	4.39	4.63	4.45	4.45	4.44	4.69
9	4.16	4.35	4.06	4.19	4.34	4.28	4.69	4.56	4.31
10	3.78	4.32	3.88	4.32	4.00	4.38	4.26	4.78	4.62
11	4.45	4.56	4.58	4.32	4.55	4.38	4.64	4.78	4.69
12	4.86	4.84	4.91	4.71	4.90	4.66	4.86	4.89	4.92
13	2.49	2.68	2.55	3.00	2.66	2.38	2.83	2.56	2.77
14	2.72	3.14	3.45	3.33	3.38	3.04	3.43	2.89	2.46
15	4.12	4.47	4.36	4.33	4.45	4.28	4.65	4.67	4.54
16	4.32	4.49	4.48	4.33	4.45	4.36	4.65	4.67	4.46
17	4.09	4.36	3.97	4.42	4.28	4.32	4.33	4.67	4.54
回答者数	80	200	33	32	41	30	42	9	13



受講生の傾向

基本的な知識を身につけた学生が多かった。ただし、ばらつきは大きくなっているように感じられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各担当教員が個別に対応していると考えられる。

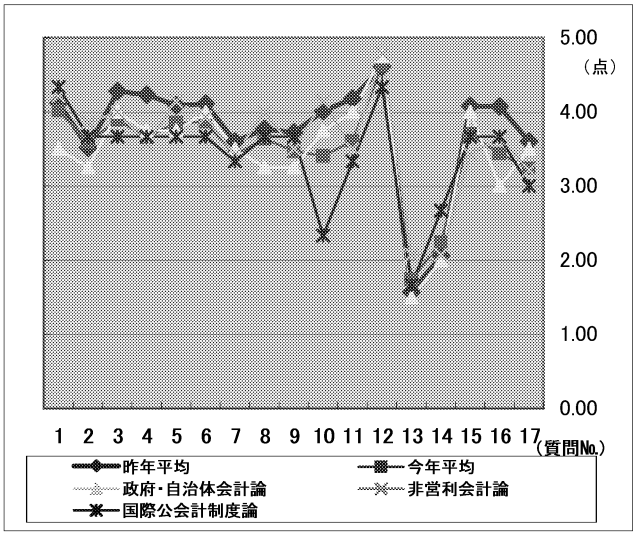
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
今後も学生のニーズにあった授業を提供していきたい。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
全体として情報交換することが必要になると考えられる。

系:　　公会計
受講者数: 38　　回答者数: 22

質問No.	昨年平均	今年平均	政府・自治体会計論	非営利会計論	国際公会計制度論
1	4.12	4.02	3.50	4.21	4.33
2	3.52	3.59	3.25	3.86	3.67
3	4.28	3.89	4.00	4.00	3.67
4	4.23	3.66	3.75	3.57	3.67
5	4.09	3.85	3.75	4.14	3.67
6	4.11	3.87	4.00	3.93	3.67
7	3.60	3.42	3.50	3.43	3.33
8	3.77	3.64	3.25	4.00	3.67
9	3.72	3.47	3.25	3.50	3.67
10	4.01	3.41	3.75	4.14	2.33
11	4.18	3.61	4.00	3.50	3.33
12	4.61	4.62	4.75	4.79	4.33
13	1.57	1.75	1.50	2.07	1.67
14	2.06	2.25	2.00	2.07	2.67
15	4.08	3.70	4.00	3.43	3.67
16	4.07	3.44	3.00	3.64	3.67
17	3.60	3.24	3.50	3.21	3.00
回答者数	24	22	4	15	3



受講生の傾向
講義内容について具体的なイメージを持たないまま受講する学生が多いと見受けられる。

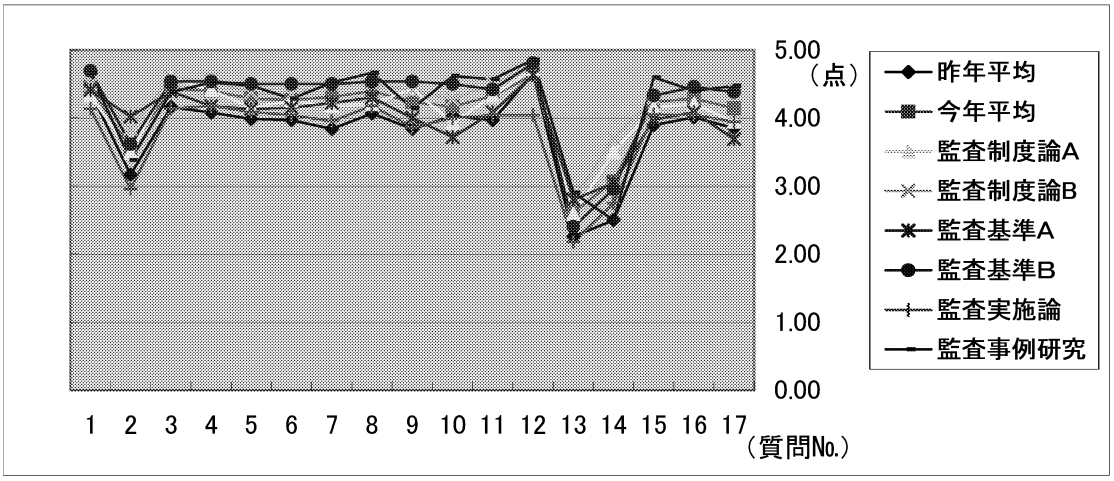
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
社会の動き、日常生活と関連性のある話題から入る工夫をした。

今後の対応
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
少なくとも前向きに講義を理解しようとする者に対しては質問する等して理解度を確認しつつ進めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
日常と関係のある事項について「このようになっているのか」といった理解が得られるように工夫する。

系:　　監査
受講者数:239　　回答者数:　186

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論A	監査制度論B	監査基準A	監査基準B	監査実施論	監査事例研究
1	4.39	4.46	4.33	4.50	4.41	4.69	4.14	4.67
2	3.17	3.55	3.49	3.84	4.02	3.62	2.95	3.38
3	4.16	4.44	4.59	4.59	4.39	4.54	4.14	4.38
4	4.08	4.40	4.41	4.56	4.17	4.54	4.18	4.52
5	3.99	4.29	4.15	4.38	4.13	4.50	4.09	4.48
6	3.97	4.26	4.26	4.34	4.15	4.50	4.05	4.29
7	3.84	4.31	4.18	4.50	4.22	4.50	3.95	4.52
8	4.07	4.40	4.21	4.50	4.30	4.54	4.18	4.67
9	3.84	4.23	4.44	4.41	4.00	4.54	3.86	4.14
10	4.03	4.17	3.92	4.28	3.72	4.50	4.00	4.62
11	3.97	4.33	4.33	4.50	4.09	4.42	4.05	4.57
12	4.65	4.64	4.72	4.75	4.64	4.81	4.05	4.86
13	2.26	2.61	2.59	2.81	2.80	2.40	2.18	2.90
14	2.50	3.08	3.50	3.70	3.04	2.96	2.75	2.50
15	3.90	4.24	4.16	4.30	3.98	4.33	4.05	4.60
16	4.01	4.29	4.21	4.53	4.09	4.46	4.05	4.40
17	3.85	4.14	3.95	4.41	3.69	4.38	3.95	4.47
回答者数	88	186	39	32	46	26	22	21



受講生の傾向

受講生の出席状況（項目12）は、最も低いもので80%、高いもので100%近くとなっており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目（必修科目）以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して利用するための資料を用意・配布しるとともに、学生のモラールを向上させるための措置を講じており、これは2008年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。
また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションで行なわれている。
ただし、「監査基準」「監査実施論」「監査事例研究」において担当者が交代したことにより、前年度との単純な比較は難しい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

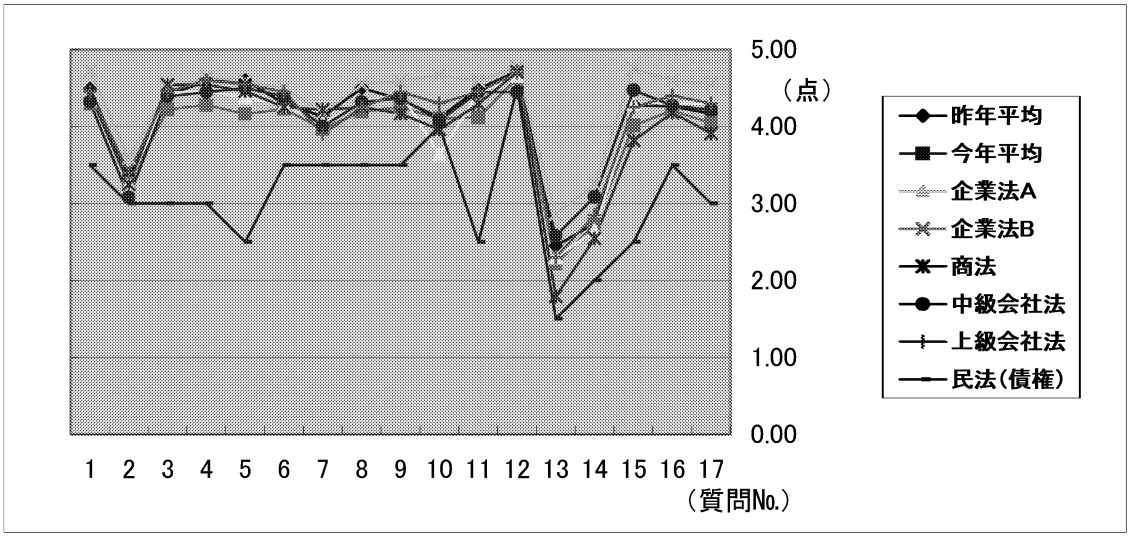
特に基本科目群に属する「監査基準」における学生側の教員の教育態度および手法に対する評価（項目4・5・6）が低くなっていることは重大と受け止められるため、今後、配付資料の分り易さや等の面での教員の側の意識改革が望まれる。
また「監査事例研究」と「保証業務論」は、ケース・スタディやプレゼンテーションによる双方向講義であり、学生のモラールを維持し向上させることが必須である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の授業評価よりも、今年度の授業評価全体を通して学生からの評価は相対的に高くなっており、教員の交代を含め教員側の教育サービスへの対応が評価された結果と理解される。
今後の対応としては、全科目に共通する傾向として予習（項目13）と復習（項目14）について、それらの時間をより多く採らせるための措置として、小テストや課題を課すことが考えられる。

系:　　法律
受講者数: 212　　回答者数: 151

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法A	企業法B	商法	中級会社法	上級会社法	民法(債権)
1	4.49	4.29	4.34	4.73	4.42	4.32	4.45	3.50
2	3.35	3.26	3.25	3.59	3.25	3.08	3.40	3.00
3	4.41	4.22	4.44	4.50	4.54	4.39	4.45	3.00
4	4.59	4.28	4.45	4.64	4.54	4.45	4.60	3.00
5	4.60	4.16	4.39	4.59	4.46	4.50	4.55	2.50
6	4.30	4.23	4.27	4.50	4.25	4.39	4.45	3.50
7	4.13	3.97	4.05	4.18	4.22	4.00	3.90	3.50
8	4.50	4.20	4.32	4.55	4.25	4.32	4.25	3.50
9	4.35	4.25	4.43	4.59	4.17	4.37	4.45	3.50
10	4.12	4.11	3.64	4.67	3.96	4.08	4.30	4.00
11	4.49	4.12	4.43	4.59	4.29	4.45	4.45	2.50
12	4.72	4.63	4.66	4.77	4.71	4.45	4.70	4.50
13	2.45	2.22	2.30	2.86	1.79	2.58	2.30	1.50
14	2.74	2.73	2.65	3.25	2.55	3.09	2.85	2.00
15	4.28	4.01	4.29	4.75	3.82	4.47	4.25	2.50
16	4.26	4.21	4.32	4.60	4.18	4.27	4.40	3.50
17	4.17	4.04	4.29	4.55	3.91	4.22	4.30	3.00
回答者数	126	151	45	22	24	38	20	2



受講生の傾向

法律系の科目では、必修度の低い科目に比べ、必修度の高い科目のほうが学生の理解度は高いようである。
例えば、企業法においては、難易度が高くないということもあり、理解度は高いようである。
また、2年生の配当科目になると、内容も難易度が高くなり複雑になることから、その評価にばらつきがあるようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法律科目全体の連携及び連続性を強化することに努めた。
そうすることによって、1年生の春学期から2年生の秋学期まで、段階的な学習ができるという効果を狙った。

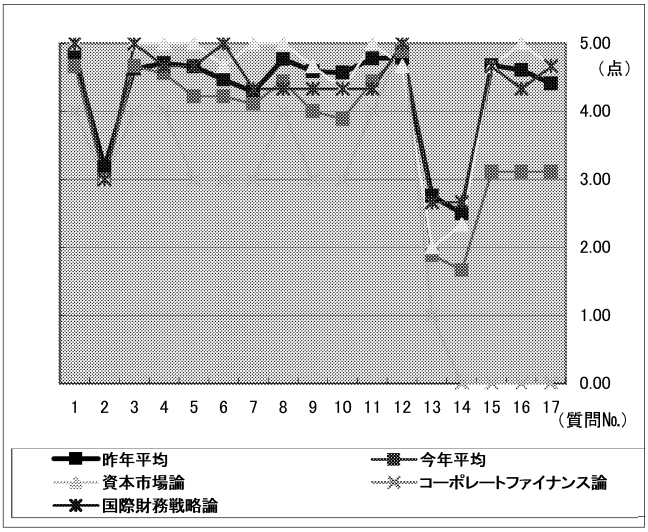
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
法律系の科目間の連携をより一層はかることができるように心がけたい。
法学に対して苦手意識をもちモチベーションの上がらない学生に対して手当てを施す。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
法律科目全体の連携強化をより一層図りたい。
また、そもそも法律科目を苦手とする学生に対して、苦手意識を払拭させるように心がけたい。

系:　　ファイナンス
受講者数: 19　　回答者数: 7

質問No.	昨年平均	今年平均	資本市場論	コーポレートファイナンス論	国際財務戦略論
1	4.80	4.67	5.00	4.00	5.00
2	3.18	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.63	4.67	5.00	4.00	5.00
4	4.71	4.56	5.00	4.00	4.67
5	4.66	4.22	5.00	3.00	4.67
6	4.47	4.22	4.67	3.00	5.00
7	4.29	4.11	5.00	3.00	4.33
8	4.77	4.44	5.00	4.00	4.33
9	4.59	4.00	4.67	3.00	4.33
10	4.57	3.89	4.33	3.00	4.33
11	4.78	4.44	5.00	4.00	4.33
12	4.79	4.89	4.67	5.00	5.00
13	2.76	1.89	2.00	1.00	2.67
14	2.50	1.67	2.33	0.00	2.67
15	4.68	3.11	4.67	0.00	4.67
16	4.61	3.11	5.00	0.00	4.33
17	4.41	3.11	4.67	0.00	4.67
回答者数	56	7	3	1	3



受講生の傾向

ファイナンス系の科目は、公認会計士試験としての科目（コーポレートファイナンス論：経営学の一部）、一般教養的な科目（資本市場論）、きわめて実務的な科目（国際財務戦略論）とさまざまであり、受講者の関心、興味等が様々である。そのため一律に傾向を述べることは難しい。総じて、国際財務戦略論を学習する学生の意欲が高く、その他の科目については必ずしも熱心でないという印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の興味を引くように、専門用語を使わずに解説するように、数学をあまり使わずに講義するように心がけた。

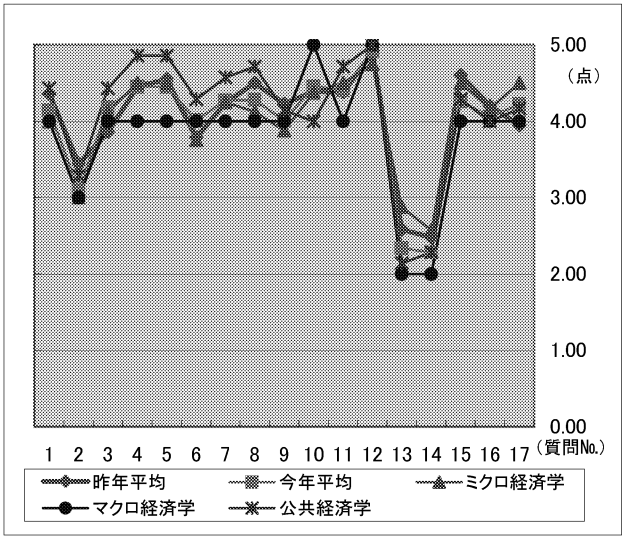
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
授業の準備をより入念に行うとともに、最新の状況について講義できるべく、さまざまな機会を捉えて勉強を行う。
小レポートやディスカッションに工夫を行って、毎回、重要なポイントを理解かつ応用可能なように指導して行く。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
コーポレートファイナンス論は公認会計士試験に対応する力を身につけてもらうため、実際の試験問題を題材とするとともに、数学的な解説を行うほうがよいと考える。経営学は選択科目であり、他の科目の選択を判断するためにも、合格レベルの授業を心がけたい。他の科目は学生の興味を維持し続けるべく、実例や重要ポイント等の解説を行っていくようにしたい。

系:　　経済・統計
受講者数: 30　　回答者数: 16

質問No.	昨年平均	今年平均	ミクロ経済学	マクロ経済学	公共経済学
1	4.36	4.14	4.00	4.00	4.43
2	3.44	3.10	3.00	3.00	3.29
3	3.86	4.18	4.13	4.00	4.43
4	4.45	4.45	4.50	4.00	4.86
5	4.55	4.45	4.50	4.00	4.86
6	3.79	4.01	3.75	4.00	4.29
7	4.24	4.27	4.25	4.00	4.57
8	4.50	4.28	4.13	4.00	4.71
9	4.23	4.01	3.88	4.00	4.14
10	4.39	4.46	4.38	5.00	4.00
11	4.38	4.40	4.50	4.00	4.71
12	4.90	4.92	4.75	5.00	5.00
13	2.58	2.34	2.88	2.00	2.14
14	2.48	2.29	2.57	2.00	2.29
15	4.60	4.26	4.50	4.00	4.29
16	4.20	4.06	4.17	4.00	4.00
17	3.95	4.22	4.50	4.00	4.17
回答者数	16	16	8	1	7



受講生の傾向

経済・統計系の科目の受講生は、2009年には大きく二種類のタイプに分類されるように思われた。まず、学部時代に経済学や数学・統計学を勉強して、それらの科目の理解をさらに深めたいと考えて、経済･統計系の科目を受講する学生と、あまり経済学や統計学を学んだことはないが、公認会計士になってから経済学や統計学は必要な知識であると考えて、初心者として受講してきた学生である。それで、受講生全体では経済学や統計学の基礎知識にある程度の個人差はあるものの、すべて勉強熱心な受講生である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価では、受講生の多くが授業についてほぼ満足したと答えていたので、基本的には授業方針や講義の内容をさらに進展させるように工夫した。具体的には、授業受講生の間で経済学や数学についてある程度の個人差があったので、全員の受講生に理解してもらうように、講義の最初の段階では基礎的な知識と具体的な経済例の説明を行い、その後後半の授業ではレベルを上げてより内容のある講義を行い、学生の能力の向上に努めた。

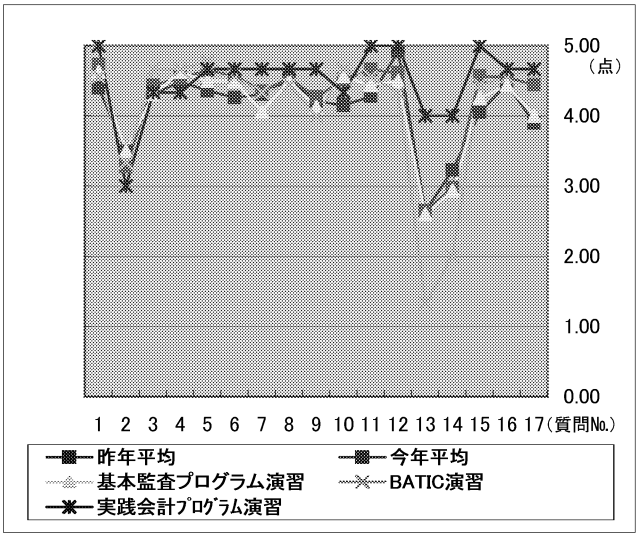
今後の対応

〇昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
院生の応用力を高めるために、今後は多くの宿題と練習問題を課すことにしたい。そして、その解説にはかなりの時間をかけて詳しく説明する予定である。さらに、院生との交流を密接にし、院生の勉学意欲を高めるために、夏休み、春休みも可能なかぎり院生との勉強会を実施する計画である。

〇上記の内容を踏まえた「今後の対応」
経済・統計系の受講生は、今後経済学･数学･統計学の基礎知識のある学生と、ほとんど基礎知識のない学生に二分化する傾向があるので、基礎知識のない学生にも理解できるように講義の前半ではできるだけ簡単に図や経済･経営の例をあげて説明し、後半はやや講義のレベルを上げて、例題などの応用問題をみんなで議論しながら勉強する。

系:　　IT・ﾋﾞｼﾞﾈｽ
受講者数:　43　　回答者数:28

質問No.	昨年平均	今年平均	基本監査プログラム演習	BATIC演習	実践会計ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ演習
1	4.40	4.73	4.63	4.56	5.00
2	3.49	3.28	3.50	3.33	3.00
3	4.31	4.44	4.31	4.67	4.33
4	4.49	4.54	4.63	4.67	4.33
5	4.36	4.65	4.50	4.78	4.67
6	4.26	4.57	4.50	4.56	4.67
7	4.31	4.35	4.06	4.33	4.67
8	4.51	4.54	4.50	4.44	4.67
9	4.21	4.26	4.13	4.00	4.67
10	4.15	4.52	4.56	4.67	4.33
11	4.28	4.66	4.44	4.56	5.00
12	4.92	4.61	4.50	4.33	5.00
13	2.64	2.64	2.60	1.33	4.00
14	3.23	2.98	2.94	2.00	4.00
15	4.05	4.56	4.25	4.44	5.00
16	4.46	4.55	4.44	4.56	4.67
17	3.90	4.44	4.00	4.67	4.67
回答者数	28	28	16	9	3



受講生の傾向

受講生は、全体的に出席率が高く、受講態度も熱心であった。 予習・復習が充分でなくても、講義内容を充分理解できているようであるが、逆にとらえれば、充分な予習・復習がなされていないとも考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

「BATIC演習」「実践会計プログラム演習」は、開講初年度や初めての担当であることから、昨年度の授業評価アンケートを踏まえてコメントすることはできないが、受講生の学習効果が高まるように留意されていた。

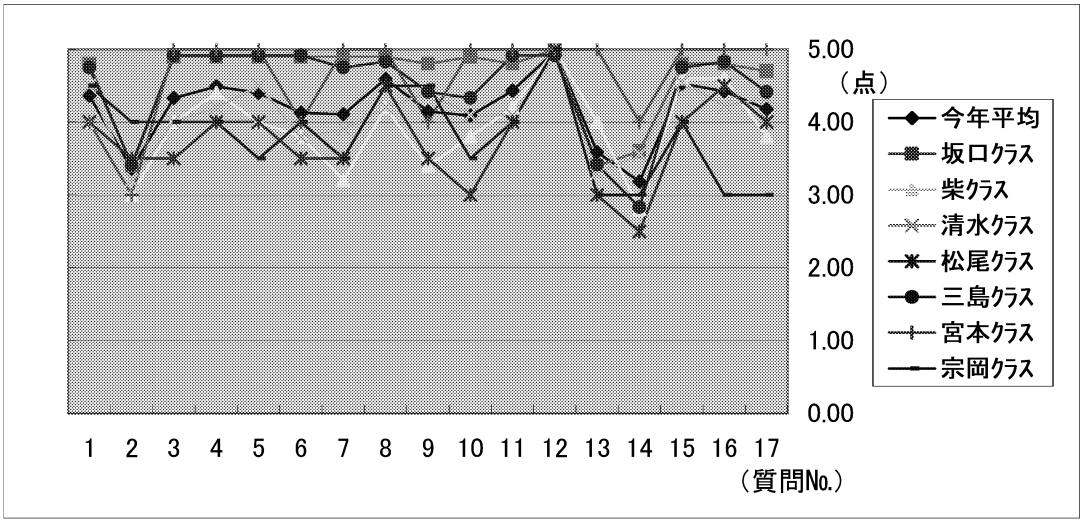
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
引き続き、より学生にわかりやすい学習用教材の作成に努める。学生のレベル差に応じて、課題の要完成レベルを説明するだけでなく、レベルに応じて選択できるような課題を用意する。復習用の課題のレベルおよびボリュームの調整を行い、学生の学習により効率的なモノに改善する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今学期のアンケート結果を踏まえ、受講生の予習・復習に一助となる学習用教材の改善に努める。また、各回の講義の趣旨を明確にし、到達目標を示すことで、受講生の効率的な学習に努める。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)
受講者数: 55　　回答者数: 42

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口ｸﾗｽ	柴ｸﾗｽ	清水ｸﾗｽ	松尾ｸﾗｽ	三島ｸﾗｽ	宮本ｸﾗｽ	宗岡ｸﾗｽ
1	−	4.36	4.80	4.00	4.50	4.00	4.75	4.00	4.50
2	−	3.36	3.40	3.00	3.20	3.50	3.42	3.00	4.00
3	−	4.33	4.90	4.00	4.00	3.50	4.92	5.00	4.00
4	−	4.49	4.90	4.40	4.20	4.00	4.92	5.00	4.00
5	−	4.40	4.90	4.00	4.50	4.00	4.92	5.00	3.50
6	−	4.13	4.90	3.80	3.80	3.50	4.92	4.00	4.00
7	−	4.11	4.90	3.20	3.90	3.50	4.75	5.00	3.50
8	−	4.59	4.90	4.20	4.20	4.50	4.83	5.00	4.50
9	−	4.15	4.80	3.40	4.40	3.50	4.42	4.00	4.50
10	−	4.09	4.90	3.80	4.10	3.00	4.33	5.00	3.50
11	−	4.43	4.80	4.20	4.10	4.00	4.92	5.00	4.00
12	−	4.97	5.00	5.00	4.90	5.00	4.92	5.00	5.00
13	−	3.59	3.40	4.00	3.30	3.00	3.42	5.00	3.00
14	−	3.18	3.60	2.80	3.56	2.50	2.83	4.00	3.00
15	−	4.53	4.80	4.60	4.56	4.00	4.75	5.00	4.00
16	−	4.42	4.80	4.60	4.22	4.50	4.83	5.00	3.00
17	−	4.18	4.70	3.80	4.33	4.00	4.42	5.00	3.00
回答者数	−	42	10	5	10	2	12	1	2



受講生の傾向

この年度は、アカデミックソリューションAについては、全員というわけではないが、ほとんどの学生が履修登録していた。
クラスによって若干のばらつきがみられるが、学生の満足度はおおむね高いようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この年度は、成績によりクラスを振り分けるということを行わず、成績のいかんにかかわらず、学生の希望するクラスを選択できるようにした。

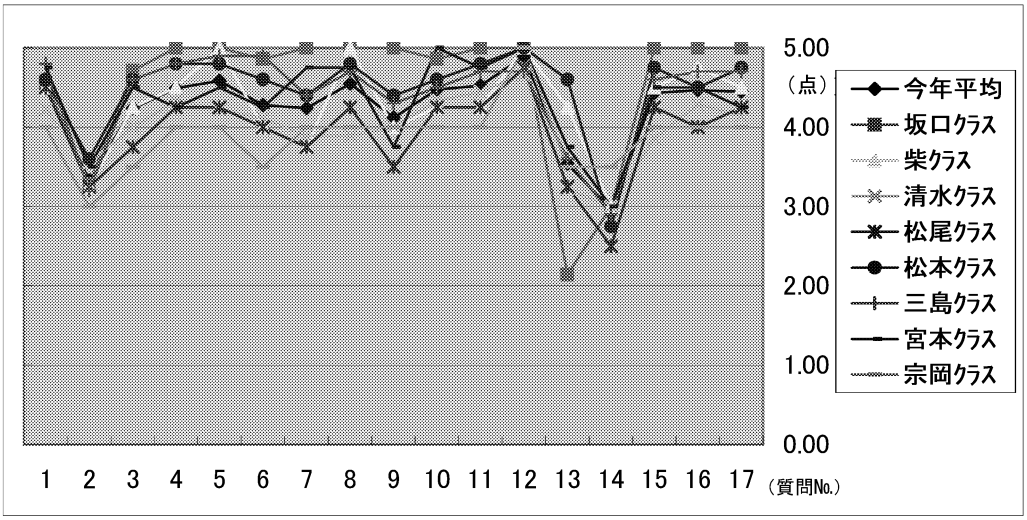
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
個別指導が可能である点で、多くの学生が履修するように心がけたい。
通年科目から半期科目にすることで、学生のニーズに合わせた制度とする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
今後も、この科目の性質上、まずはほとんど全員の学生が履修するよう心がけたい。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)
受講者数: 62　　回答者数: 47

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口ｸﾗｽ	柴ｸﾗｽ	清水ｸﾗｽ	松尾ｸﾗｽ	松本ｸﾗｽ	三島ｸﾗｽ	宮本ｸﾗｽ	宗岡ｸﾗｽ
1	−	4.49	4.57	4.50	4.22	4.50	4.60	4.80	4.75	4.00
2	−	3.33	3.29	3.25	3.56	3.25	3.60	3.20	3.50	3.00
3	−	4.24	4.71	4.25	4.00	3.75	4.60	4.60	4.50	3.50
4	−	4.49	5.00	4.50	4.33	4.25	4.80	4.80	4.25	4.00
5	−	4.58	5.00	5.00	4.22	4.25	4.80	4.90	4.50	4.00
6	−	4.28	4.86	4.00	4.11	4.00	4.60	4.90	4.25	3.50
7	−	4.24	5.00	3.75	3.89	3.75	4.40	4.40	4.75	4.00
8	−	4.55	5.00	5.00	3.89	4.25	4.80	4.70	4.75	4.00
9	−	4.12	5.00	4.00	4.00	3.50	4.40	4.30	3.75	4.00
10	−	4.47	4.86	4.25	4.33	4.25	4.60	4.50	5.00	4.00
11	−	4.52	5.00	4.25	4.44	4.25	4.80	4.70	4.75	4.00
12	−	4.89	5.00	5.00	4.67	4.75	5.00	4.70	5.00	5.00
13	−	3.54	2.14	4.25	3.22	3.25	4.60	3.60	3.75	3.50
14	−	2.96	3.00	3.00	3.00	2.50	2.75	2.90	3.00	3.50
15	−	4.43	5.00	4.50	3.86	4.25	4.75	4.60	4.50	4.00
16	−	4.47	5.00	4.75	4.29	4.00	4.50	4.70	4.50	4.00
17	−	4.45	5.00	4.50	4.14	4.25	4.75	4.70	4.25	4.00
回答者数	−	47	7	4	9	4	5	10	4	4



受講生の傾向

春学期のアカデミックソリューションAに比べて、秋学期のアカデミックソリューションBのほうが秋学期入学生の影響もあって履修登録者が増加している。
秋学期の履修登録変更でクラスを変更する学生が若干見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミックソリューションAと同様に、成績によりクラスを振り分けるということを行わず、成績のいかんにかかわらず、学生の希望するクラスを選択できるようにした。

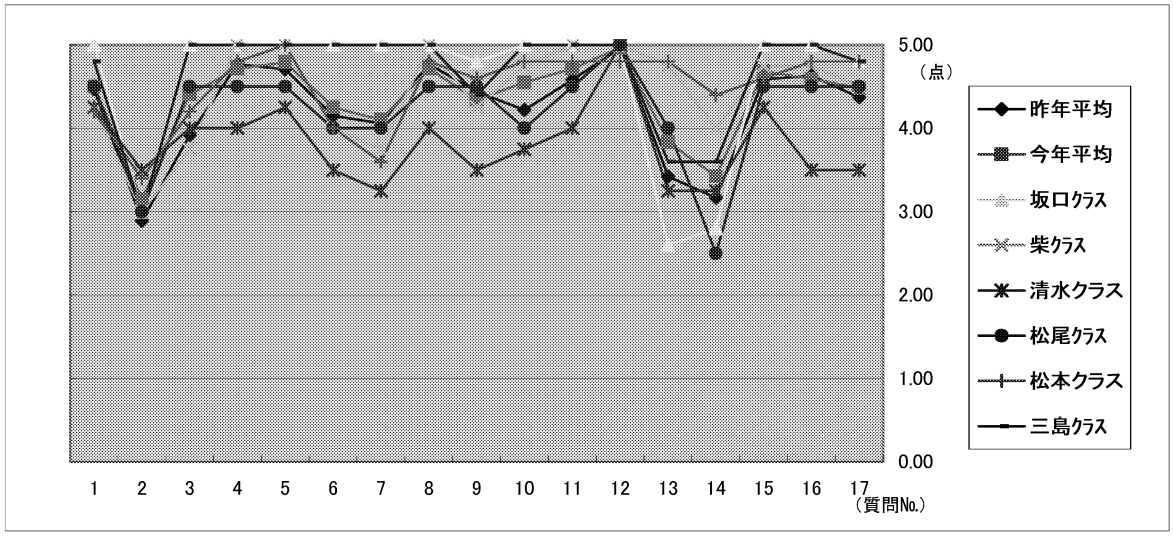
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
個別指導が可能である点で、多くの学生が履修するように心がけたい。
通年科目から半期科目にすることで、学生のニーズに合わせた制度とする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
この年度は、受講者が62名という多い人数であったので、今後も受講生が多い状況を維持していきたい。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューション)
受講者数: 25　　回答者数: 25

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口ｸﾗｽ	柴ｸﾗｽ	清水クラス	松尾ｸﾗｽ	松本クラス	三島ｸﾗｽ
1	4.47	4.50	5.00	4.25	4.25	4.50	4.20	4.80
2	2.89	3.15	3.00	3.00	3.50	3.00	3.40	3.00
3	3.92	4.41	5.00	3.75	4.00	4.50	4.20	5.00
4	4.77	4.72	5.00	5.00	4.00	4.50	4.80	5.00
5	4.71	4.79	5.00	5.00	4.25	4.50	5.00	5.00
6	4.15	4.25	5.00	4.00	3.50	4.00	4.00	5.00
7	4.06	4.10	5.00	3.75	3.25	4.00	3.60	5.00
8	4.77	4.72	5.00	5.00	4.00	4.50	4.80	5.00
9	4.44	4.34	4.80	4.25	3.50	4.50	4.60	4.40
10	4.22	4.55	5.00	4.75	3.75	4.00	4.80	5.00
11	4.58	4.72	5.00	5.00	4.00	4.50	4.80	5.00
12	4.96	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	4.80	5.00
13	3.42	3.83	2.60	4.75	3.25	4.00	4.80	3.60
14	3.17	3.43	2.80	4.00	3.25	2.50	4.40	3.60
15	4.59	4.68	5.00	4.75	4.25	4.50	4.60	5.00
16	4.63	4.59	5.00	4.75	3.50	4.50	4.80	5.00
17	4.37	4.48	4.80	4.50	3.50	4.50	4.80	4.80
回答者数	23	25	5	4	4	2	5	5



受講生の傾向

受講生の人数が少なかった。
アカデミックソリューションは履修したが、プロフェッショナルソリューションは履修しないという学生も多く見られた。
授業に関しては、先生によってばらつきはあるが、おおむね学生の満足度は高いようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミックソリューションから受講する学生とそうでない学生が受講するケースがあったが、両方の学生の学力や勉強状況に合わせた授業をおこなった。

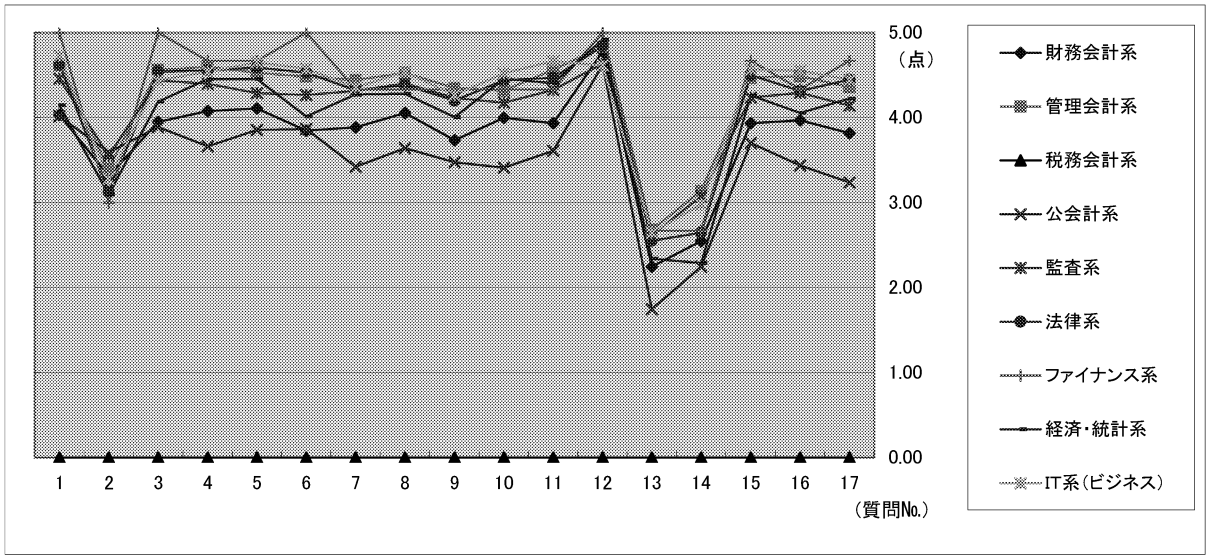
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
プロフェッショナルソリューションでは、アカデミックソリューションと異なり履修登録者数が少なく、より多くの学生が履修するようにしたい。
アカデミックソリューションから受講する学生とそうでない学生とが混在するなかで、どちらの学生にとっても満足のいくような授業を心がけたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
プロフェッショナルソリューションにおいても、多くの学生が履修をするという状況の中で、きめ細かな指導ができるように心がけたい。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT系（ビジネス）
1	4.03	4.61	−	4.02	4.46	4.62	−	5.00	4.14	4.73
2	3.31	3.40	−	3.59	3.55	3.12	−	3.00	3.10	3.28
3	3.95	4.56	−	3.89	4.44	4.54	−	5.00	4.18	4.44
4	4.08	4.60	−	3.66	4.40	4.55	−	4.67	4.45	4.54
5	4.11	4.53	−	3.85	4.29	4.59	−	4.67	4.45	4.65
6	3.85	4.48	−	3.87	4.26	4.53	−	5.00	4.01	4.57
7	3.88	4.44	−	3.42	4.31	4.32	−	4.33	4.27	4.35
8	4.05	4.52	−	3.64	4.40	4.38	−	4.33	4.28	4.54
9	3.74	4.35	−	3.47	4.23	4.20	−	4.33	4.01	4.26
10	4.00	4.32	−	3.41	4.17	4.44	−	4.33	4.46	4.52
11	3.94	4.56	−	3.61	4.33	4.47	−	4.33	4.40	4.66
12	4.78	4.84	−	4.62	4.64	4.84	−	5.00	4.92	4.61
13	2.25	2.68	−	1.75	2.61	2.55	−	2.67	2.34	2.64
14	2.55	3.14	−	2.25	3.08	2.64	−	2.67	2.29	2.98
15	3.93	4.47	−	3.70	4.24	4.50	−	4.67	4.26	4.56
16	3.97	4.49	−	3.44	4.29	4.31	−	4.33	4.06	4.55
17	3.82	4.36	−	3.24	4.14	4.44	−	4.67	4.22	4.44
回答者数	259	200	−	22	186	47	−	3	16	28



受講生の傾向

出席率は非常に高い（No.12）が、予習復習に充てる時間が短い（No.13とNo.14)という傾向はどの科目にも見られるし、全体的な傾向としても数年来変わりはない。出席意欲の高さに反して自習意欲の低さをどう見るかが重要である。これら姿勢と連動して考える必要があるかもしれない項目に授業の進度（No.2)がある。昨年同様に公会計系が速過ぎると感じ取られている。昨年は適度だと感じられていた監査系と管理会計系が早いと評価され、逆に、昨年は早いと評価されていた経済・統計系とIT系がともに適度と評価される方向へ変化した。1年でこのように入れ替えが多かったのは本年の特徴である。さらに、教員の姿勢（No.10まで）には平均的には満足していると読み取れるが、それでも系によってばらつきがある。以上の結果として、授業の満足度（no.11）と授業の理解度（no.17）が決まってくる。これによると公会計系の低さに対してその原因を探る必要がある。

今後の対応

系列別、あるいは、全系列平均で見ると、個別科目の特徴が見えなくなるので、この評価にとどまらず、個別科目の担当教員による自己評価を合わせて読む必要がある。昨年度も指摘したが担当者が自ら示す対応策の実施を望みたい。同じ担当者が継続して担当している場合は前年度と大きくかけ離れることは少ないが、担当者の変更時に変化が見られる。このことは、前任者との対比でどこに問題が存するかが読み取れる絶好の機会である。こうしたことも含めてFD活動の活発化が望まれる。

Ⅳ. 21 年度　授業評価アンケートフォーム

「会計大学院学生による授業評価」アンケート

Ⅰ．授業の評価
Ⅱ．授業への取組み
Ⅲ．自由記述（授業についての感想等）

Ⅰ．授業の評価

1）授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

2）この授業の進度はどうでしたか。
5．かなり早い
4．早い
3．ちょうどよい
2．遅い
1．かなり遅い

3）この授業は教員によってよく準備されていましたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

4）学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

5）この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

6）教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

7）ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

8）教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

9）宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

１０）この授業のクラスの規模は適切でしたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

１１）全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
5．強くそう思う
4．そう思う
3．どちらともいえない
2．そう思わない
1．全くそう思わない

Ⅱ．授業への取組み
１２）この授業への出席状況はどうでしたか。
5．９０％以上
4．７０％以上
3．５０％以上
2．３０％以上
1．３０％未満

１３）この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
5．２時間以上
4．１時間３０分程度
3．１時間程度
2．３０分程度
1．０時間

１４）この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
５．２時間以上
４．１時間３０分程度
３．１時間程度
２．３０分程度
１．０時間

１５）この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。
５．強くそう思う
４．そう思う
３．どちらともいえない
２．そう思わない
１．全くそう思わない

１６）この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。
５．強くそう思う
４．そう思う
３．どちらともいえない
２．そう思わない
１．全くそう思わない

１７）あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。
５．強くそう思う
４．そう思う
３．どちらともいえない
２．そう思わない
１．全くそう思わない

Ⅲ.
１００）自由記述欄（授業についての感想等を記入してください。）

――以上――

ご協力ありがとうございました。

V. 講 演 会

2009年度　関西大学会計研究科客員教授等講演会開催一覧

□第１回会計ルネサンス・フォーラム
～会計・監査制度における日本の選択～
［平成21年7月1日（水）開催］
八田進二氏
関西大学大学院会計研究科客員教授
（青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授）
演題「会計孤児にならないために日本が進むべき道」
藤沼亜起氏
関西大学大学院会計研究科客員教授
（中央大学大学院戦略経営研究科特任教授）
演題「日本の選択における公認会計士の役割」
平松一夫氏
関西大学大学院会計研究科教育顧問兼客員教授
（関西学院大学商学部教授）
演題「IFRSのアドプションをめぐる課題と展望」

□元内閣府特命担当大臣（少子化、男女共同参画）
日本学術会議会員（政治学）　猪口邦子政治学博士
演題「政治と予算－新時代の政策決定過程－」
［平成21年11月25日（水）開催］

□関西大学会計専門職大学院客員教授・株式会社みずほ銀行頭取　西堀利氏
演題「ポスト金融危機の世界はどうなる？」
［平成21年12月18日（金）開催］

□慶応義塾大学教授、元総務大臣・郵政民営化担当大臣
グローバルセキュリティ研究所所長
関西大学会計専門職大学院客員教授　竹中平蔵氏
演題「政権交代と経済政策」
［平成22年2月20日（土）開催］

□日本学術振興会理事長・元文部科学事務次官
関西大学会計専門職大学院教育顧問兼客員教授　小野元之氏
演題「我が国の大学改革の課題」
［平成22年3月16日（火）開催］

□あずさ監査法人代表社員　園木　宏氏
演題「不適切会計の事例と会計士の責任」
［平成22年3月27日（土）開催］

関西大学会計専門職大学院

第１回会計ルネサンス・フォーラム

～会計・監査制度における日本の選択～

関西大学会計専門職大学院では、本大学院の客員教授をお招きし、下記のとおり第１回会計ルネサンス・フォーラムを開催します。学部生・大学院生・教職員・学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

＜日　時＞　平成 21 年 7 月 1 日（水）14:40～17:50

＜場　所＞　関西大学千里山キャンパス
第１学舎１号館１階　千里ホールA

＜内　容＞　第１部（14:40）報告会　第２部（16:15）討論会

報告者・パネリスト紹介



八田進二　氏　関西大学大学院会計研究科客員教授
（青山学院大学大学院会計ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾝ研究科教授）
報告テーマ「会計孤児にならないために日本が進むべき道」



藤沼亜起　氏　関西大学大学院会計研究科客員教授
（中央大学大学院戦略経営研究科特任教授）
報告テーマ「日本の選択における公認会計士の役割」



平松一夫　氏　関西大学大学院会計研究科教育顧問兼客員教授
（関西学院大学商学部教授）
報告テーマ「IFRS のアドプションをめぐる課題と展望」

◆ 入場無料　◆ 事前申込不要

◆ この講演会は、CPE登録の講演会 3 単位です。

◆ 多数の方のご来聴をお待ちしています。



総合司会
宮本　勝浩
関西大学大学院
会計研究科教授



討論会座長
柴　健次
関西大学大学院
会計研究科長

＜お問合せ先＞　関西大学専門職大学院事務グループ　電話 06-6368-1121(代表)

THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

猪口邦子政治学博士学術講演会

元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画)、日本学術会議会員(政治学)

関西大学会計専門職大学院、政策創造学部では、下記のとおり講演会を開催します。



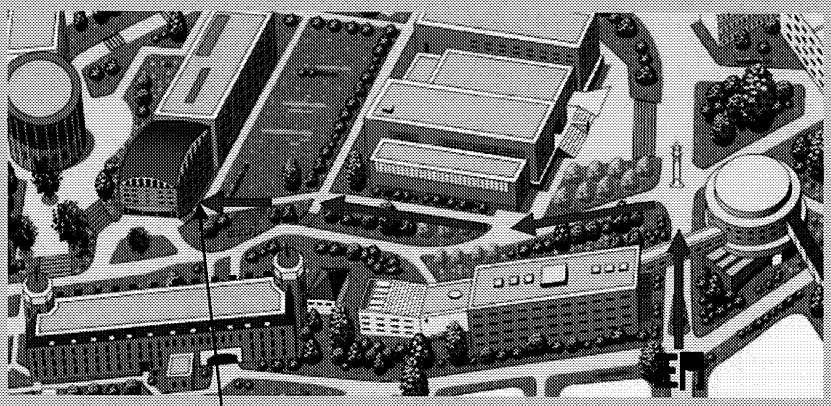
記

日時：平成 21 年 11 月 25 日（水）
16:20～17:50（第 5 時限）

場所：関西大学千里山キャンパス
尚文館 1 階　マルチメディアＡＶ大教室

演題：「政治と予算―新時代の政策決定過程―」

- **聴講自由　多数の方のご来聴をお待ちしています。**
- **事前の申込みは不要です。**



尚文館1階マルチメディアAV大教室

お問合せ先：会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
http://www.kansai-u.ac.jp/as/

THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

西堀　利　客員教授
株式会社みずほ銀行頭取

関西大学会計専門職大学院では、みずほ銀行頭取の西堀　利氏をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

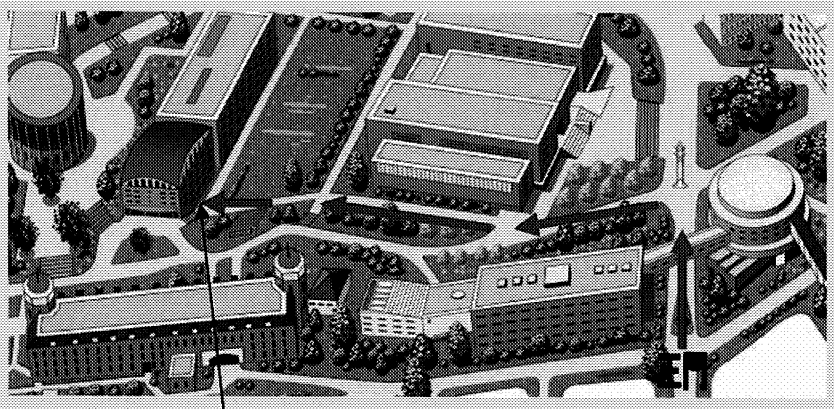
記

日時：平成 21 年 12 月 18 日（金）16:20～17:50（第 5 時限）

場所：関西大学千里山キャンパス
尚文館 1 階　マルチメディアＡＶ大教室

演題：「 ポスト金融危機の世界はどうなる？ 」

- **聴講自由　多数の方のご来聴をお待ちしています。**
- **事前の申込みは不要です。**



尚文館1階マルチメディアAV大教室

お問合せ先：会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
http://www.kansai-u.ac.jp/as/

会計専門職大学院

竹中平蔵 客員教授講演会

会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授、元総務大臣・郵政民営化担当大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。学部生・大学院生・教職員・学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

日時：2月20日（土）11:00～12:00

場所：千里山キャンパス

第３学舎４号館ソシオＡＶ大ホール

講師：竹中平蔵氏（関西大学会計専門職大学院客員教授）

演題：「政権交代と経済政策」

◆ 聴講自由・事前申込は不要です。



お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
http://www.kansai-u.ac.jp/as/

THINK × ACT
関西大学
KANSAI UNIVERSITY

会計専門職大学院
小野元之 客員教授講演会

関西大学会計専門職大学院では、日本学術振興会理事長・元文部科学事務次官の小野元之教育顧問兼客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

学部生・大学院生・教職員・学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

日時：３月16日(火)16:20～17：50

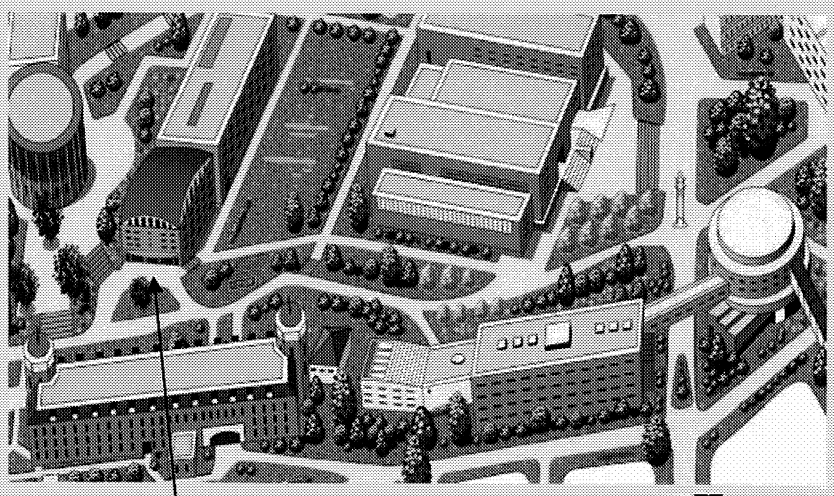
場所：千里山キャンパス　尚文館５階５０２講義室

講師：小野元之氏

（関西大学会計専門職大学院教育顧問兼客員教授）

演題：「我が国の大学改革の課題」

◆ 聴講自由・事前申込は不要です。



尚文館　5階502講義室

正門

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代)
http://www.kansai-u.ac.jp/as/

会計専門職大学院

入学前教育指導講演会

園木　宏　氏

（関西大学会計専門職大学院客員教授）

演題「不適切会計の事例と会計士の責任
～みなさんに期待するもの～」

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680　大阪府吹田市山手町３丁目３番３５号

電話　（０６）６３６８－１１２１（代表）

Fax　（０６）６３６８－０６１０